

# 北若松原遺跡 若松原南遺跡

令和元年12月

宇都宮市教育委員会

## 序

北若松原遺跡は、塚山古墳群から東に0.5kmの宇都宮市北若松原1丁目に所在する遺跡です。また、若松原南遺跡は、宇都宮市若松原2丁目に所在する宇都宮市立若松原中学校の南側に広がる遺跡です。周囲は、先述の古墳以外に、二軒屋遺跡、若松原遺跡、西原北遺跡など、縄文時代から平安時代にかけての遺跡が密集するエリアになります。

北若松原遺跡については、平成3年度と平成5年度に計画された2件の大型店舗建設に伴い、影響を受けることとなった本遺跡の取り扱いにつきまして、事業者をはじめ、関係機関との協議の上、記録保存のための発掘調査を実施することとなりました。その結果、古墳～平安時代の住居跡が28軒確認され、塚山古墳群の造営期間中に営まれた集落の一部を記録保存することができました。

若松原南遺跡については、近隣の宅地開発等の結果、交通量が増大した市道749号線の拡幅工事に伴い、市教育委員会と市道路建設課で協議の結果、記録保存のための発掘調査を実施することとなりました。その結果、古墳時代の竪穴住居跡7軒、掘立柱建物跡3棟が確認され、雀宮地区の古代の歴史を知るうえで、貴重な資料を得ることができました。

本報告書は、それぞれの発掘調査において得られた成果をまとめたものであり、多くの方々さまざまな方面でご活用いただければ幸いです。

最後になりますが、埋蔵文化財の取り扱い協議から発掘調査、そして報告書作成・刊行に至るまで多大なるご協力とご理解をいただきました関係各位、関係機関に対しまして、厚く御礼申し上げます。

令和元年12月

宇都宮市教育委員会

教育長 小堀茂雄

## 例 言

- 1 本報告書は、栃木県宇都宮市北若松原1丁目に所在する北若松原遺跡と宇都宮市若松原3丁目に所在する若松原南遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 北若松原遺跡の発掘調査は下表に示すとおり平成3年(第1次調査)と5年(第2次調査)、いずれも大型店舗建設に伴う事前調査として実施したものである。調査の実施に当たってはいずれも事業主の依頼により宇都宮市教育委員会が調査主体となり、費用は事業主が負担した。

調査年次	調査期間	所在地	調査の原因	事業主
第1次調査	平成3年4月2日～ 5月10日	北若松原1丁目 1665-10他	大型店舗建設	とちぎコープ生活協同 組合
第2次調査	平成5年5月13日～ 11月30日	北若松原1丁目 1497-16他	大型店舗建設	(株)ヨークベニマル

また若松原南遺跡の発掘調査は、宇都宮市道の拡幅工事に伴う事前調査で、平成19年10月16日～平成20年2月12日に実施したものである。

- 3 調査対象面積は、北若松原遺跡の第1次調査が約2,500㎡、第2次調査が約13,000㎡、若松原南遺跡が約1,000㎡である。
- 4 北若松原遺跡の発掘調査における測量及び写真撮影等は神野安伸・梁木誠が、若松原南遺跡の発掘調査における測量及び写真撮影等は今平利幸がこれにあたった。また本報告書作成に伴う遺構・遺物の整理及び写真撮影等は、森千鶴子、斎藤詩穂、角田祥一の協力を得て、澁谷麻友子・梁木がこれにあたった。
- 5 本書の編集・執筆は、近藤真との協議を踏まえ、梁木と澁谷がこれにあたった。
- 6 本遺跡出土の遺物及び図面・写真等の記録類は、宇都宮市教育委員会が保管している。
- 7 発掘調査の関係者は次のとおりである。

○北若松原遺跡発掘調査時(平成3年度・5年度)

[指導助言]

宇都宮市文化財保護審議委員会委員		堀 静夫
”		大金宣亮
”		橋本澄朗
宇都宮市教育委員会 教育長		藤田昌平
	教育次長	近能忠良
(調査担当)	文化課長	安達光政(平成3年度)、横堀杉生(平成5年度)
	文化財保護係長	定岡明義
	文化財保護係	手塚英男・梁木 誠・大塚雅之・小松俊雄・神野 安伸・今平利幸・吉澤宣行(嘱託)

○若松原南遺跡発掘調査時(平成19年度)

[指導助言]

宇都宮市文化財保護審議委員会委員	堀 静夫
”	橋本澄朗

宇都宮市教育委員会	教育長	伊藤文雄
	教育次長	高井 徹
(調査担当)	文化課長	篠崎 茂
	文化課長補佐	篠原 豊
	文化財保護係長	大塚雅之
	文化財保護係	富川 努・神野安伸・今平利幸・君島直人・須田浩太郎・前原義之・井上俊邦・黒須 寛・寛 芳子

○報告書作成時（令和元年度）

[指導助言]

宇都宮市文化財保護審議委員会委員	橋本澄朗	
〃	竹澤 謙	
宇都宮市教育委員会	教育長	小堀茂雄
	教育次長	菊地康夫
(調査担当)	文化課長	山口達雄
	文化課主幹	今平利幸
	文化財保護グループ係長	前原義之
	文化財保護グループ	近藤 真・竹下 亘・星野治彦・清地良太・田中宏迪・柳川実咲・齋藤なつの・高橋直也・梁木 誠（嘱託）・澁谷麻友子（嘱託）

- 8 発掘調査の実施並びに本書の作成にあたっては、栃木県教育委員会の指導を受けるとともに、次の諸機関及び諸氏のご指導・ご協力を賜った。記して感謝の意を表する。（敬称略、順不同）  
 栃木県立博物館、(公財)とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター、小島豪市郎

## 凡 例

- 1 押図の縮尺は、原則として竪穴住居跡を1/60とし、遺物は土器を1/3、鉄製品を1/2、石製品を原寸で示した。また、遺物実測図番号は造構平・断面図の番号及び図版の番号と一致する。
- 2 断面図基準線は標高であり、平面図の方位は磁北を示す。
- 3 造構実測図の土層説明においては、次の略号を使用した。  
 ローム粒：LR、ロームブロック：LB、七本桜パミス：SP、今市パミス：IP、炭化物：C、  
 焼土粒：SY、焼土ブロック：SYB、カクラン：K、石：S
- 4 造構においては次の略号を使用した。  
 竪穴住居跡：SI、土坑：SK  
 なお、北若松原遺跡第1次調査の竪穴住居跡（1～4号竪穴住居と呼称）4軒と土坑（1号土坑と呼称）1基については、第2次調査からの連番とし、以下のように改名した。  
 1号住居跡→SI25、2号住居跡→SI26、3号住居跡→SI27、4号住居跡→SI28、1号土坑→SK17
- 5 竪穴住居跡平面図の網掛けは焼土を示す。

# 目 次

・序・例言・凡例

## 第1章 北若松原遺跡

### I はじめに

- 1 調査の経過..... 1
- 2 遺跡の環境..... 2

### II 遺構と遺物

- 1 竪穴住居跡..... 6
- 2 土坑..... 17

### III おわりに

- 1 出土土器について..... 90
- 2 竪穴住居跡について..... 91
- 3 集落について..... 92

## 第2章 若松原南遺跡

### I はじめに

- 1 調査の経過..... 93
- 2 遺跡の環境..... 93

### II 遺構と遺物

- 1 竪穴住居跡..... 94
- 2 掘立柱建物跡..... 96
- 3 柱穴列..... 96
- 4 土坑..... 97

### III おわりに..... 110

・報告書抄録

・写真図版 P L 2 8

# 挿 図 目 次

## (北若松原遺跡)

第1図	遺跡位置図	1	第40図	SI27	46
第2図	周辺の遺跡分布図	3	第41図	SI28	47
第3図	調査地区図	18・19	第42図	土坑集成図	48
第4図	遺構配置図	18・19	第43図	SI02出土遺物	49
第5図	SI01	20	第44図	SI03出土遺物	50
第6図	SI02	21	第45図	SI04出土遺物	49
第7図	SI02カマド	21	第46図	SI05出土遺物	51
第8図	SI03	22	第47図	SI06出土遺物	52
第9図	SI03カマド	22	第48図	SI07出土遺物(1)	53
第10図	SI04	20	第49図	SI07出土遺物(2)	54
第11図	SI05	23	第50図	SI08出土遺物	49
第12図	SI06	24	第51図	SI09出土遺物	55
第13図	SI07	25	第52図	SI10出土遺物	56
第14図	SI08	26	第53図	SI11出土遺物	55
第15図	SI09	27	第54図	SI12出土遺物(1)	57
第16図	SI10	28	第55図	SI12出土遺物(2)	58
第17図	SI11	25	第56図	SI12出土遺物(3)	59
第18図	SI12	29	第57図	SI13出土遺物	60
第19図	SI13	30	第58図	SI14出土遺物	61
第20図	SI14	31	第59図	SI15出土遺物	62
第21図	SI14カマド	31	第60図	SI16出土遺物(1)	63
第22図	SI15	32	第61図	SI16出土遺物(2)	62
第23図	SI15カマド	32	第62図	SI17出土遺物	64
第24図	SI16(1)	33	第63図	SI18出土遺物	67
第25図	SI16(2)	34	第64図	SI19出土遺物(1)	65
第26図	SI17(1)	35	第65図	SI19出土遺物(2)	66
第27図	SI17(2)	36	第66図	SI20出土遺物	66
第28図	SI18	37	第67図	SI21出土遺物	67
第29図	SI19	38・39	第68図	SI22出土遺物	68
第30図	SI19カマド	38・39	第69図	SI23出土遺物	69
第31図	SI20	40	第70図	SI24出土遺物	70
第32図	SI21	40	第71図	SI25出土遺物(1)	71
第33図	SI22	37	第72図	SI25出土遺物(2)	72
第34図	SI23	41	第73図	SI26出土遺物(1)	73
第35図	SI24	42	第74図	SI26出土遺物(2)	72
第36図	SI25(1)	43	第75図	SI27出土遺物	74
第37図	SI25(2)	44	第76図	SI28出土遺物	75
第38図	SI26(1)	45	第77図	SK10・その他出土遺物	75
第39図	SI26(2)	44			

(若松原南遺跡)

第78図 調査地区図	98	第89図 SB01	104
第79図 遺構配置図	98	第90図 SB02	104
第80図 SI01	99	第91図 SB03	104
第81図 SI01カマド	99	第92図 SX01	103
第82図 SI02	100	第93図 SX02	103
第83図 SI03	100	第94図 土坑集成図(1)	105
第84図 SI04	101	第95図 土坑集成図(2)	106
第85図 SI04カマド	102	第96図 土坑集成図(3)	107
第86図 SI05	103	第97図 SI01出土遺物	108
第87図 SI06	103	第98図 SI04出土遺物(1)	108
第88図 SI07	103	第99図 SI04出土遺物(2)	109

表 目 次

(北若松原遺跡)

第1表 周辺遺跡一覽	4	第24表 SI17出土石製品観察表	84
第2表 土坑一覽	17	第25表 SI17出土鉄製品観察表	84
第3表 SI02出土土器観察表	76	第26表 SI18出土土器観察表	84
第4表 SI03出土土器観察表	76	第27表 SI18出土鉄製品観察表	84
第5表 SI04出土土器観察表	76	第28表 SI19出土土器観察表	84
第6表 SI05出土土器観察表	76	第29表 SI20出土土器観察表	85
第7表 SI05出土鉄製品観察表	77	第30表 SI21出土土器観察表	85
第8表 SI06出土土器観察表	77	第31表 SI21出土石製品観察表	85
第9表 SI07出土土器観察表	77	第32表 SI22出土土器観察表	85
第10表 SI07出土鉄製品観察表	78	第33表 SI23出土土器観察表	86
第11表 SI08出土土器観察表	78	第34表 SI23出土石製品観察表	86
第12表 SI09出土土器観察表	78	第35表 SI24出土土器観察表	86
第13表 SI10出土土器観察表	79	第36表 SI25出土土器観察表	87
第14表 SI11出土土器観察表	79	第37表 SI26出土土器観察表	87
第15表 SI12出土土器観察表	80	第38表 SI26出土石製品観察表	87
第16表 SI13出土土器観察表	81	第39表 SI26出土鉄製品観察表	88
第17表 SI14出土土器観察表	81	第40表 SI27出土土器観察表	88
第18表 SI15出土土器観察表	82	第41表 SI27出土石製品観察表	89
第19表 SI15出土鉄製品観察表	82	第42表 SI27出土鉄製品観察表	89
第20表 SI16出土土器観察表	82	第43表 SI28出土土器観察表	89
第21表 SI16出土石製品観察表	83	第44表 SK10・その他出土土器観察表	89
第22表 SI16出土鉄製品観察表	83	第45表 古墳時代堅穴住居跡の様相	91
第23表 SI17出土土器観察表	83		

(若松原南遺跡)

第46表 土坑一覽	97	第48表 SI04出土土器観察表	109
第47表 SI01出土土器観察表	109		

## 図 版 目 次

### (北若松原遺跡)

- PL 1 調査前の風景、トレンチ調査、遺構確認調査、遺構の確認状況
- PL 2 SI01土層断面、SI01完掘状況、SI02完掘状況、SI02カマド、SI03完掘状況、SI03遺物出土状況、SI03カマド、SI04遺物出土状況
- PL 3 SI05完掘状況、SI06土層断面、SI06完掘状況、SI06炉跡、SI07遺物出土状況、SI07完掘状況、SI08完掘状況、SI08貯蔵穴遺物出土状況
- PL 4 SI09完掘状況、SI09間仕切り溝と柱穴、SI10完掘状況、SI11完掘状況、SI12遺物出土状況（西から）、同（北から）、SI12土器出土状況、SI12完掘状況
- PL 5 SI13完掘状況、SI13貯蔵穴、SI14完掘状況、SI14カマド、SI15完掘状況、SI15カマド土層断面、SI16完掘状況、SI16炉跡
- PL 6 SI17完掘状況、SI17間仕切り溝と小柱穴列、SI17遺物出土状況、SI17貯蔵穴、SI18遺物出土状況、SI19完掘状況、SI19遺物出土状況、SI19カマド
- PL 7 SI20遺物出土状況、SI21土層断面、SI21遺物出土状況、SI21完掘状況、SI22遺物出土状況、SI23完掘状況、SI23遺物出土状況、SI23土器出土状況
- PL 8 SI24遺物出土状況、SI24完掘状況、SI25遺物出土状況、SI25完掘状況、SI25貯蔵穴、SI26遺物出土状況、SI26完掘状況、SI26北壁の小横穴列
- PL 9 SI27完掘状況、SI27貯蔵穴遺物出土状況、SI28完掘状況、SI28貯蔵穴遺物出土状況、SK02完掘状況、SK10完掘状況、SK16完掘状況、SK20完掘状況
- PL10 調査区全景（西から）、同（東から）
- PL11 SI02出土遺物、SI03出土遺物、SI04出土遺物
- PL12 SI05出土遺物、SI06出土遺物
- PL13 SI07出土遺物
- PL14 SI08出土遺物、SI09出土遺物、SI10出土遺物（1）
- PL15 SI10出土遺物（2）、SI11出土遺物、SI12出土遺物（1）
- PL16 SI12出土遺物（2）
- PL17 SI12出土遺物（3）、SI13出土遺物
- PL18 SI14出土遺物、SI15出土遺物
- PL19 SI16出土遺物
- PL20 SI17出土遺物、SI18出土遺物、SI20出土遺物
- PL21 SI19出土遺物、SI21出土遺物
- PL22 SI22出土遺物、SI23出土遺物
- PL23 SI24出土遺物、SI25出土遺物、SI26出土遺物（1）
- PL24 SI26出土遺物（2）、SI27出土遺物、SI28出土遺物

### (若松原南遺跡)

- PL25 SI01土層、SI01カマド、SI01完掘状況（西から）、SI01完掘状況（南から）、SI02遺物出土状況、SI02完掘状況、SI04遺物出土状況、SI04柱穴埋土遺物出土状況
- PL26 SI04カマド遺物出土状況、SI04完掘状況、SB01（北東から）、SB03（北東から）、SB02柱穴、SX01（東から）、SK02（北から）、SK03（南から）
- PL27 SK05（南から）、SK08（南から）、SK12（南東から）、SK18（南東から）、調査区全景（西から）、調査区全景（東から）
- PL28 SI01出土遺物、SI04出土遺物





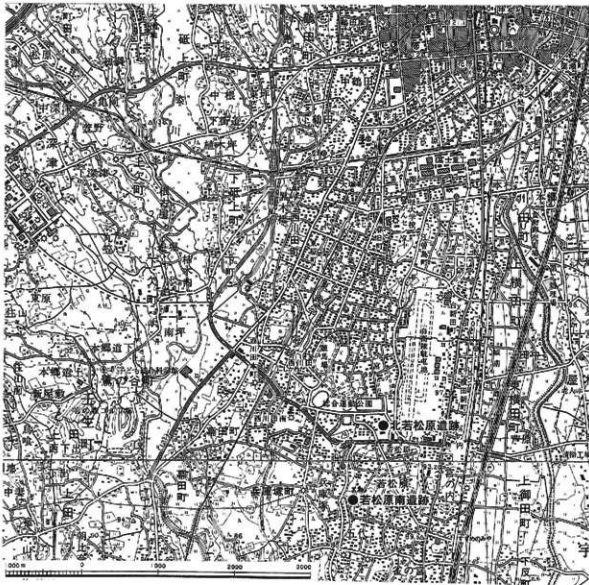
# 第 1 章

## 北若松原遺跡

# I はじめに

## 1 調査の経緯

宇都宮市街地の南方約5km、宇都宮市北若松原1丁目に所在する北若松原遺跡は、古墳から奈良平安時代の集落跡として登録（県番号3226）された周知の埋蔵文化財包蔵地である。本遺跡地に関わる第1回目の土木工事計画が提出されたのは、平成2年10月、とちぎコープ協同組合による大型店舗建設事業であった。宇都宮市教育委員会と事業者は、確認調査の資料等をもとに文化財保護の立場から協議を進めた結果、記録保存のための発掘調査を実施することで合意し、現地調査は翌平成3年の4～5月に行うこととした。また、調査は宇都宮市教育委員会が担当し、必要な費用は事業主であるとちぎコープ協同組合が負担することとした。第2回目の土木工事計画が提出されたのは、2年後の平成5年1月で、株式会社ヨークベニマルによる大型店舗建設事業であった。この事業計画地は前回のとちぎコープ店舗建設地の北側隣接地であり、集落跡の広がりが予測される地点であった。宇都宮市教育委員会と事業



第1図 遺跡位置図

者は、とちぎコープ店舗建設地の発掘調査や事前の確認調査等の資料をもとに協議を進めた結果、記録保存のための発掘調査を実施することで合意し、現地調査は同年5月～11月に行うこととした。また、調査は同様に宇都宮市教育委員会が担当し、必要な費用は事業主である株式会社ヨークベニマルが負担することとした。なお便宜上、平成3年のとちぎコープ店舗建設に伴う発掘を第1次調査、平成5年のヨークベニマル店舗建設に伴う発掘を第2次調査とした。

#### 第1次調査の経過

平成3年2月28日 事前の確認調査を実施。店舗建設予定地内に東西方向トレンチ（幅1m、長さ50～70m）を6本設定した結果、竪穴住居跡4軒・土坑1基を確認する。

平成3年4月上旬 4月2日に本調査を開始。まずトレンチ調査により遺構が確認された地点を拡張し、それぞれの平面プランを確定する。

平成3年4月中・下旬 各遺構の調査。4軒の竪穴住居跡はいずれも炉を有するものであること、内2軒には拡張を伴う建て替えがあることなどが確認された。

平成3年5月上旬 各遺構の写真撮影・実測等を仕上げ、5月10日に調査を終了する。

#### 第2次調査の経過

平成5年4月12～14日 事前の確認調査を実施。店舗建設予定地（約8,000m<sup>2</sup>）に東西方向トレンチ（幅1m・長さ140～150m）を6本設定した結果、竪穴住居跡10数軒が確認される。

平成5年5月 5月13日に本調査を開始。4月のトレンチ調査により遺構がほぼ全域に散在している様子がみられたことから、まずは表土全面を重機で除去し遺構確認にあたった。この結果、竪穴住居跡18軒・土坑10基余りが確認され、かなり広範囲に広がる集落跡であることが確認された。

平成6～7月 調査は東西に長い調査区の西側から順に進めた。確認された竪穴住居跡は、一辺が3m前後の小型なものから7mを超える大型のものまで様々であり、大型のものは高い確率で床面に間仕切り溝が確認されている。またカマドを有するものも一定量確認されている。なお、8・9月は事業者の都合により調査を中断。

平成5年10月 事業計画地が北側に拡張されたことから、新たに遺構の確認調査を実施。この結果、竪穴住居跡6軒と土坑7基が追加され、遺構総数は竪穴住居跡24軒・土坑17基となる。

平成5年11月 各遺構の写真撮影・実測等を仕上げ、11月30日に調査を終了する。

## 2 遺跡の環境

宇都宮市は関東平野の北端に位置し、平野部から北西部に広がる日光・足尾山地帯への変換点付近にあたる。宇都宮市の平野部は関東ローム層で覆われ、南流する河川等により東から宝積寺・田原・宝木・鹿沼等の台地が形成されている。本遺跡はこの内の宝木台地上に立地し、東約2kmには田川、西約3kmには姿川がそれぞれ南流している。また、近隣には兵庫川・新川等の小河川（いずれも姿川の支流）がみられ、水田耕作等に適した谷戸等が形成されていたものと考えられる。なお本遺跡の標高は95m前後で、これら低地との標高差は2～3m程度である。

宇都宮市南部でも本遺跡周辺の宝木台地上は遺跡の密集地帯であり、縄文時代以降多数の遺跡（第2図・第1表参照）が確認されている。縄文時代の遺跡はかなり広範囲に及んでいるが、特に本遺跡の南西方面に集中地域がみられる。兵庫川・西川田川といった小河川のほとりに集落が営まれたものと思われるが、時期はやはり中期が中心である。弥生時代は遺跡数が減少するが、縄文時代と同様、



第2図 周辺の遺跡分布図

第1表 周辺遺跡一覧

No	遺跡名	種別	時代等	No	遺跡名	種別	時代等
1	北若松原遺跡	集落	古墳・奈良平安	42	旭ヶ丘団地遺跡	集落	縄文
2	下砥上愛宕塚古墳	古墳	円墳・横穴式石室	43	二軒屋遺跡	集落	縄文・弥生・古墳
3	並塚遺跡	集落	古墳・奈良平安	44	若松原遺跡	集落	縄文・古墳
4	ヤジカ遺跡	集落	奈良平安	45	西原北遺跡	集落	縄文・弥生・古墳
5	ガンセンター東遺跡	集落	奈良平安	46	若松原南遺跡	集落	古墳
6	河原ヶ沼遺跡	集落	奈良平安	47	一向寺別院付近遺跡	集落	古墳・奈良平安
7	本村遺跡	集落	弥生・古墳	48	溜西遺跡	集落	古墳・奈良平安
8	本村古墳群	古墳	前方後円墳・円墳	49	溜西南遺跡	集落	古墳・奈良平安
9	西原境遺跡	集落	縄文・弥生・古墳・奈良	50	本田技研西遺跡	集落	縄文
10	下の内北遺跡	集落	奈良平安	51	十里木古墳	古墳	横穴式石室
11	下砥上山ノ神遺跡	集落	縄文	52	御田神社古墳	古墳	円墳
12	北之原遺跡	集落	奈良平安	53	幕田南原遺跡	集落	奈良平安
13	自動車教習所北遺跡	集落	縄文	54	幕田古墳群	古墳	円墳
14	緑ヶ丘小北遺跡	集落	奈良平安	55	堂前東遺跡	集落	古墳・奈良平安
15	雷電山遺跡	集落	古墳・中世	56	兵庫塚西原遺跡	集落	古墳・奈良平安
16	並松遺跡	集落	古墳・奈良平安	57	上坪遺跡	集落	弥生・古墳・奈良平安
17	おしめ尽遺跡	集落	古墳・奈良平安	58	上坪新田遺跡	集落	縄文・弥生・古墳・奈良平安
18	江曾島桑原遺跡	集落	奈良平安	59	針ヶ谷新田古墳群	古墳	円墳
19	おしめ尽東遺跡	集落	奈良平安	60	針ヶ谷新田遺跡	集落	弥生・古墳
20	関道遺跡	集落	縄文・古墳・奈良平安	61	下原遺跡	集落	古墳・奈良平安
21	江曾島北原遺跡	集落	古墳・奈良平安	62	兵庫塚三丁目東遺跡	集落	縄文・奈良平安
22	江曾島北原南遺跡	集落	縄文・奈良平安	63	針ヶ谷新田遺跡	集落	弥生・古墳
23	台内手遺跡	集落	古墳・奈良平安	64	大谷田遺跡	集落	奈良平安
24	台内手古墳群	古墳	円墳	65	雀の宮四丁目遺跡	集落	古墳
25	大山紙神社古墳	古墳	円墳	66	綾女塚古墳	古墳	古墳
26	大冨林遺跡	集落	古墳・奈良平安	67	雀宮東浦遺跡	集落	奈良平安
27	西の内遺跡	集落	縄文・奈良平安	68	雀宮東遺跡	集落	奈良平安
28	辻の内遺跡	集落	縄文・古墳・奈良平安	69	下幕田遺跡	集落	古墳・奈良平安
29	西川田屋宮神社古墳	古墳	円墳	70	熊野神社南遺跡	集落	奈良平安
30	姿川第1小南遺跡	集落	古墳・奈良平安	71	塔の前遺跡	集落	奈良平安
31	上ノ畑北遺跡	集落	奈良平安	72	立海道遺跡	集落	縄文・古墳・奈良平安
32	小野測器北遺跡	集落	縄文	73	見明遺跡	集落	縄文・弥生・奈良平安
33	塚山北遺跡	集落	古墳	74	赤岩遺跡	集落	縄文・古墳
34	塚山古墳群	古墳	前方後円墳・円墳	75	二子塚北遺跡	集落	縄文・弥生
35	城南三丁目遺跡	集落	奈良平安	76	二子塚古墳	古墳	前方後円墳
36	宮の内遺跡	集落	古墳・奈良平安	77	島の前遺跡	集落	縄文・古墳・奈良平安
37	中畑遺跡	集落	奈良平安	78	天狗原雀宮中前遺跡	集落	縄文・弥生・古墳
38	東屋敷遺跡	集落	縄文	79	牛塚東遺跡	集落	奈良平安
39	東屋敷古墳	古墳	円墳	80	雀宮牛塚古墳	古墳	帆立貝型前方後円墳
40	兵庫塚二丁目遺跡	集落	古墳・奈良平安	81	羽牛田C遺跡	集落	奈良平安
41	旭ヶ丘団地北遺跡	集落	縄文	82	御田長島A遺跡	集落	古墳・奈良平安

兵庫川・西川田川沿いに集中しているのは興味深い。時期はいずれも後期の『二軒屋式期』であり、本遺跡の南西約0.5kmの二軒屋遺跡(43)はこの標識となった遺跡である。また、同じく南西約1.5kmの針ヶ谷新田遺跡(60)では、同時期の竪穴住居跡が6軒確認され、当時のムラの様子を考える上で貴重な資料となっている。

本遺跡に関わる古墳時代以降になると遺跡数は激増し、その分布も台地上のほぼ全域に及んでいる。はじめに集落跡をみると、本遺跡の南方約2.2kmの天狗原雀宮中前遺跡(78)では、本遺跡に先行する古墳時代前期の竪穴住居跡が発掘されている。また本遺跡の北方約2.5kmの雷電山遺跡(15)では、本遺跡と同じ古墳時代中期から後期初頭で、竪穴住居跡が整然と配列する特徴的な集落跡が発掘されている。古墳時代後期になるとさらに遺跡数は増え、関道遺跡(20)・姿川第1小南遺跡(30)・溜西南遺跡(49)等、発掘例も多い。一方古墳では、まず注目されるのが本遺跡の西約0.5kmの塚山古墳群(34)である。主墳の塚山古墳は全長98mの本県を代表する中期の大型前方後円墳で、帆立貝型の西古墳・南古墳と合わせ三代に渡る造営が確認されている。時期的にも、距離的にも、本遺跡の集落跡が最も深く関わった古墳群とみられる。他に中期古墳では、画文帯神轡鏡をはじめ多数の副葬品を出土した雀宮牛塚古墳(80)や箱式石棺が確認された本村古墳群(8)等が特筆される。後期古墳では、本遺跡の南西約2kmの針ヶ谷新田古墳群(59)で横穴式石室を主体部とする小型円墳が複数発掘されている。調査例は少ないが、各地でこのような円墳群が営まれていたものとみられる。

なお奈良平安時代の遺跡分布状況は古墳時代とほぼ同じであり、集落はかなり継続的に営まれていたものと思われる。

#### (参考文献)

- 宇都宮市教育委員会 1969 『雀宮牛塚古墳』  
宇都宮市教育委員会 1983 『針ヶ谷新田古墳群』  
宇都宮市教育委員会 1994 『天狗原遺跡』  
宇都宮市教育委員会 1994 『雷電山遺跡』  
宇都宮大学考古学研究会 1995 『跡考古』第9号 一塚山古墳外形確認調査報告一  
宇都宮市教育委員会 1996 『塚山古墳群』  
宇都宮市教育委員会 2003 『塚山西古墳・塚山南古墳』  
宇都宮市教育委員会 2003 『本村遺跡(弥生・古墳編)』  
宇都宮市教育委員会 2013 『針ヶ谷新田遺跡』  
宇都宮市教育委員会 2017 『宇都宮市遺跡分布地図』

## II 遺構と遺物

今回北若松原遺跡においては、第1次・2次合わせて約15,500㎡(東西約180m・南北約160m)が発掘調査の対象となった。調査前の土地利用は、第1次調査区が水田、第2次調査区が果樹園といずれも農地であり、調査対象地全体はほぼ平坦であった。発掘調査の結果、竪穴住居跡28軒と土坑17基が確認されたが、遺構はほぼ全体にまんべんなく広がり、竪穴住居跡間の重複関係が認められないのが一つの特徴である。

### 1 竪穴住居跡

#### S101 (第5図)

**概要:**今回確認された中で最も小規模な竪穴住居跡。平面形は楕円もしくは隅丸長方形で、主軸の方位はN-31°-Eである。なお住居跡としたが、炉とカマドは確認されていない。**位置:**第2次調査区の南西隅で、他の竪穴住居跡からやや孤立している。**規模:**南北2.52m×東西2.95mの楕円もしくは隅丸長方形で、確認面から床面までの深さは0.35m前後である。**覆土:**自然堆積で、下層にはローム粒が多く含まれていた。**床面:**ほぼ平坦であるが、あまり踏み固められた様子はみられない。

**柱穴:**北西コーナー付近から2つの小穴P1(直径45cm・深さ28cm)とP2(直径48cm・深さ22cm)が確認されているが、柱穴としては形状的にも位置的にも疑問である。**壁溝:**幅10~15cm・深さ3cm程の壁溝が、北壁のみに確認されている。**貯蔵穴:**確認されない。**出土遺物:**なし。

#### S102 (第6・7・43図)

**概要:**東壁にカマドを有する小規模の竪穴住居跡で、主軸の方位はN-18°-Eである。**位置:**第2次調査区の南西部。**規模:**南北3.30m×東西4.03mのほぼ長方形で、確認面から床面までの深さは0.42m前後である。**覆土:**全体にロームブロック・ローム粒の混入が多く、人為的に埋め戻された可能性が高い。**床面:**ほぼ平坦で、カマド周辺は良く踏み固められていた。**柱穴:**床面に主柱穴と言えるものは無く、南西コーナーに直径42cm・深さ46cmの柱穴が1本(P1)確認されたのみである。**壁溝・間仕切り溝・入口ピット等:**確認されない。**貯蔵穴:**南北84cm×東西73cm×深さ35cmの隅丸長方形で、カマド脇の南東コーナーに位置する。**カマド:**東壁のほぼ中央に位置し、煙道は壁を35cm程掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体として造られたもので、幅95cm・奥行き70cm程の大きさである。燃焼部床面には直径25cm・深さ10cm程の小穴が確認される。なお、北東コーナー床面からは粘土塊が確認されている。**出土遺物:**出土遺物は非常に少なく、図示し得たのは土師器の壺1点・甕1点であり、いずれもカマド近辺からの出土である。

#### S103 (第8・9・44図)

**概要:**東壁にカマドを有する小規模の竪穴住居跡で、主軸の方位はN-32°-Eである。**位置:**第2次調査区の南西部。**規模:**南北3.13m×東西4.12mの長方形で、確認面から床面までの深さは0.45mである。**覆土:**自然堆積で、中・下層にはローム粒が含まれていた。**床面:**ほぼ平坦で、カマド周辺は良く踏み固められていた。**柱穴・壁溝・間仕切り溝・入口ピット等:**確認されない。**貯蔵穴:**南北58cm×東西71cm×深さ31cmの隅丸長方形で、カマド脇の南東コーナーに位置する。**カマド:**東壁のやや南よりに位置し、煙道は壁を30cm程掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体とし



て造られたもので、幅90cm・奥行き60cm程の大きさである。出土遺物：図示し得たのは土師器の坏3点・埴1点・高坏2点・甕3点・甗2点で、ほとんどが床面直上からの出土である。なお、貯蔵穴内から出土した11の甗は短頸壺の転用とみられ、底部の穿孔は焼成後である。

#### S104 (第10・45図)

概要：今回確認された中で2番目に小規模な竪穴住居跡で、主軸の方位はN-42°-Eである。位置：第2次調査区の西端付近。規模：南北2.86m×東西3.09mのやや隅丸の長方形で、確認面から床面までの深さは0.20m前後と浅めである。覆土：自然堆積で、中・下層にはローム粒が多く含まれていた。床面：ほぼ平坦であるが、全体に踏み固められた様子は認められない。柱穴・壁溝・間仕切り溝・入口ピット・貯蔵穴・炉等：いずれも確認されない。出土遺物：図示し得たのは土師器の坏1点・甗1点で、3の甗は床面直上からの出土である。

#### S105 (第11・46図)

概要：中規模の竪穴住居跡で、北半分ほどが調査区外となっている。主軸方位はN-23°-Eである。床面から多量の炭化材・焼土が確認されており、焼失家屋とみられる。位置：第2次調査区の西端。規模：南北3.90m以上×東西4.73mのほぼ正方形と思われ、確認面から床面までの深さは0.55m前後である。覆土：自然堆積で、下層には炭化材・焼土・ローム粒等が多量に含まれていた。床面：ほぼ平坦で、炉周辺は良く踏み固められていた。なお炭化材の出土は床面ほぼ全体にみられ、大きい物では長さ90cm・太さ10数cm程のものもみられた。また、南西コーナー付近では住居跡中心部から放射状に延びている状況も確認された。柱穴：確認された主柱穴はP1・P2(直径33～36cm・深さ64～72cm)の2本で、柱間距離は2.30mである。調査区外のもの合わせ4本主柱であったものと思われる。壁溝・間仕切り溝・入口ピット等：いずれも確認されていない。貯蔵穴：南北65cm×東西73cmの隅丸長方形で、南東コーナーに位置する。深さは15cmと浅く、焼土・炭化物が多く含まれていた。炉：床面中央部やや北よりに設けられた地床炉で、南北80cm以上×東西74cm×深さ数cmの楕円形と思われる。出土遺物：図示し得たのは、土師器の坏5点・甕2点、及び鉄製品として鉄鏝3点・鉄鎌1点・刀子1点である。このうち坏の3・4・5は貯蔵穴内からの一括で出土したものである。

#### S106 (第12・47図)

概要：中規模の竪穴住居跡で、北壁が通路(生活道路)にかかったため未確認となっている。主軸方位はN-2°-Eである。位置：第2次調査区の西端部で、S104・05等と近接する。規模：南北4.30m以上×東西4.95mのほぼ正方形と思われ、確認面から床面までの深さは0.65m前後と深めである。覆土：自然堆積で、下層には小ロームブロックが含まれていた。床面：ほぼ平坦であるが、中央部から炉周辺は良く踏み固められ、壁際より数cmほど低くなっている。柱穴：主柱穴はP1～P4(直径36～48cm・深さ52～79cm)の4本で、柱間距離は南北2.45m・東西2.40mとほぼ正方形の配置である。壁溝・間仕切り溝・入口ピット：いずれも確認されていない。貯蔵穴：南北73cm×東西105cm×深さ39cmの隅丸長方形で、南東コーナーに位置している。炉：南北52cm×東西48cm×深さ5cmの不整形地床炉で、中央部東壁近くに位置する。なおすぐ東のP5(直径18cm・深さ14cm)は、炉に伴うピットと思われる。出土遺物：図示し得たのは、土師器の坏1点・甕5点・甗1点及び須恵器甕(?)1点であり、いずれも埋土下層から中層にかけての出土である。

### S107 (第13・48・49図)

**概要:**中規模の竪穴住居跡で、主軸方位はN-24°-Wである。なおS101同様、炉もカマドも確認されない竪穴である。**位置:**第2次調査区のほぼ中央部で、すぐ南に土坑群が近接している。**規模:**南北4.73m×東西4.07mの長方形で、確認面から床面までの深さは0.45m前後である。**覆土:**自然堆積で、下層には多量の土器片が含まれていた。**床面:**ほぼ平坦で、あまり踏み固められた様子はみられない。**柱穴:**中心部で確認されたP1(直径38cm×深さ45cm)が唯一柱穴とみられるものであるが、覆土の状況から竪穴使用時は埋められていた可能性が高い。**壁溝・間仕切り溝・入口ピット:**いずれも確認されない。**貯蔵穴:**南北56cm×東西51cm×深さ16cmの不正隅丸方形で、南東コーナーに位置している。**出土遺物:**竪穴規模のわりに遺物は多く、土師器の坏6点・壺1点・高坏2点・壺2点・甕6点及び不明鉄製品2点である。大部分は床面直上から覆土下層にかけて出土した破片資料であり、一括して投棄されたものと思われる。

### S108 (第14・50図)

**概要:**中規模の竪穴住居跡で、主軸方位はN-28°-Wである。**位置:**第2次調査区の中央部南寄り、S109・10・13等の住居跡と一群を形成している。**規模:**南北4.85m×東西4.82mのほぼ正方形(若干歪んで平行四辺形気味)で、確認面から床面までの深さは0.70m前後と深めである。**覆土:**自然堆積で、ローム粒・炭化物等を含んでいる。**床面:**ほぼ平坦で、中央部から炉周辺は良く踏み固められている。**柱穴:**主柱穴はP1~P4(直径32~35cm×深さ52~74cm)の4本で、柱間距離は南北2.15m・東西2.10mとほぼ正方形の配置である。なおP6~P9はいずれも小規模な穴(直径20cm前後×深さ7~15cm)で、位置的に間仕切り等に伴うものと思われる。**壁溝:**幅10~15cm・深さ5~8cmの壁溝が、北東及び南東コーナー付近の一部を除きほぼ全周している。**間仕切り溝:**壁溝とほぼ同規模のものが、西壁とP1・P3を繋ぐように掘られている。**入口ピット:**南壁ほぼ中央の約60cm内側で確認されたP5(直径22cm×深さ27cm)が、位置的に入口ピットとみられる。**貯蔵穴:**南北54cm×東西78cm×深さ57cmの隅丸長方形で、南東コーナーに位置する。なお北東コーナー寄りのP10(直径55cm×深さ27cm)は、形状的に貯蔵穴として使用されたものとみられる。**炉:**南北48cm×東西40cm×深さ5cmの不整楕円形地床炉で、中央北壁寄りに位置する。**出土遺物:**遺物は少なく、図示し得たのは土師器の坏1点・壺1点・甕1点である。このうち3の甕は、貯蔵穴内よりほぼ方形で出土したものである。

### S109 (第15・51図)

**概要:**やや大型の竪穴住居跡で、主軸方位はN-1°-Eである。**位置:**第2次調査区の中央部南寄りで、S108・10・13等の住居跡と一群を形成している。**規模:**南北5.16m×東西5.27mのほぼ正方形で、確認面から床面までの深さは0.50~0.55mである。**覆土:**自然堆積で、下層にはローム粒が多量に含まれていた。**床面:**ほぼ平坦で、中央部は良く踏み固められ、周囲より数cmほど窪んでいる。**柱穴:**主柱穴はP1~P4(直径38~52cm×深さ64~83cm)の4本で、柱間距離は南北2.75m・東西2.85mとほぼ正方形の配置である。**壁溝:**幅10~15cm・深さ7~10cmの壁溝が、ほぼ全周している。**間仕切り溝:**南東コーナーを除く各コーナーにおいて、主柱と隣り合う壁を結ぶように間仕切り溝(壁溝とほぼ同規模)が掘られ、方形または長方形の小空間が造られている。因みに南西コーナーの空間は南北90cm×東西175cmの長方形で、丁度大人が横になれる大きさである。なおP6(直径35cm×深さ25cm)は間仕切り溝に伴う柱穴である。**入口ピット:**南壁ほぼ中央の約65cm内側で確認さ

れたP5(直径28cm×深さ24cm)が、位置的に入口ピットとみられる。貯蔵穴：南北63cm×東西78cm×深さ52cmの隅丸長方形で、南東コーナーに位置する。炉：西壁中央部の僅か30cm内側で確認された不整楕円形地床炉で、大きさは南北35cm×東西68cm×深さ5cmである。出土遺物：遺物はやや少なく、図示し得たのは土師器の坏4点・壺2点である。坏の1・2は貯蔵穴内からの出土である。

#### S110(第16・52図)

概要：やや大型の竪穴住居跡で、主軸方位はN-14°-Wである。位置：第2次調査区の中央部南寄り、SI08・09・13等の住居跡と一群を形成している。規模：南北5.42m×東西5.47mのほぼ正方形で、確認面から床面までの深さは0.50～0.60mである。覆土：自然堆積で、全体にローム粒が多く含まれていた。床面：ほぼ平坦で、中央部の炉周辺は良く踏み固められていた。柱穴：主柱穴はP1～P4(直径34～43cm×深さ34～55cm)の4本で、柱間距離は南北2.10m・東西2.20mとほぼ正方形の配置である。壁溝：幅10～18cm・深さ6～9cmの壁溝が、全周している。間仕切り溝：壁溝と同規模の溝が、東西両壁から主柱に向かってそれぞれ2本ずつ延びている。入口ピット：南壁やや東寄り約60cm内側に確認されたP5(直径28cm×深さ20cm)が、位置的に入口ピットとみられる。貯蔵穴：南北84cm×東西115cm×深さ46cmの隅丸長方形で、南東コーナーに位置する。炉：南北60cm×東西48cm×深さ4cmの不整楕円形地床炉で、ほぼ中央に位置する。出土遺物：図示し得たのは、土師器の坏3点・壺2点・甕8点である。なお5の壺と9の甕は同一個体の可能性が高い。

#### S111(第17・53図)

概要：小規模な竪穴住居跡で、主軸方位はN-2°-Wである。南辺は調査区外のため未確認である。位置：第2次調査区の南端中央部で、周囲は比較的住居跡が多くみられる地域である。規模：南北2.70m以上×東西3.18mの方形とみられ、確認面から床面までの深さは0.25m前後と浅めである。覆土：自然堆積で、下層には焼土や炭化物が含まれていた。床面：ほぼ平坦で、全体に踏み固められた様子はあまりみられない。柱穴・壁溝・間仕切り溝・入口ピット・貯蔵穴等：いずれも確認されない。炉：南北65cm×東西58cm×深さ数cmの不整楕円形地床炉で、やや西壁寄りに位置する。出土遺物：図示し得たのは、土師器の坏2点・壺2点・甕2点であり、いずれも覆土の下層から上層の出土である。

#### S112(第18・54・55・56図)

概要：中型の長方形竪穴住居跡で、主軸方位はN-25°-Wである。位置：第2次調査区の南端中央部で、周囲は比較的住居跡が多くみられる地域である。規模：南北3.90m×東西5.59mの長方形で、北西コーナーのみが隅丸となる。確認面から床面までの深さは0.50m前後である。覆土：人為的に埋め戻された可能性が高く、下層から床面直上にかけては多量の土器・土器片とともに炭化材・焼土が出土している。焼失家屋の可能性も考えられる。床面：ほぼ平坦で、中央部は踏み固められていた。柱穴：主柱穴はP1・P2(直径26～30cm×深さ42～50cm)の東西2本で、柱間距離は南北2.60mである。壁溝：幅15～18cm・深さ5～7cmの壁溝で、南壁及び西壁の一部を除きほぼ全周している。入口ピット：位置的には南壁中央直下で確認されたP3(直径25cm×深さ7cm)が入口ピットの可能性が高いが、やや壁に近すぎる。なおP4(直径22cm×深さ13cm)は炉に伴うものか。貯蔵穴：南北57cm×東西85cm×深さ31cmのやや崩れた隅丸長方形で、南東コーナー近くに位置する。炉：地床炉が2カ所確認され、中央部北壁寄りの炉1は南北45cm×東西28cm×深さ4cmの不整楕円形、西主柱穴P1近くの炉2は南北36cm×東西30cm×深さ5cmの不整形である。

**出土遺物:**今回確認された住居跡の中では最も土器の量が多く、図示し得たものは土師器の坏12点・高坏3点・鉢1点・甕6点・甌1点及び須恵器の坏1点である。出土層位は床面直上から覆土中層に及ぶが、人為的な埋戻しにより短時期に投棄されたものと思われる。

#### S113 (第19・57図)

**概要:**中型の竪穴住居跡で、主軸方位はN-2°-Eである。位置:第2次調査区の中央部南寄り、S108・09・10等の住居跡と一群を形成している。規模:南北4.93m×東西5.02mのほぼ正方形で、確認面から床面までの深さは0.60~0.65mである。覆土:自然堆積で、ローム粒・炭化物が含まれていた。床面:ほぼ平坦であるが、中央部は良く踏み固められ、周囲より7~8cm程低くなっている。柱穴:主柱穴はP1~P4(直径27~35cm×深さ62~68cm)の4本で、柱間距離は南北2.50m・東西2.55mとほぼ正方形の配置である。壁溝:幅10~15cm・深さ5~6cmの壁溝が、東壁中央及び南東コーナーの一部を除きほぼ全周する。間仕切り溝:壁溝と同規模の溝が、西壁と主柱P1・P3を繋ぐように2本掘られている。入口ピット:西壁中央部で約70cm内側に位置するP5(直径36cm・深さ16cm)が入口ピットと思われる。なおP6(直径27cm・深さ11cm)は、炉1に伴うものか。貯蔵穴:南北56cm×東西82cm×深さ26cmの隅丸長方形で、南東コーナーに位置する。炉:主炉とみられる炉1は南北43cm×東西66cm×深さ5cmの楕円形の地床炉で、東壁中央のほぼ壁直下に位置する。なお中央部やや北寄りに位置する炉2は、長軸45cm×短軸26cm×深さ3cmの小規模な地床炉である。出土遺物:図示し得たのは、土師器の坏4点・壺3点・甕2点である。

#### S114 (第20・21・58図)

**概要:**小型の竪穴住居跡で、主軸方位はN-17°-Eである。位置:第2次調査区の南東部で、S115・18等の小型住居跡と一群を形成している。規模:南北3.18m×東西3.34mのほぼ正方形で、南西及び北西コーナーは隅丸である。確認面から床面までの深さは0.41mである。覆土:自然堆積で、下層には焼土・炭化物が若干含まれていた。床面:ほぼ平坦で、カマドの前面は良く踏み固められていた。柱穴・壁溝・間仕切り溝・入口ピット・貯蔵穴等:いずれも確認されない。カマド:東壁のほぼ中央に位置し、煙道は壁を50cm程大きく掘り込んで造られている。袖部は川原石(長さ28cm・太さ10cm)を芯にして灰褐色粘土で造られたもので、大きさは幅80cm・奥行き50cm程である。燃烧部床面中央からは支脚として使用されたとみられる川原石(長さ23cm・太さ8cm)も確認されている。なお、煙道部には土師器甕(6)が構築材として使用されていたものとみられる。出土遺物:図示し得たのは、土師器の坏3点・高台付き坏1点・甕3点であり、1の坏以外はカマドからの出土である。

#### S115 (第22・23・59図)

**概要:**小型の竪穴住居跡で、南半分は調査区外である。主軸方位はN-19°-Eである。位置:第2次調査区の南東部で、S114・18等の小型住居跡と一群を形成している。規模:南北2.40m以上×東西3.53mの方形で、確認されているコーナーは隅丸である。確認面から床面までの深さは0.22mである。覆土:自然堆積で、下層には焼土・炭化物が若干含まれていた。床面:ほぼ平坦で、カマド前面は良く踏み固められていた。柱穴・壁溝・間仕切り溝・入口ピット等:いずれも確認されていない。貯蔵穴:南北64cm×東西65cm×深さ22cmの不整形形で、北東コーナーに位置する。カマド:北壁の東寄り、貯蔵穴のある北東コーナー寄りに位置し、煙道は壁を約35cm掘り込んで築かれている。袖部

は灰褐色粘土で作られており、大きさは幅90cm・奥行き60cm程である。燃焼部中層には構築材とみられる川原石(長さ26cm・太さ10cm)が確認されている。出土遺物:図示し得たのは、土師器の坏3点・壺3点及び鉄製品(鉄鏃2点・刀子1点)である。なお、7の壺破片には「夫」の墨書がみられる。

#### S116 (第24・25・60・61図)

概要:大型の竪穴住居跡で、主軸方位はN-2°-Wである。SI25・28等と同様に、長方形竪穴からの拡張が確認される。位置:第2次調査区の南東部で、すぐ東側にはさらに大型のSI17が位置している。規模:本住居跡は、主柱の配置・壁溝の状況等から拡張を伴う2度の建て替えのあったことが想定される。第1次住居はP7・P8の2本を主柱とするもので、規模は南北4.10m×東西5.85mの長方形竪穴。第2次住居はP9・P10・P5・P6の4本を主柱とするもので、規模は南北6.45m×東西5.85mで南北がやや長い長方形竪穴。最終の第3次住居はP1~P4の4本を主柱として主に西壁を拡張したもので、規模は南北6.45m×東西6.17mのほぼ方形の竪穴。なお確認面から床面までの深さは第3次住居が0.45m、第1・2次住居が0.50m前後である。覆土:自然堆積で、下層には焼土・炭化物が若干含まれていた。床面:全体にはほぼ平坦。第2次住居へ拡張する際に、第1次住居の床面に数cmの貼り床(小ロームブロック混じりの暗褐色土)を行っている。柱穴:第1次住居の主柱はP7・P8(直径26~32cm×深さ64~70cm)の2本で、柱間距離は2.55m。第2次住居の主柱はP9・P10・P5・P6(直径31~38cm×深さ62~78cm)の4本で、柱間距離は南北2.60m・東西2.65mとほぼ正方形の配置。第3次住居の主柱はP1~P4(直径34~43cm×深さ57~75cm)の4本で、柱間距離は南北3.55m・東西3.25mとやや長方形の配置。壁溝:残存状況からすると第1次住居はほぼ全周していたものと思われるが、第2・3次住居では南側が不明瞭となっている。なお、溝の大きさは幅12~18cm・深さ5~6cmである。間仕切り溝:主に第2・3次住居に伴うものとみられ、北壁及び西壁沿いをそれぞれ3分割するような溝が掘られている。溝が2本単位で配されているように見えるのは、建て替えに伴う付け替えの痕跡と思われる。なお溝の大きさは壁溝とほぼ同じである。貯蔵穴:貯1は南北65cm×東西74cm×深さ25cmの不整形貯蔵穴で、第1次住居の南東コーナーに位置したものとみられる。貯2は南北62cm×東西80cm×深さ28cmの楕円形貯蔵穴で、第2・3次住居の南東コーナーに位置している。炉:南北75cm×東西120cm×深さ6~7cmの不整形楕円形地床炉で、位置関係等から第3次住居の東壁南よりに設けられたものと思われる。出土遺物:図示し得たのは、土師器の坏6点・壺2点・高坏2点・壺1点・甗1点、石製模造品1点、砥石1点、鉄鏃6点及び鉄滓4点である。大型の住居跡のわりに遺物は少なく、大型の壺や甗はみられない。

#### S117 (第26・27・62図)

概要:今回確認された中で最も大型の竪穴住居跡で、主軸方位はN-9°-Eである。位置:第2次調査区の東端部で、すぐ西側にはやはり大型のSI16が位置する。規模:南北6.63m×東西6.52mのほぼ方形で、確認面から床面までの深さは0.45~0.50m前後である。覆土:床面近くには炭化材や焼土塊が散在し、覆土全体にローム粒・焼土・炭化物等が多く含まれていた。消失後、人為的に埋め戻された可能性が高い。床面:ほぼ平坦で、中央部から炉周辺は良く踏み固められていた。なお南壁中央部の床面には、ロームブロックを積んだ土手状の高まり(幅40~50cm・高さ5~6cm)が貯蔵穴を囲むように設けられている。柱穴:主柱はP1~P4(直径34~50cm×深さ71~76cm)の4本で、柱間距離は南北・東西とも3.40mの正方形配置である。なお西壁北

寄りから確認されたP5～P12(直径18～23cm×深さ7～11cm)は、東西1間(柱間寸法は70cm)・南北3間(柱間寸法は40～50cmで総長は143cm)の掘立柱建物跡状小柱穴列である。柱穴列の大きさ及び壁・間仕切り溝等との位置関係から、寝台等が置かれていたものと考えられる。壁溝:幅10～15cm・深さ6～10cmの壁溝が全周する。間仕切り溝:壁溝と同規模のもので、いずれも壁と主柱穴の空間に設けられている。西壁はまず中心部で2当分され、さらにコーナー寄りが1m前後、中心寄りが2m前後になるようそれぞれ仕切られ、都合4つに分割されている。他の壁はいずれも溝1本の確認であるが、西壁はほぼ中心で仕切られ、そのすぐ北側にセットされるように小柱穴列(寝台か?)が配置されている。貯蔵穴:南北72cm×東西88cm×深さ43cmの隅丸方形貯蔵穴で、南壁のほぼ中央に位置している。なお、今回確認された本集落跡の貯蔵穴は、コーナー-或いはコーナー寄りに位置するものがほとんどである。炉:炉は3カ所確認されている。炉1は南北55cm×東西54cm×深さ7cmの不整形円形地床炉で、ほぼ中央に位置する。炉2は南北48cm×東西92cm×深さ6cmの不整形円形地床炉で、ほぼ東壁寄りやや南に位置する。炉3は南北25cm×東西48cm×深さ4cmの不整形円形地床炉で、東壁より中央部に位置する。なお炉3は小柱穴列に切られており、途中で廃絶したものである。出土遺物:今回確認された住居跡の中で最も規模の大きいものであるが、遺物は少なく、図示し得たものは土師器の坏1点・手捏ね土器1点・高坏1点・壺1点・甕2点、須恵器の甕3点、石製模造品1点、砥石1点、鉄鏃2点、刀子1点、ほとんどが破片資料である。

#### S118(第28・63区)

概要:小型の竪穴住居跡で、南側半分以上が調査区外となっている。主軸方位はN-1°-E程と思われる。位置:第2次調査区的最東端。規模:南北1.60m以上×東西3.74mのほぼ方形と思われる。確認面から床面までの深さは0.12～0.18mである。覆土:後世の擾乱が多いが、自然堆積と思われる。床面:ほぼ平坦であるが、東部が数cm程上がっている。柱穴:確認できたのは東壁寄りのP1(直径45cm・深さ36cm)のみである。壁溝・間仕切り溝・貯蔵穴・炉等:いずれも確認されていない。出土遺物:図示し得たのは、土師器の坏1点・埴1点・甕2点及び鉄製品2点(鉄鏃?と刀子)である。いずれも覆土下層からの出土である。

#### S119(第29・30・64・65区)

概要:カマドを持つ大型の竪穴住居跡で、主柱や貯蔵穴の配置等から拡張の痕跡が認められる。主軸方位はN-21°-Eである。位置:第2次調査区の北部に位置し、小型不整形方形住居のS120や土坑群が隣接している。規模:南北6.05m×東西6.07mのほぼ正方形で、確認面から床面までの深さは0.50～0.65mである。覆土:自然堆積で、下層には炭化材・焼土・小ロームブロック等が含まれていた。焼失家屋の可能性も考えられる。床面:全体に平坦で、中央部からカマド周辺は良く踏み固められている。なお中央部は壁際周辺部より数cmほどレンズ状に低くなっている。柱穴:主柱穴はP1～P4(直径33cm～45cm×深さ48cm～57cm)の4本で、柱間距離は南北3.10m×東西3.05mの正方形配置である。なおP1・P5～P7(直径30cm～34cm×深さ38cm～56cm)が当初(拡張前)の4本主柱であり、柱間距離は南北2.25m×東西2.50mのやや長方形の配置となっている。壁溝:幅10～15cm・深さ7～10cmの壁溝が、北壁及び南東コーナー付近のみに確認された。間仕切り溝:明確に確認されたのはP2・P3と壁を結ぶ2本で、いずれも幅25cm前後と壁溝よりやや広い。どちらも拡張後の間仕切り溝である。入口ピット:南壁やや西寄りの

P9(幅25cm×長さ78cm×深さ30cm)は内側が深い溝状のピットで、位置的に入口ピットと思われ。またやや内側のP8(直径34cm×深さ25cm)も同様な位置であるが、貯蔵穴等との関係から拡張前に伴う入口ピットと思われる。貯蔵穴:拡張後の貯蔵穴(貯2)は南北93cm×東西114cm×深さ68cmの隅丸長方形で、南東コーナーに位置する。ほぼ同位置で内側にある貯1(南北69cm×東西73cm×深さ32cm)は拡張後の貯蔵穴で、拡張後の支柱P4に切られている。カマド:東壁のやや南寄りに位置し、煙道は壁を約70cmとやや深く掘り込んで築かれている。袖部は灰褐色粘土で作られており、大きさは幅112cm・奥行き76cm程である。燃焼部には支脚に用いたとみられる土師器高坏が確認されている。出土遺物:図示し得たのは、土師器の坏3点・高坏1点・壺1点・甕8点及び須恵器の坏1点である。いずれも炭化材や焼土とともに覆土下層から出土した破片資料であり、完形品等はみられない。

#### S120(第31・66図)

概要:小型でやや不整長方形の竪穴住居跡で、主軸方位はN-15°-Eである。位置:第2次調査区の北部に位置し、大型住居のSI19や土坑群に隣接している。規模:南北3.36m×東西2.92mのやや不整な長方形で、確認面から床面までの深さは0.20m前後である。覆土:自然堆積で、下層には炭化物・ローム粒等が含まれていた。床面:ほぼ平坦で、あまり踏み固められた様子はみられない。

柱穴・壁溝・間仕切り溝・貯蔵穴・炉等:いずれも確認されない。出土遺物:図示し得たのは土師器の壺1点であり、覆土下層からの出土である。

#### S121(第32・67図)

概要:小型でやや長方形の竪穴住居跡で、主軸方位はN-16°-Eである。位置:第2次調査区の北西部で最も北に位置する。規模:南北3.88m×東西3.46mの南北にやや長い長方形竪穴で、確認面から床面までの深さは0.50m前後と深めである。覆土:自然堆積で、下層には炭化物や小ロームブロックが比較的多く含まれていた。床面:ほぼ平坦で、中央部から炉周辺は良く踏み固められていた。

柱穴:確認された3つのピットP1~P3(直径22cm~28cm×深さ6cm~15cm)はいずれも浅く小規模で、柱穴としては不適と思われる。壁溝:幅7~15cm・深さ6~10cm程の壁溝が、断続的ではあるが、ほぼ4面の壁下に巡らされている。入口ピット:西壁中央部のP1(直径22cm×深さ6cm)は、位置的に入口ピットの可能性があると思われる。炉:南北53cm×東西30cm×深さ8cmの楕円形地床炉で、北東コーナー寄りに位置する。なお炉のすぐ北東脇には、土師器の甕と甎の口縁破片が逆さにして重ねられていた。炉とセットで置かれたものと思われる。出土遺物:図示し得たのは、土師器の坏1点・甕1点・甎1点及び須恵器甕1点等である。

#### S122(第33・68図)

概要:小型の長方形竪穴住居跡で、主軸方位はN-30°-Wである。位置:第2次調査区の北西部で、SI21・23等と近接する。規模:南北4.12m×東西3.25mの南北に長い長方形竪穴で、確認面から床面までの深さは0.68mとかなり深めである。覆土:自然堆積で、下層には小ロームブロックが比較的多く含まれていた。床面:ほぼ平坦で、中央部から炉周辺は良く踏み固められていた。柱穴:支柱穴は中軸線上に位置するP1(直径23cm×深さ44cm)とP2(直径28cm×深さ65cm)の2本で、柱間距離は2.10mである。壁溝:幅10~15cm・深さ7~10cmの壁溝が、コーナーの一部を除きほぼ全周する。貯蔵穴:南北108cm×東西96cm×深さ46cmの不整形貯蔵穴で、南西コーナーに位置する。炉:東壁寄りやや南に位置する炉1は、南北82cm×東西42cm×深さ18cmの楕円形地床炉で、炉床に川

原石が2個確認されている。南壁寄りの炉2は、南北36cm×東西30cm×深さ5cmの小規模な地床炉である。出土遺物：図示し得たのは、土師器の坏3点・埴1点・甕3点であり、2の坏と4の埴が床面直上の出土である。

#### S123 (第34・69図)

概要：やや大型の長方形竪穴住居跡で、主軸方位はN-38°-Eである。位置：第2次調査区の北西部で、SI21・22等と近接する。規模：南北5.67m×東西4.85mの長方形竪穴で、確認面から床面までの深さは0.45m～0.50mである。覆土：自然堆積で、下層にはローム粒・小ロームブロックが多く含まれていた。床面：ほぼ平坦で、中央部から炉周辺は良く踏み固められていた。柱穴：主柱穴はP1～P4(直径31cm～43cm×深さ52cm～61cm)の4本で、柱間距離は南北2.50m×東西2.35mのやや長方形の配置である。なおP5(深さ19cm)・P6(深さ37cm)は主柱穴としてはやや浅めである。壁溝：幅15cm～30cm・深さ4～8cmの壁溝が、西壁の一部を除きほぼ全周している。間仕切り溝：壁溝とほぼ同規模の溝で、主柱穴と壁の間を仕切るように配されている。特に南東コーナーでは2本の間仕切り溝により方形の空間が形成されている。貯蔵穴：南北64cm×東西50cm×深さ31cmの隅丸長方形で、西壁のやや南寄りに位置する。炉：炉1は南北55cm×東西38cm×深さ5cmの楕円形地床炉で、東壁寄り中央部に位置する。なお炉2は直径22cm×深さ3cm程のかなり小規模な地床炉である。出土遺物：図示し得たのは、土師器の坏7点・埴2点・埴1点・鉢1点・甕1点及び砥石1点である。床面直上は4・5の坏と11の甕だけで、他は覆土の下層から中層にかけての出土である。

#### S124 (第35・70図)

概要：やや大型の竪穴住居跡で、主軸方位はN-20°-Eである。位置：第2次調査区のほぼ中央で、SI07や土坑群が隣接する。規模：南北5.28m×東西5.43mのほぼ正方形竪穴で、確認面から床面までの深さは0.50m～0.60m前後である。覆土：自然堆積で、下層には炭化材・焼土・ロームブロック等を多く含んでいた。炭化材の状況から焼失家屋の可能性が高いものと思われる。床面：ほぼ平坦で、中央部から炉周辺は良く踏み固められていた。柱穴：主柱穴はP1～P4(直径33cm～42cm×深さ55cm～59cm)の4本で、柱間距離は南北2.60m×東西2.65mのほぼ正方形配置である。なおP5(直径29cm×深さ12cm)とP6(直径36cm×深さ33cm)はやや浅めであるが、位置的に棟持ち柱の可能性が高いと思われる。壁溝：幅15～20cm・深さ6～10cmのやや広めの壁溝が一部を除いてほぼ全周している。間仕切り溝：壁溝とほぼ同規模の溝で、東西壁と主柱穴P3・P4を繋ぐ2本が確認できる。入口ピット：南壁ほぼ中央部で壁から約80cm内側に位置するP7(直径25cm×深さ26cm)が、位置的に入口ピットと思われる。貯蔵穴：南北64cm×東西90cm×深さ48cmの隅丸長方形で、南東コーナーに位置する。炉：炉1は南北87cm×東西55cm×深さ5cmの楕円形地床炉で、北壁寄り中央に位置する。中央部やや南よりに位置する炉2は、南北43cm×東西24cm×深さ3cmの小規模な地床炉である。出土遺物：図示し得たのは土師器の高坏1点・壺1点・甕3点であり、1の高坏と2の壺は貯蔵穴内からの出土である。

#### S125 (第36・37・71・72図)

概要：中規模の竪穴住居跡で、主軸の方位はN-33°-Eである。小型長方形竪穴からの拡張が確認され、今回確認された竪穴住居跡の中では唯一張り出し貯蔵穴を有する。位置：第1次調査区の北東隅。規模：南北5.10m×東西5.25mのほぼ方形で、確認面から床面までの深さは0.45～0.50mである。なお拡張前は、南北3.57m×東西4.30mの長方形で、深さはほぼ同じである。覆土：自



然堆積で、中・下層には土器片が多く含まれていた。床面：中央部は良く踏み固められており、周囲の壁際より数cm低くなっている。柱穴：主柱穴はP1～P4（直径54～61cm・深さ52～76cm）の4本で、柱間距離は南北2.70m×東西2.65mのほぼ方形に配置されている。なお拡張前の主柱穴はP5・P6（直径37～40cm・深さ52～55cm）の2本で、柱間距離は2.10mである。壁溝：幅10～15cm・深さ4～5cmの壁溝が、張出し貯蔵穴部分を除き全周している。なお拡張前もほぼ同規模の壁溝が全周していたが、拡張に伴い埋め戻されたものとみられる。間仕切り溝：溝の規模は幅20～25cm・深さ8～10cmで、壁溝よりやや大きい。西壁及び南壁で2本ずつ確認され、内3本は壁と主柱穴を繋ぐように配されている。なお拡張前のものは確認されていない。貯蔵穴：拡張後の貯蔵穴は貯1で、南壁やや東寄りに幅約80cm・奥行き60cmの張出部を設け、そこにやや不整形の穴（南北64cm×東西72cm×深さ45cm）が掘られたもの。なお拡張前の貯蔵穴（貯2）は、南東コーナーに設けられた方形の穴（南北65cm×東西58cm×深さ30cm）で、ロームブロックを多く含む層で埋め戻されていた。炉：拡張後の炉は北壁寄り中程に設けられた炉1で、南北80cm×東西34cm×深さ5cmの細長い地床炉である。なお、拡張前の炉（炉2）は、やはり北壁寄り中程に位置した不整形の地床炉（南北48cm×東西36cm×深さ7cm）で、底面南寄りに長さ20cm程の細長い石が置かれていた。出土遺物：図示し得たのは、土師器の甕6点と甌1点である。覆土中からは投棄されたと思われる大量の土師器片が出土しているが、そのほとんどが壘類である。

#### S126（第38・39・73・74図）

概要：中規模の竪穴住居跡で、主軸の方位はN-3°-Wである。位置：第1次調査区のほぼ中程。規模：南北5.12m×東西5.08mのほぼ方形で、確認面から床面までの深さは0.50m前後である。覆土：自然堆積で、中・下層には炭化物やローム粒が含まれていた。床面：ほぼ平坦で、主柱に囲まれた中央部は良く踏み固められている。柱穴：主柱穴はP1～P4（直径36～45cm・深さ42～54cm）の4本で、柱間距離は南北2.33m×東西2.35mのほぼ方形に配置されている。なお主柱と同様の大きさ（直径36cm・深さ48cm）を持つP5は、P2～P4の桁に組ませた柱の穴と思われる。なお北壁ほぼ中央部で床面から10cm程の高さのところに4つの小横穴（P7～P10）が一列に穿たれている。大きさは直径20～25cm、深さは8～13cmといずれも浅い。列の全長（P7～P10間）は1.58mで、柱間距離は東から58cm-42cm-58cmと中央間がやや短い。炉とも近距離であり、用途が興味深い小穴列である。壁溝：幅15～20cm・深さ6～8cmの壁溝が全周している。間仕切り溝：溝の規模は壁溝とほぼ同じで、北東・北西・南西のコーナーでは主柱を起点に直交する2本の間仕切り溝が配されている。ただし貯蔵穴のある南東コーナーでは、間仕切り溝は北側のみで西側にはみられない。入口ピット：南壁ほぼ中央から60cmほど内側で確認されたP6は、南北25cm×東西35cm×深さ28cmの隅丸長方形の小穴であり、位置的に入口ピットと思われる。なお、この部分で壁溝が八の字状に広がり、P6に取り付いている。貯蔵穴：南北67cm×東西82cm×深さ46cmの隅丸長方形で、南東コーナーに位置する。炉：中央やや北壁寄りの炉1は、南北98cm×東西45cm×深さ7cmの長楕円形の地床炉である。なお東壁よりの炉2は不整形な地床炉（南北47cm×東西56cm×深さ5cm）で、炉1に比べあまり使い込まれた様子がみられない。出土遺物：土器で図示し得たのは、土師器の坏5点・壘1点・甕4点及び須恵器の甕1点である。石製品は砥石2点・打製石斧1点および滑石製模造品の勾玉1点・白玉14点である。また鉄製品として鉄鏃1点が出土している。

### S127 (第40・75図)

**概要:** やや小型で長方形の竪穴住居跡で、主軸の方位はN-3°-Eである。 **位置:** 第1次調査区の最も南。 **規模:** 南北3.37m×東西4.32mの長方形で、確認面から床面までの深さは0.45～0.50mである。 **覆土:** 自然堆積で、中・下層には炭化物やローム粒が含まれていた。 **床面:** ほぼ平坦で、出入り口から炉周辺は良く踏み固められている。 **柱穴:** 主柱穴は東西に配置されたP1・P2(直径30～34cm・深さ35～38cm)の2本で、柱間距離は1.75m。 **壁溝:** 幅10～16cm・深さ5～12cmの壁溝が全周している。 **入口ピット:** 南壁から内側に約40cm、南東コーナーの貯蔵穴寄りに位置するP3が入口ピットとみられる。南北20cm・東西25cm・深さ36cmの長方形の掘方で、壁に向かって斜めに掘り込まれている。なお、壁溝と同規模の溝で南壁と結ばれている。 **貯蔵穴:** 南北62cm×東西84cm×深さ32cmの隅丸長方形で、南東コーナーに位置する。 **炉:** 床面中央部やや北壁寄りに位置する地床炉で、中央に川原石が置かれた炉1(長軸64cm×短軸45cm×深さ6cm)から炉2(長軸68cm×短軸52cm×深さ7cm)に付け替えられている。なお床面からは、他に3カ所ほど焼土が確認されている。 **出土遺物:** 図示し得たのは、土師器の坏2点・壺1点・甕4点及び滑石製模造品の白玉1個・鉄族3点である。

### S128 (第41・76図)

**概要:** 中規模の竪穴住居跡で、主軸の方位はN-31°-Eである。S126と同じく小型長方形竪穴からの拡張が確認される。 **位置:** 第1次調査区の南西隅。 **規模:** 南北4.48m×東西4.67mのほぼ方形で、確認面から床面までの深さは0.45～0.53mである。なお拡張前は、柱穴と貯蔵穴の位置関係から、東西はやや狭いかほぼ同じで、南北が3.0m前後の長方形であったものと思われる。 **覆土:** 自然堆積で、中・下層にはローム粒や焼土が多く含まれていた。 **床面:** ほぼ平坦であるが、中央部は良く踏み固められており、周囲の壁際より数cm低くなっている。 **柱穴:** 主柱穴はP1～P4(直径33～36cm・深さ55～65cm)の4本で、柱間距離は南北2.35m×東西2.40mのほぼ方形に配置されている。また拡張前の主柱穴はP5・P6(直径37～43cm・深さ57～62cm)の2本で、柱間距離は1.70mである。なお拡張後のP4は、拡張前の貯蔵穴を埋め戻した後に掘ったものである。 **壁溝:** 幅10～15cm・深さ5～10cmの壁溝が全周している。なおP1とP2を結ぶように確認された溝は、炉1に切られており、拡張前の北壁に伴う壁溝の可能性が高い。 **間仕切り溝:** 主柱穴に向かって西壁から2本、東壁から1本が延び、南壁・北壁のそれぞれ中央部から1本ずつ延びている。いずれも規模は壁溝と同じくらいである。 **入口ピット:** 南壁やや東寄り、60cmほど内側で確認されたP7が位置的に入口ピットとみられる。東西35cm×南北24cm×深さ30cmの隅丸長方形の小穴で、南壁に向かってやや傾斜気味に掘られている。なお拡張前の入口ピットと思われるのはP8で、東西34cm×南北25cm×深さ27cmと拡張後ほぼ同型・同大である。 **貯蔵穴:** 拡張後の貯蔵穴は東南コーナーに位置した貯1で、南北54cm×東西67cm×深さ45cmの精美な長方形土坑である。拡張前の貯蔵穴も同じ南東コーナーに位置し、ほぼ同型・同大(南北55cm×東西68cm×深さ43cm)で、拡張に伴って埋め戻されたものである。 **炉:** 拡張後の炉は北壁寄り中程に設けられた炉1で、南北66cm×東西38cm×深さ8cmの楕円形地床炉である。拡張前の炉は、東壁寄り中程に位置した炉2で、南北20cm×東西56cm×深さ3cmの細長い地床炉である。

**出土遺物:** 図示し得たのは、土師器の坏3点・高坏1点・甕2点及び須恵器の高坏1点である。

## 2 土坑

今回の発掘調査では17基の土坑が確認されている。平面形からは概ね円形（楕円形を含む）と長方形の2つに分類される。

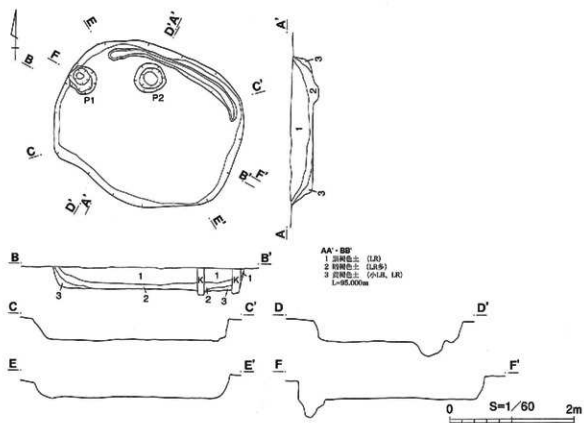
**円形土坑** 楕円形のものも含めると全体の8割近くを占めている。大きさは直径40cm弱のものから150cm近いものまでまちまちであるが、形状的には底部がほぼ平坦な円形が大半である。なおSK16は、深みのある胴部の中程が鼓状にしぼり込まれた特異な形状を有している。

**長方形土坑** 確認されたのは3基で、円形のものに比べ少ない。いずれも長軸を南北方向にとる点で共通しているが、大きさはまちまちである。この内SK10は規模・形状等から土坑墓の可能性が高いものと思われ、中層からは土師器壺等も出土している。

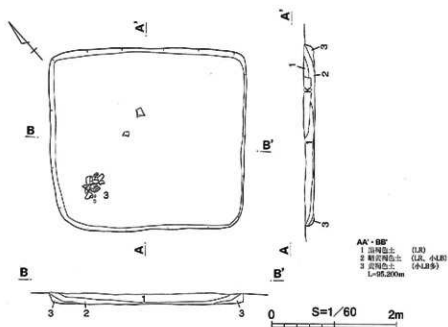
第2表 土坑一覧

遺構名	平面形	大きさcm	深さcm	遺構名	平面形	大きさcm	深さcm
SK01	円形	94×92	36	SK10	長方形	188×85	21
SK02	長方形	93×67	24	SK11	長方形	123×64	29
SK03	円形	75×72	22	SK12	楕円形	112×93	27
SK04	楕円形	(81)×79	28	SK13	楕円形	117×86	25
SK05	楕円形	43×34	25	SK14	円形	93×78	25
SK06	円形	75×66	27	SK15	円形	115×103	28
SK07	円形	43×42	33	SK16	楕円形	146×127	88
SK08	円形	47×42	20	SK17	円形	134×122	34
SK09	円形	48×44	26				

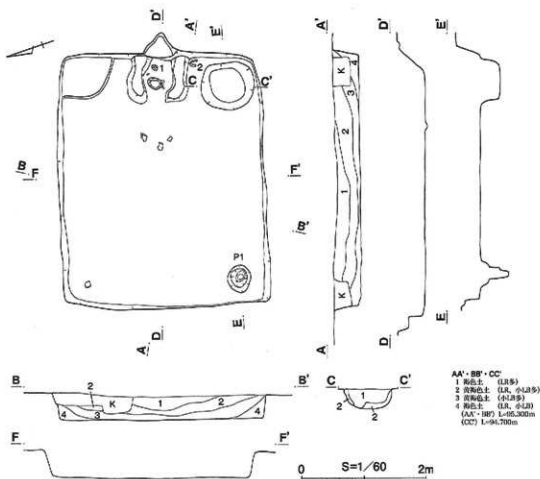




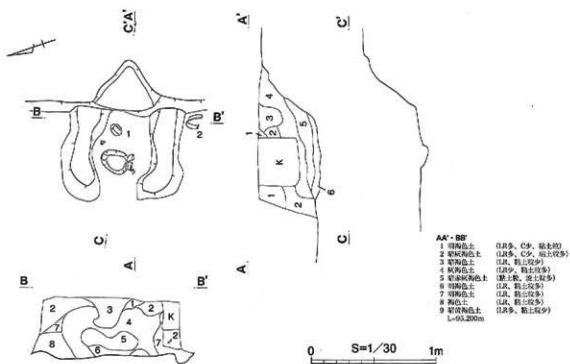
第5圖 SI01



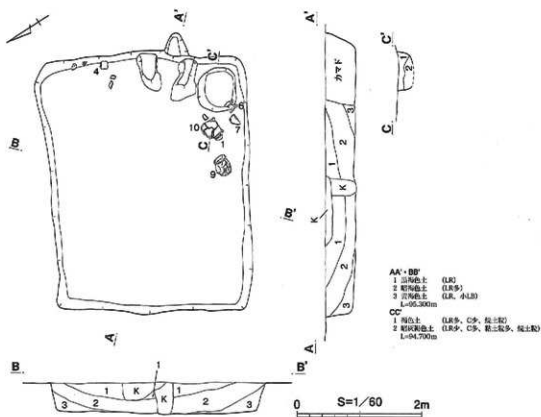
第10圖 SI04



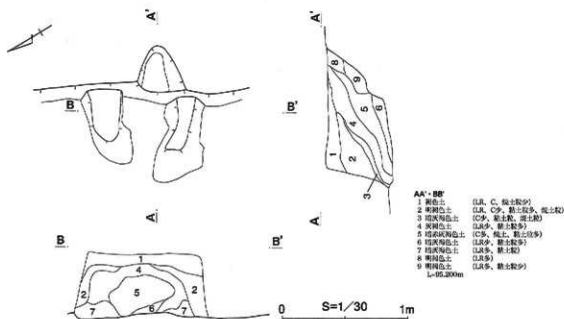
第6図 SI02



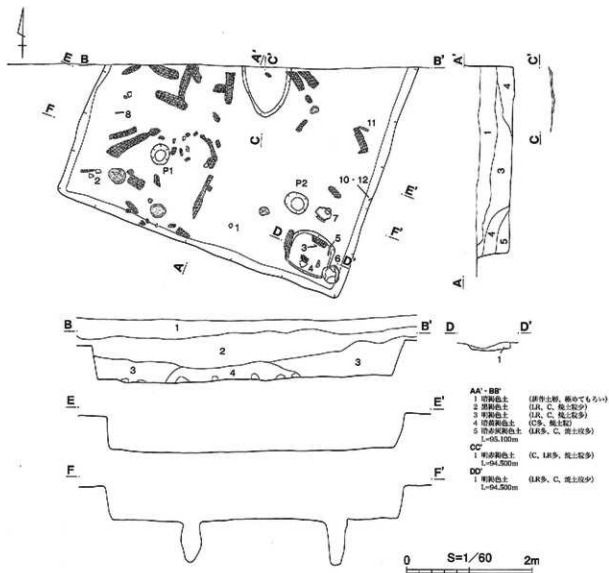
第7図 SI02カマド



第8図 SI03

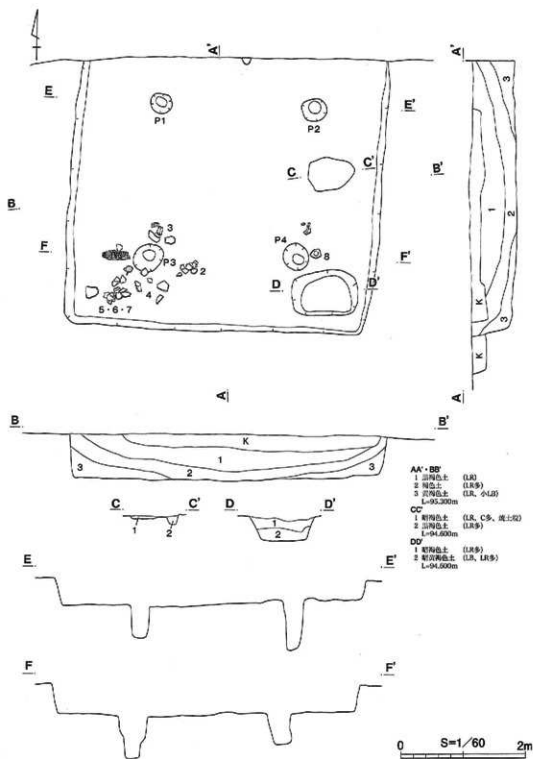


第9図 SI03カマド

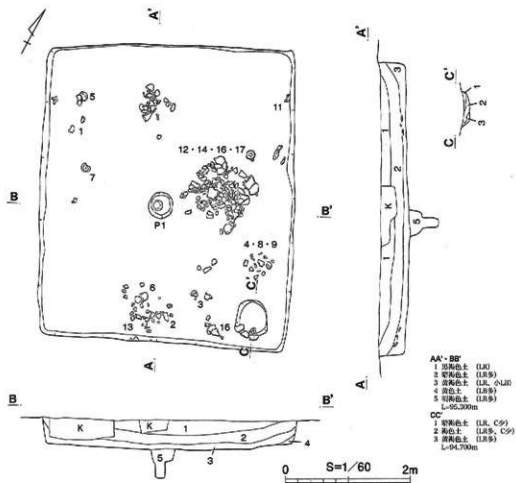


第11圖 SI05

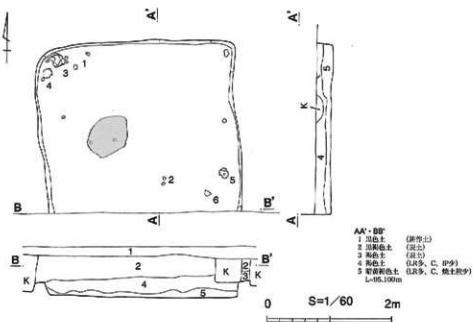




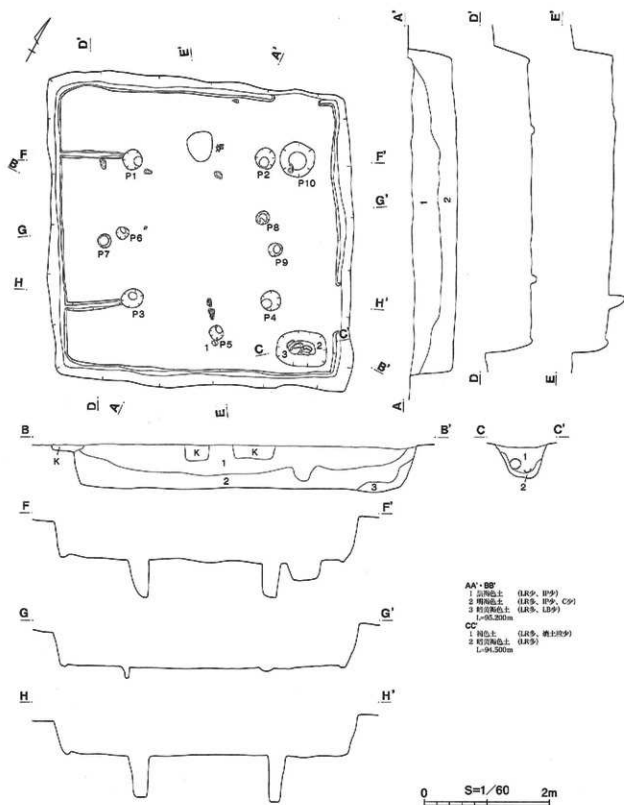
第12圖 SI06



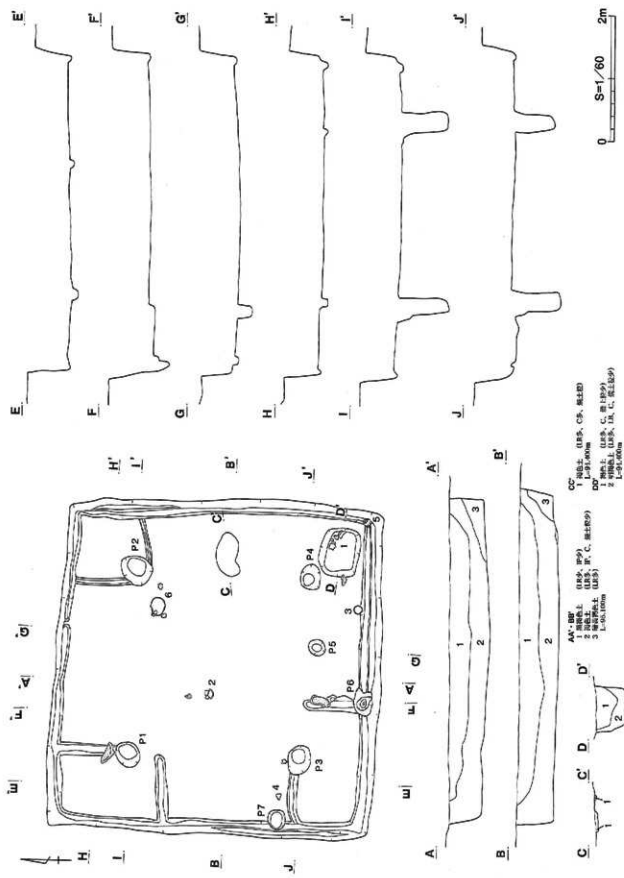
第13图 SI07



第17图 SI11

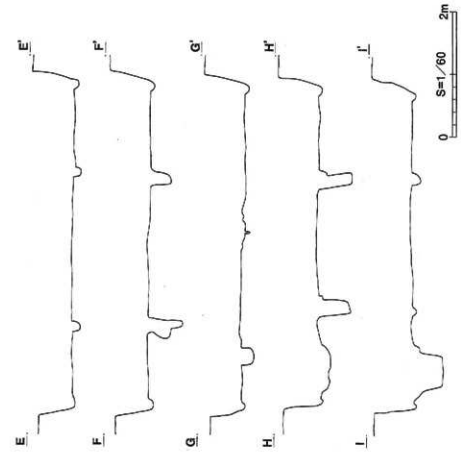
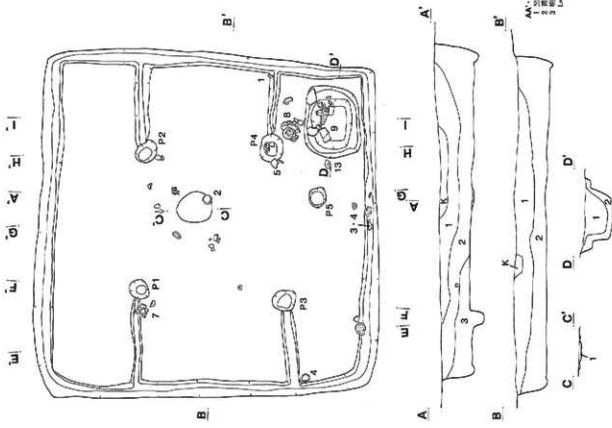


第14圖 S108



1. 遺跡 (USP, P. C., 遺跡) 1. 遺跡 (USP, P. C., 遺跡)  
 2. 遺跡 (USP, P. C., 遺跡) 2. 遺跡 (USP, P. C., 遺跡)  
 3. 遺跡 (USP, P. C., 遺跡) 3. 遺跡 (USP, P. C., 遺跡)  
 4. 遺跡 (USP, P. C., 遺跡) 4. 遺跡 (USP, P. C., 遺跡)  
 5. 遺跡 (USP, P. C., 遺跡) 5. 遺跡 (USP, P. C., 遺跡)  
 6. 遺跡 (USP, P. C., 遺跡) 6. 遺跡 (USP, P. C., 遺跡)

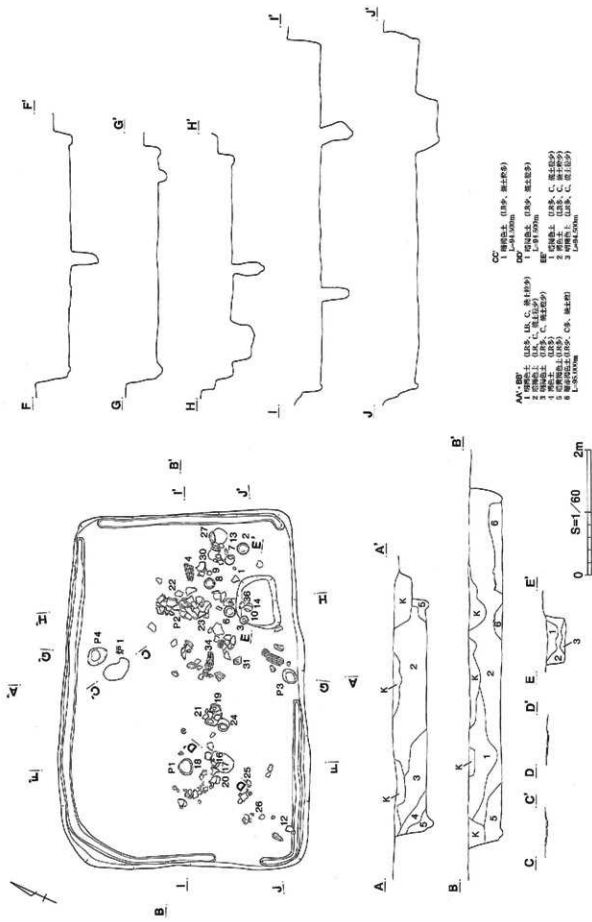
第15圖 S109



CC  
 1 1号粘土 (LS, 黒土) 厚100mm  
 2 2号粘土 (LS, 黒土) 厚100mm  
 3 3号粘土 (LS, 黒土) 厚100mm  
 4 4号粘土 (LS, 黒土) 厚100mm

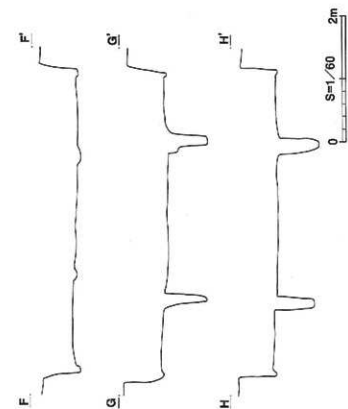
AA', BB'  
 1 1号粘土 (LS, C) 厚100mm  
 2 2号粘土 (LS, C) 厚100mm  
 3 3号粘土 (LS, C) 厚100mm  
 4 4号粘土 (LS, C) 厚100mm

第16図 S110

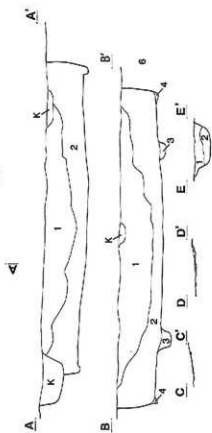
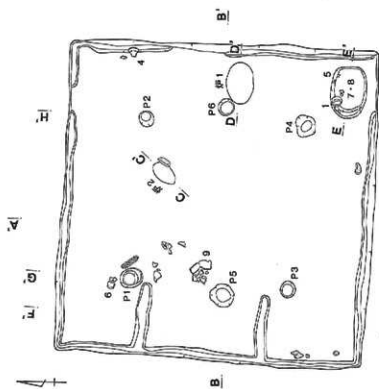


AA'・BB'  
 1 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 2 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 3 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 4 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 5 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 6 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 7 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 8 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 9 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 10 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 11 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 12 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 13 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 14 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 15 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 16 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 17 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 18 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 19 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 20 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 21 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 22 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 23 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 24 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 25 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 26 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 27 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 28 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 29 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 30 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 31 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 32 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 33 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 34 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 35 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 36 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 37 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 38 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 39 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 40 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 41 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 42 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 43 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 44 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 45 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 46 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 47 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 48 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 49 砂礫土 (砂礫、粘土質)  
 50 砂礫土 (砂礫、粘土質)

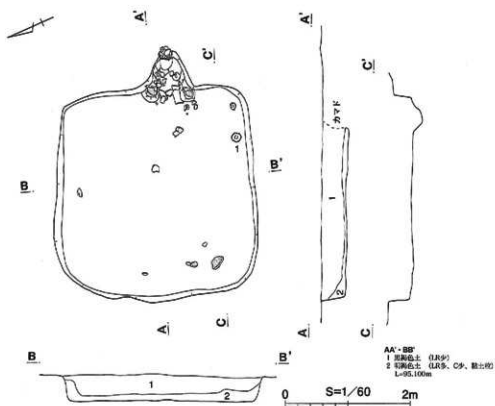
第18圖 S112



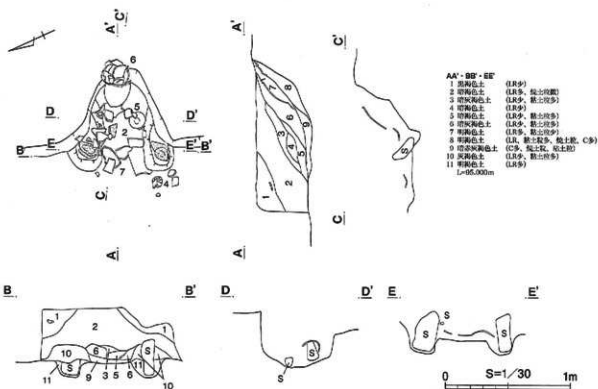
AA' BB' EE' (1) 1:100  
 2 1:100 (1) 1:100  
 3 1:100 (1) 1:100  
 4 1:100 (1) 1:100  
 (1) 1:100 (1) 1:100



第19図 S113

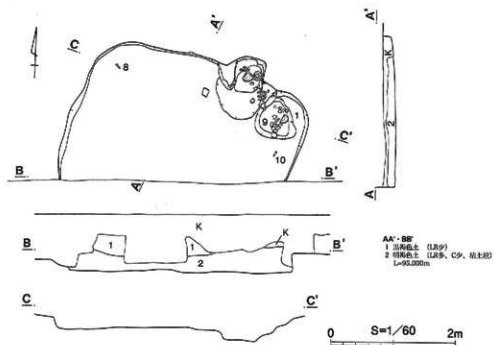


第20図 SI14

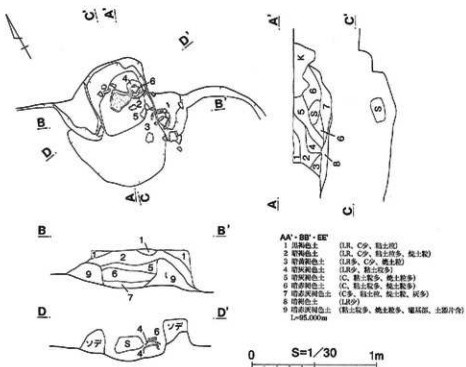


第21図 SI14カマド

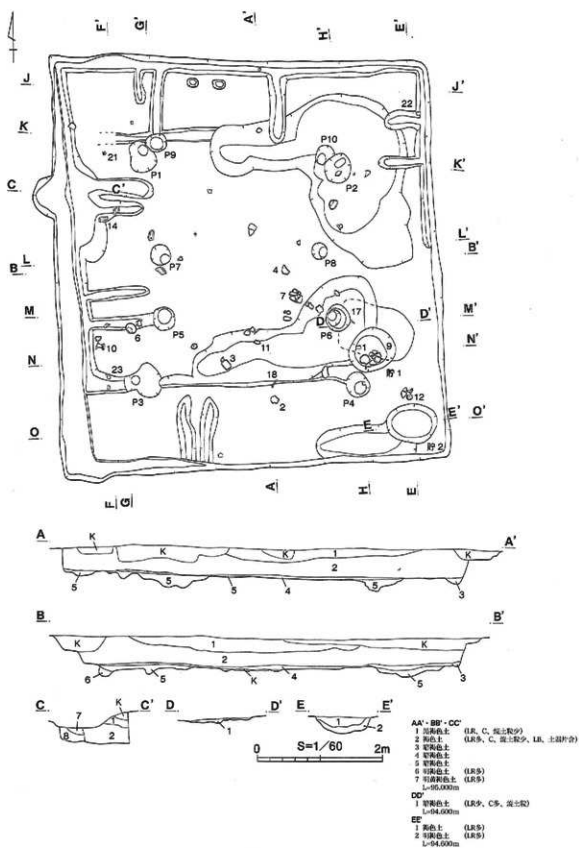




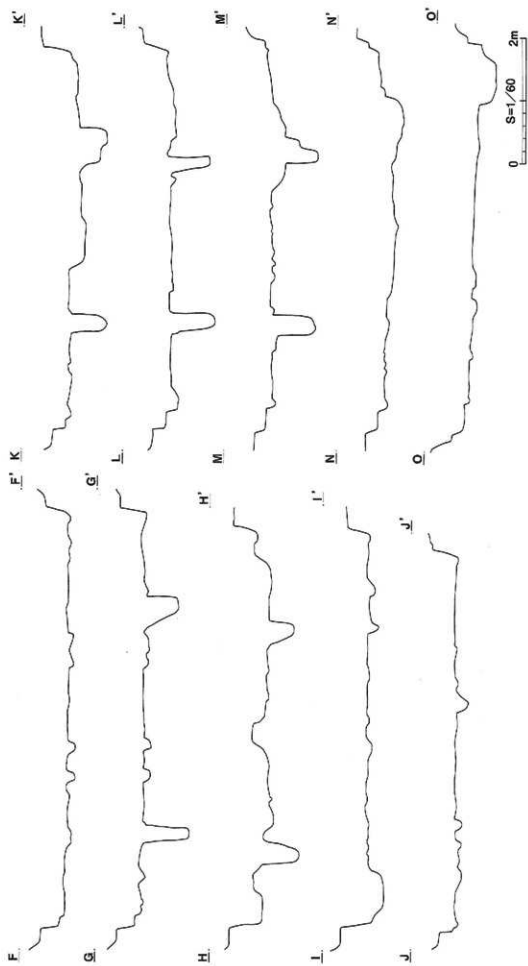
第22図 SI15



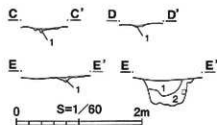
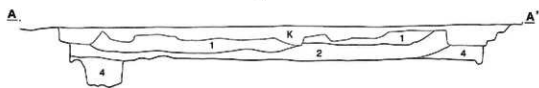
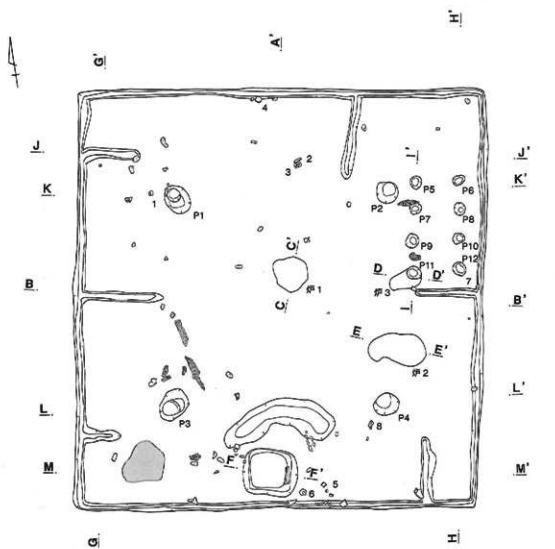
第23図 SI15カマド



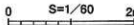
第24图 SI16 (1)



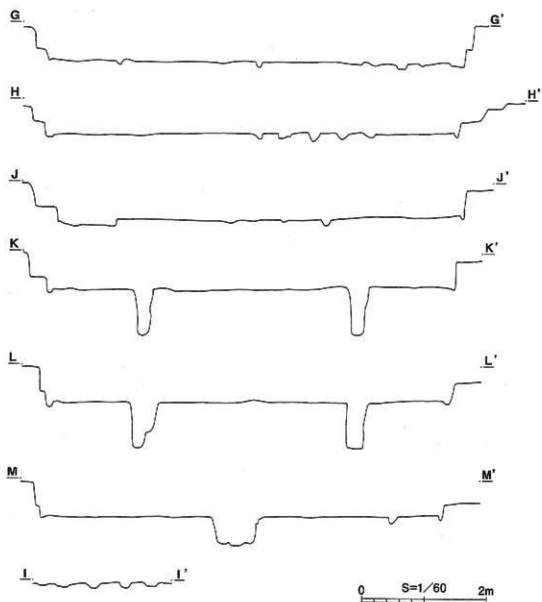
第25圖 S116 (2)



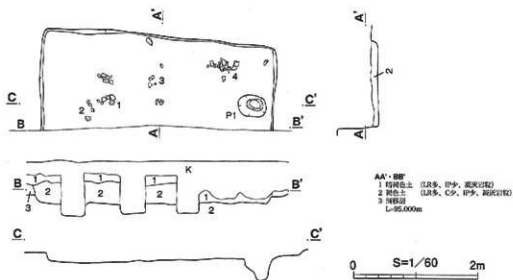
- |           |                        |           |                    |
|-----------|------------------------|-----------|--------------------|
| AA'-BB'   | 剖面土 (L沙, LB沙, IP沙)     | DD'       | 1 剖面土 (L沙, C, 粘土层) |
| 1         | 剖面土 (L沙, LB沙, IP沙)     | EE'       | 1 剖面土 (L沙, C, 粘土层) |
| 2         | 剖面土 (L沙, C, 粘土层)       | 2         | 剖面土 (L沙, LB沙)      |
| 3         | 剖面土 (L沙, LB沙, CM, 粘土层) | L=94,600m |                    |
| 4         | 剖面土 (L沙, LB沙)          | FF'       | 1 剖面土 (L沙)         |
| L=95,100m |                        | 2         | 剖面土 (L沙, LB沙)      |
| CC'       | 1 剖面土 (L沙, C, 粘土层)     | L=94,600m |                    |
| L=94,600m |                        |           |                    |



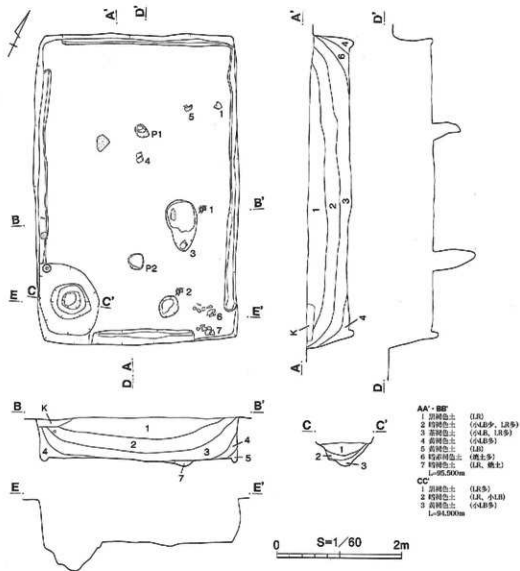
第26图 SI17 (1)



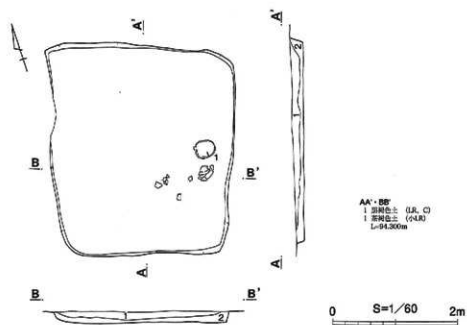
第27圖 SI17 (2)



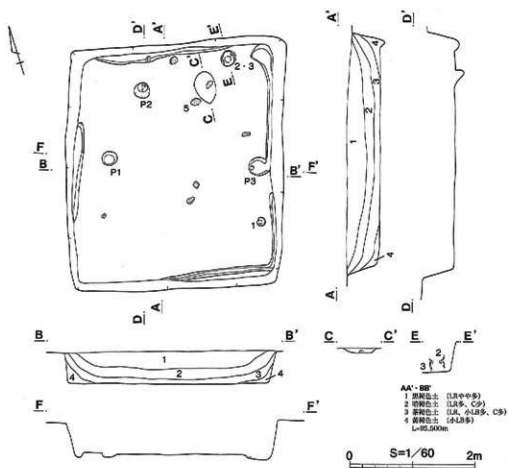
第28图 SI18



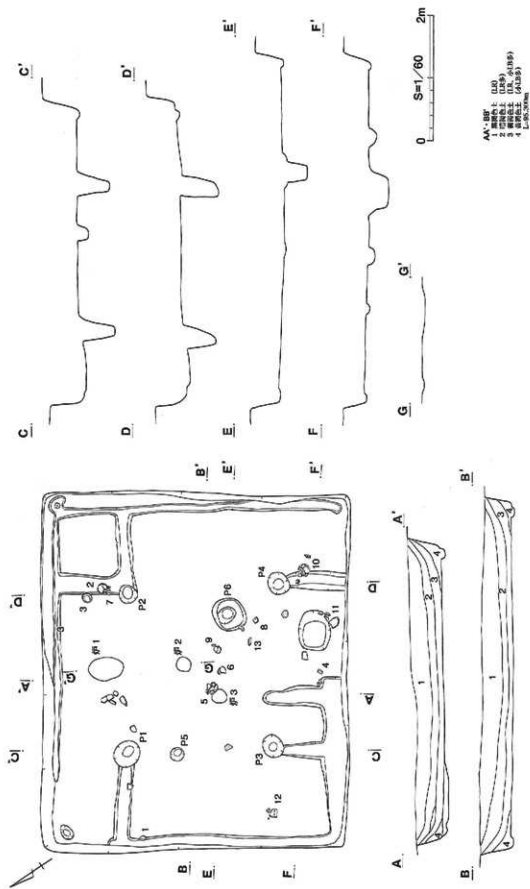
第33图 SI22



第31图 S120

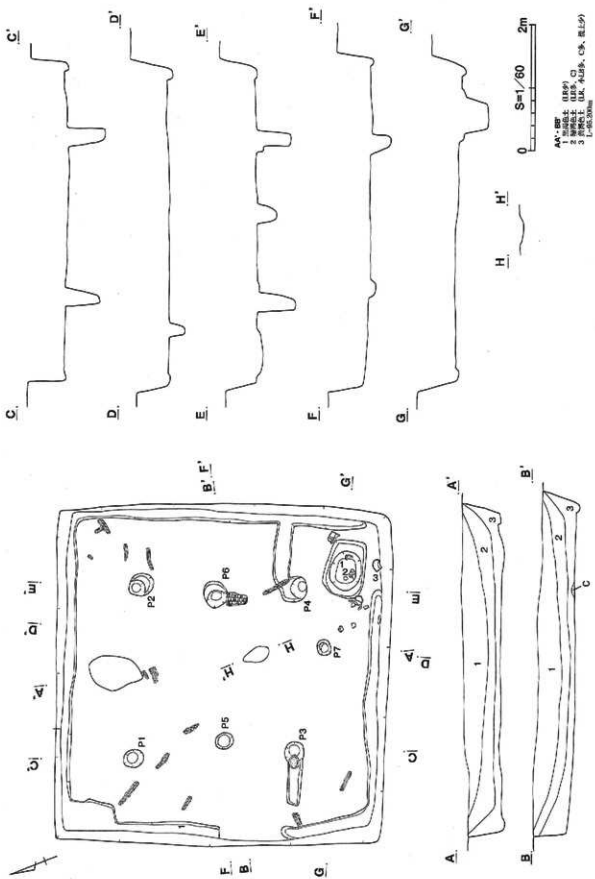


第32图 S121

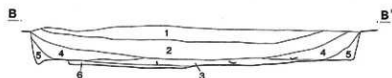
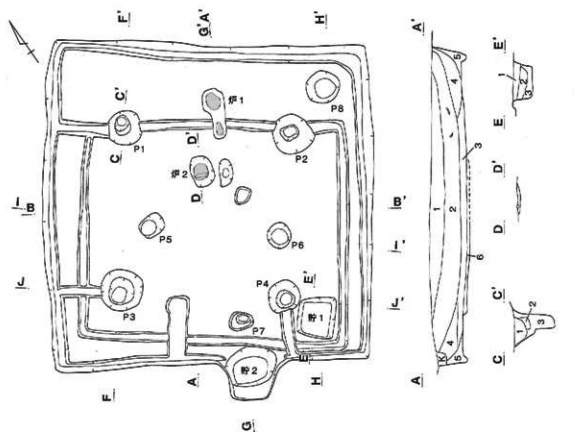


第34圖 S123





第35圖 S124



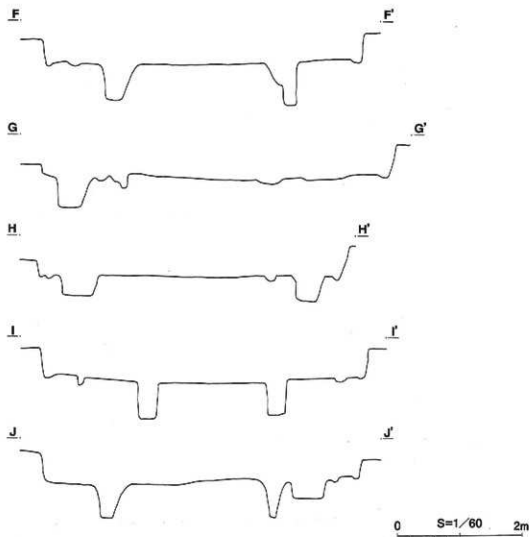
AA'·BB'  
 1 白粉色土 (LJ)  
 2 褐色土 (LJ, LA, C)  
 3 白粉色土 (LJ, 少量, C)  
 4 灰褐色土 (LJ, C)  
 5 白粉色土 (LJ, 少量, 小LJ)  
 6 灰褐色土 (LJ, 大量, 中LJ, 少量, 泥质)  
 L=94.900m

CC'  
 1 白粉色土 (LJ, 小LJ, C)  
 2 灰褐色土 (LJ, 泥质)  
 3 白粉色土 (LJ, 少量)  
 L=94.900m

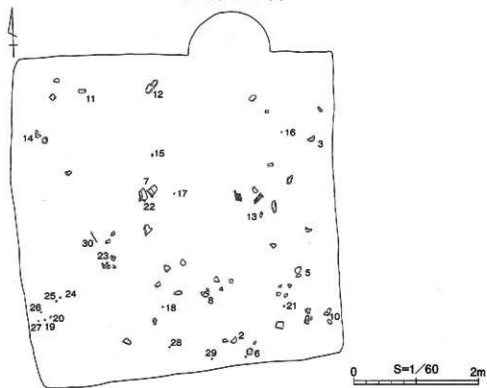
EE'  
 1 白粉色土 (LJ, LA, 少量)  
 2 褐色土 (LJ)  
 3 灰褐色土 (LJ, 大量, 大LJ)  
 L=94.900m

0 S=1/60 2m

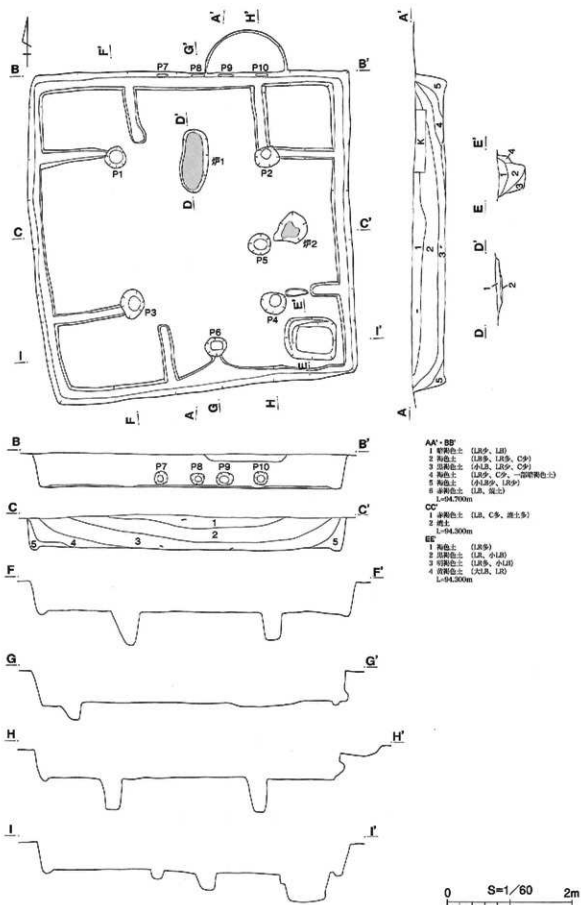
第36图 SI25 (1)



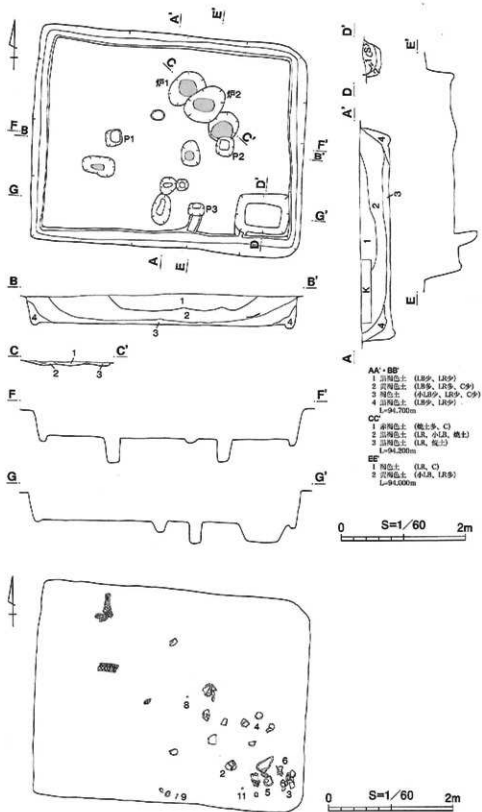
第37圖 SI25 (2)



第39圖 SI26 (2)



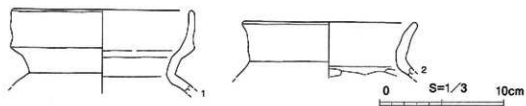
第38图 Si26 (1)



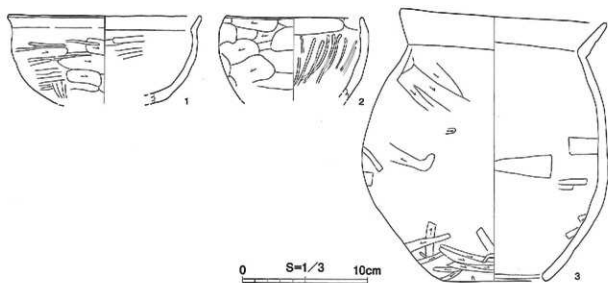
第40図 SI27



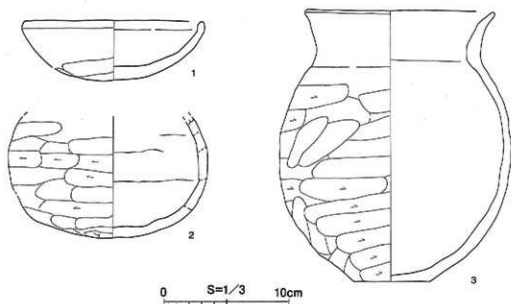




第43圖 S102出土遺物

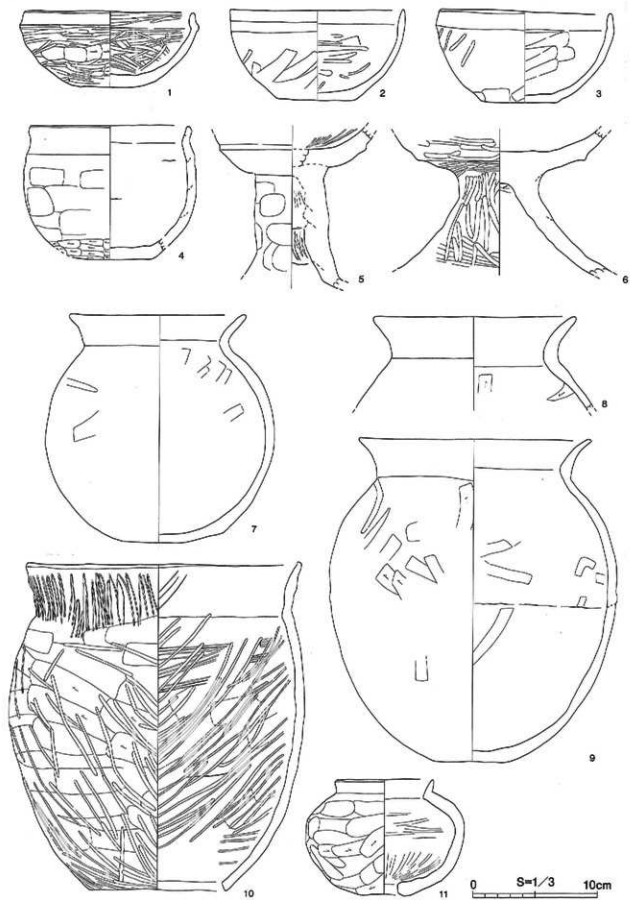


第45圖 S104出土遺物

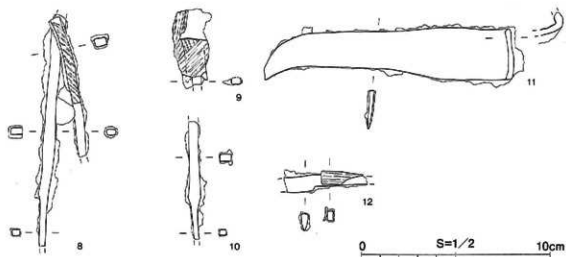
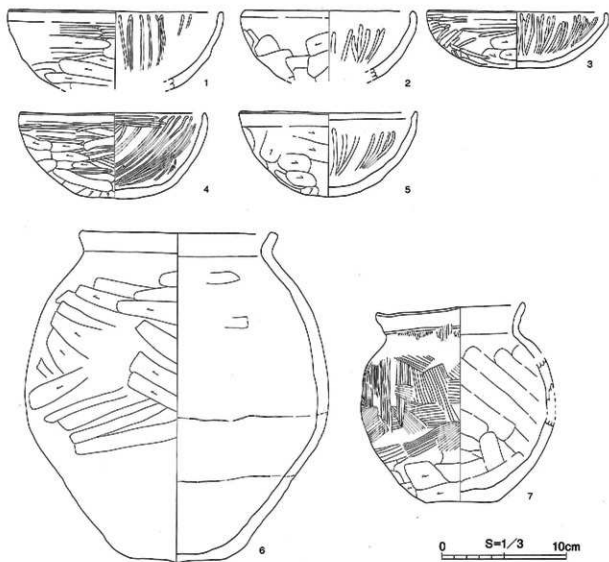


第50圖 S108出土遺物

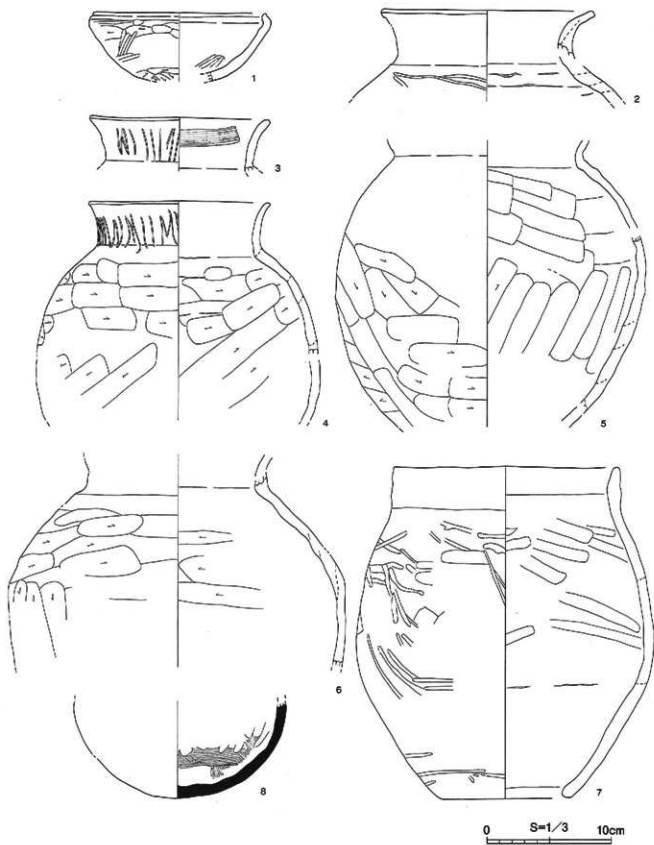




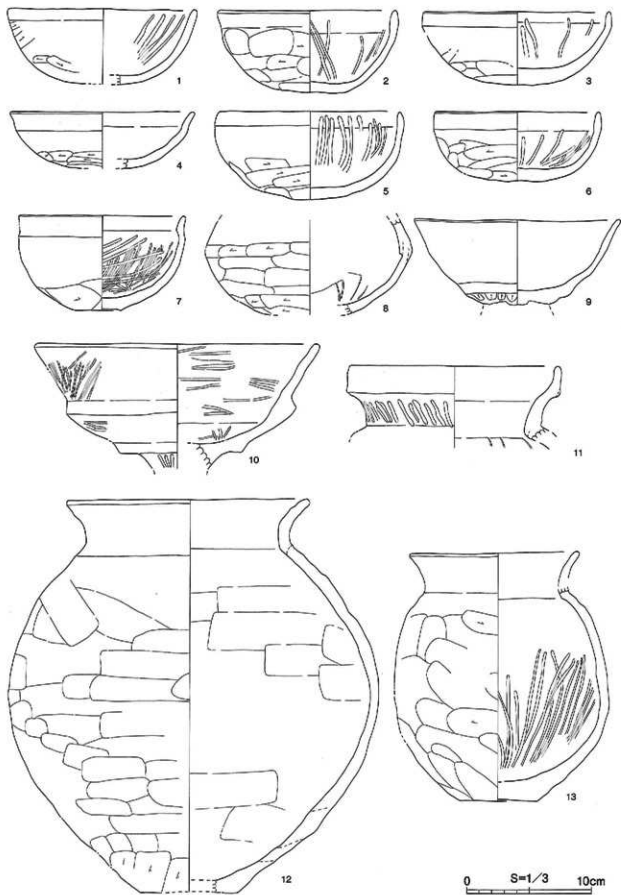
第44图 S103出土遗物



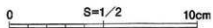
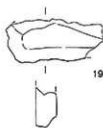
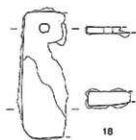
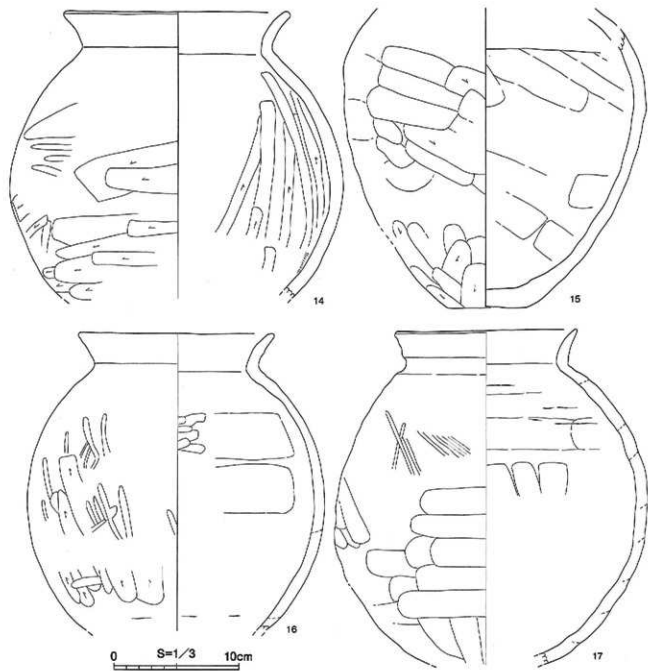
第46図 SI05出土遺物



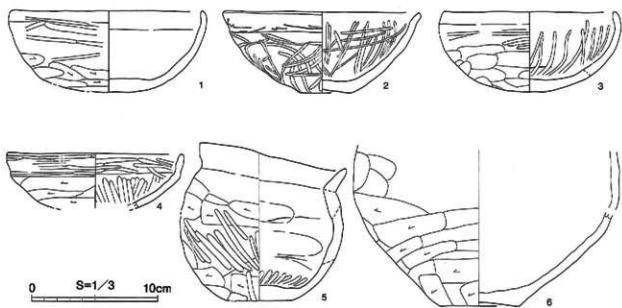
第47圖 SI06出土遺物



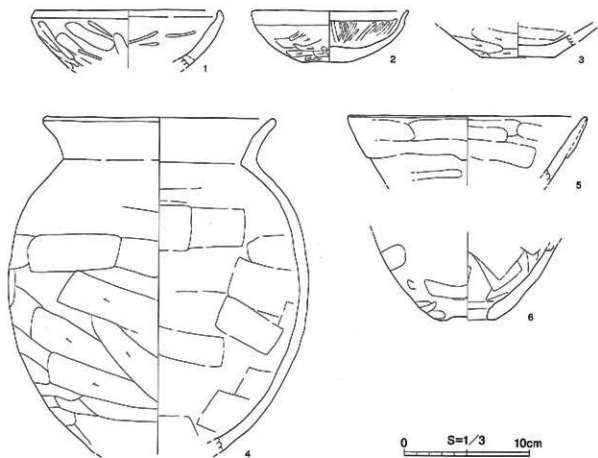
第48図 S107出土遺物 (1)



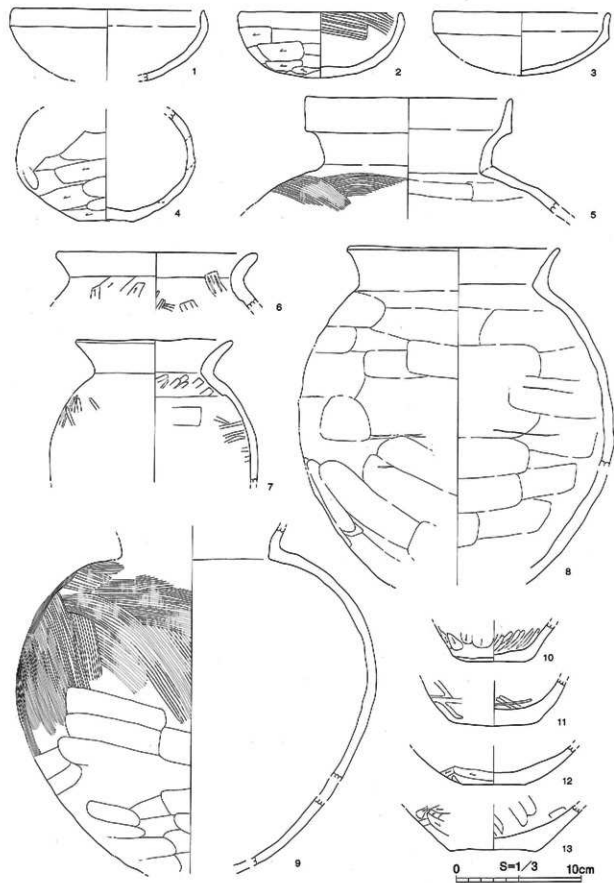
第49図 SI07出土遺物 (2)



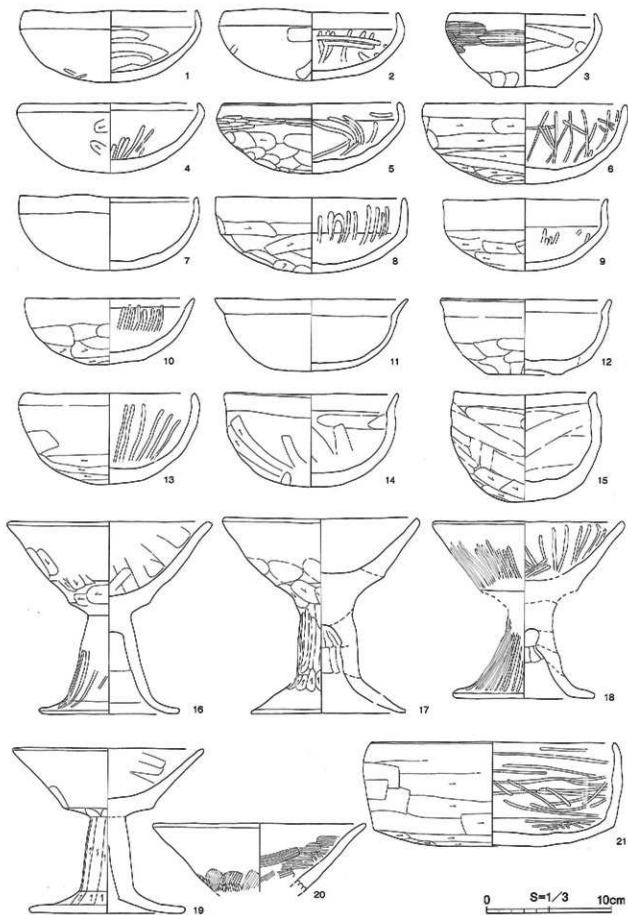
第51圖 S109出土遺物



第53圖 S111出土遺物

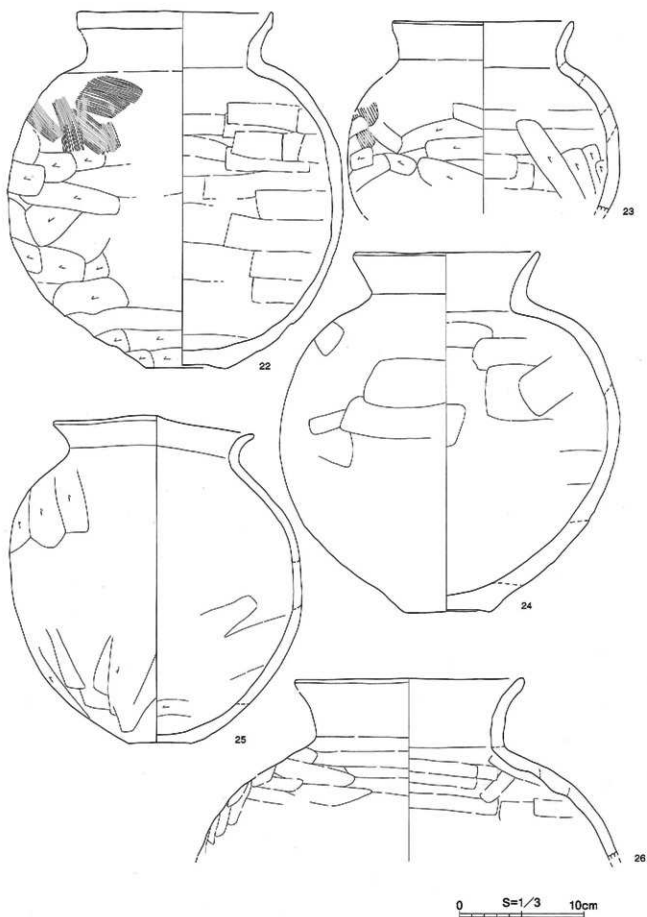


第52図 S110出土遺物

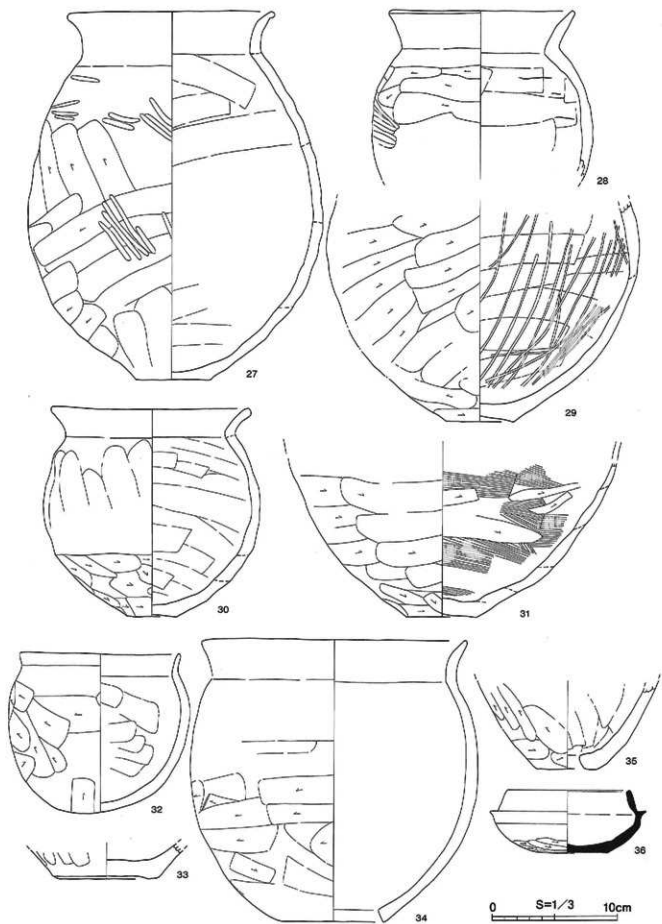


第54图 SI12出土遺物 (1)

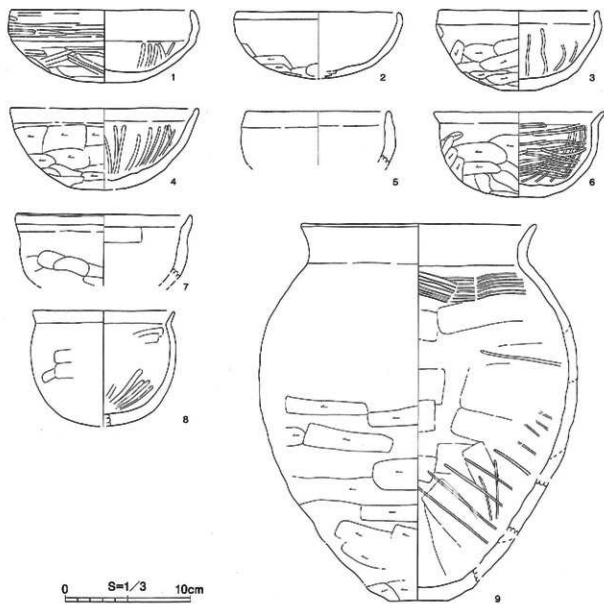




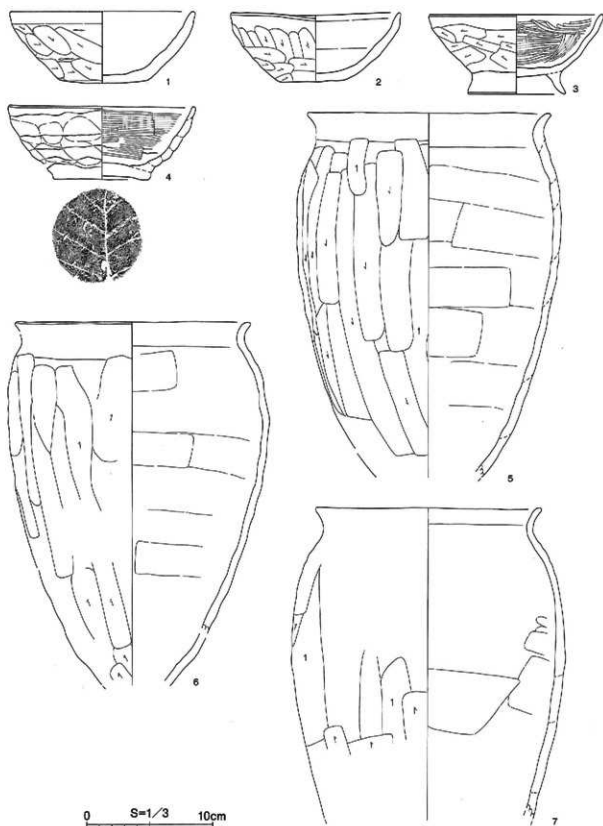
第55図 S112出土遺物 (2)



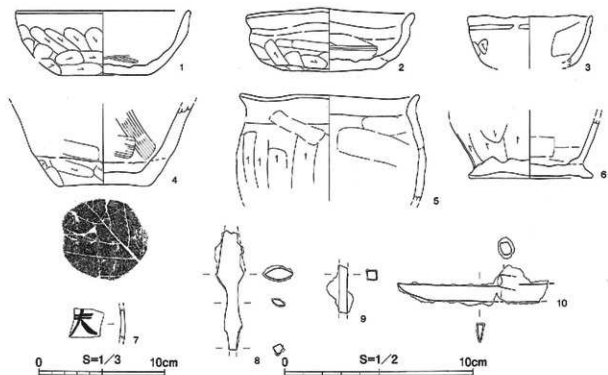
第56図 SI12出土遺物 (3)



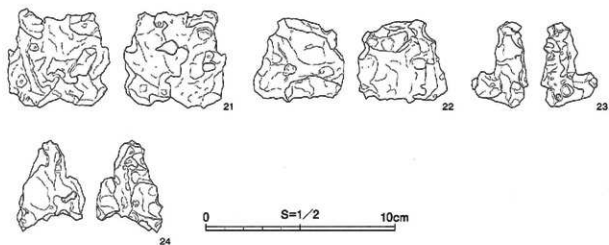
第57図 S113出土遺物



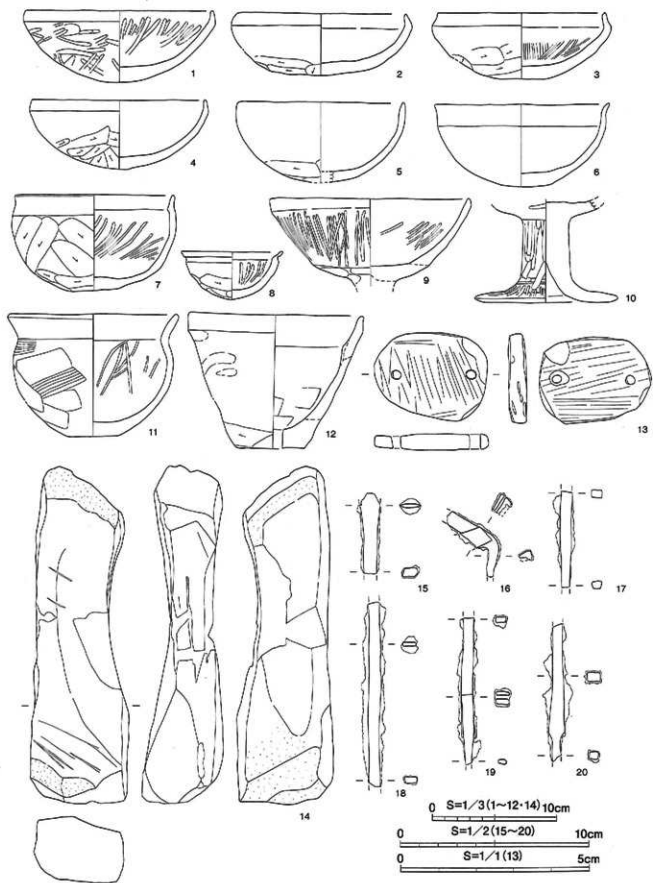
第58図 S114出土遺物



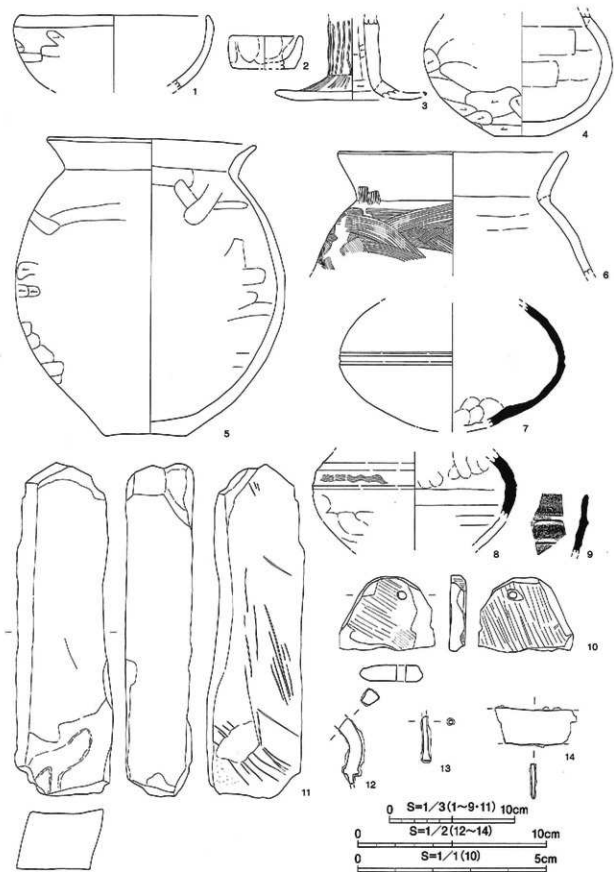
第59図 SI15出土遺物



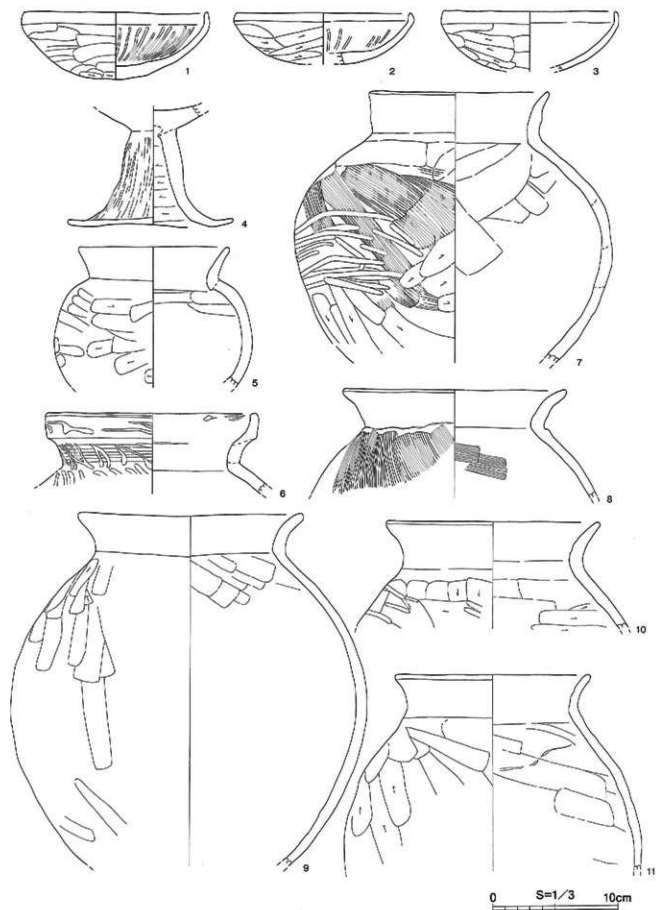
第61図 SI16出土遺物 (2)



第60図 SI16出土遺物 (1)

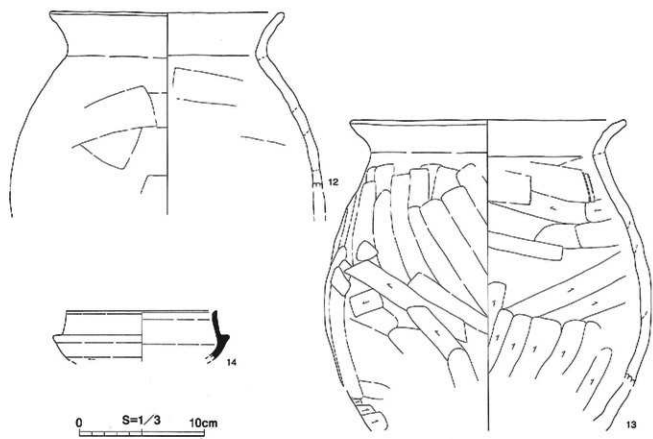


第62図 S117出土遺物

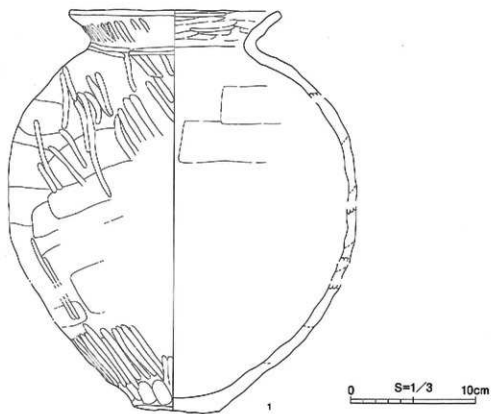


第64圖 SI19出土遺物 (1)

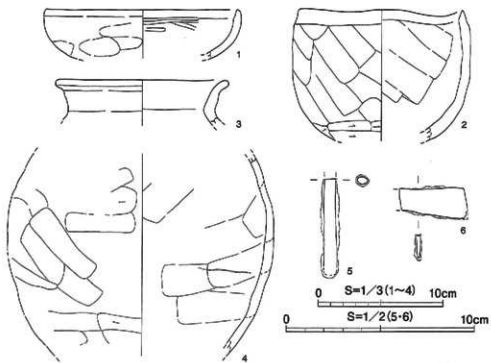




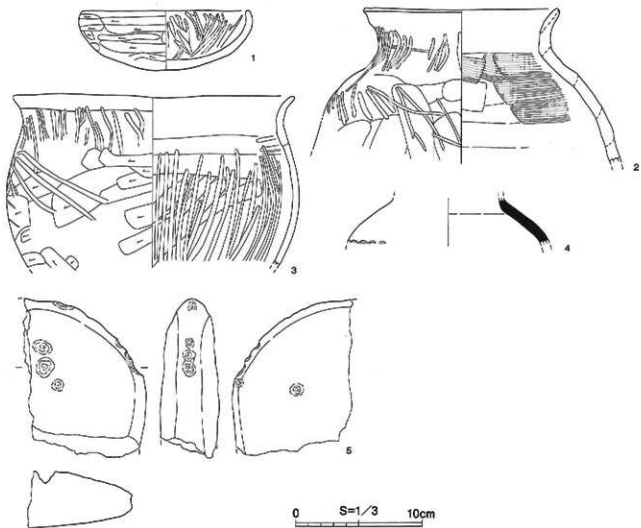
第65圖 S119出土遺物 (2)



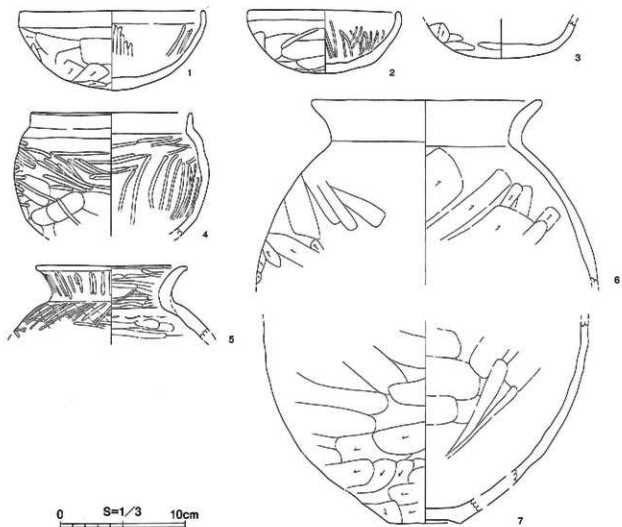
第66圖 S120出土遺物



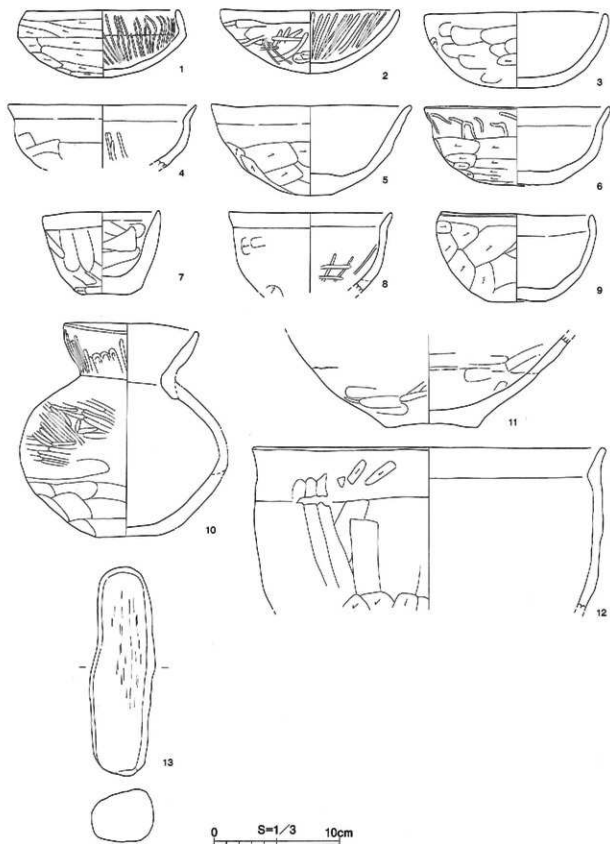
第63圖 SI18出土遺物



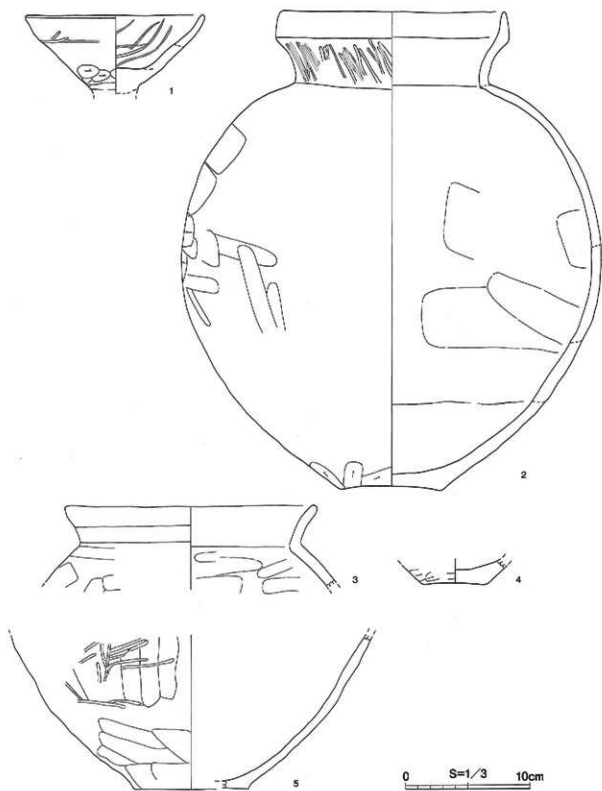
第67圖 SI21出土遺物



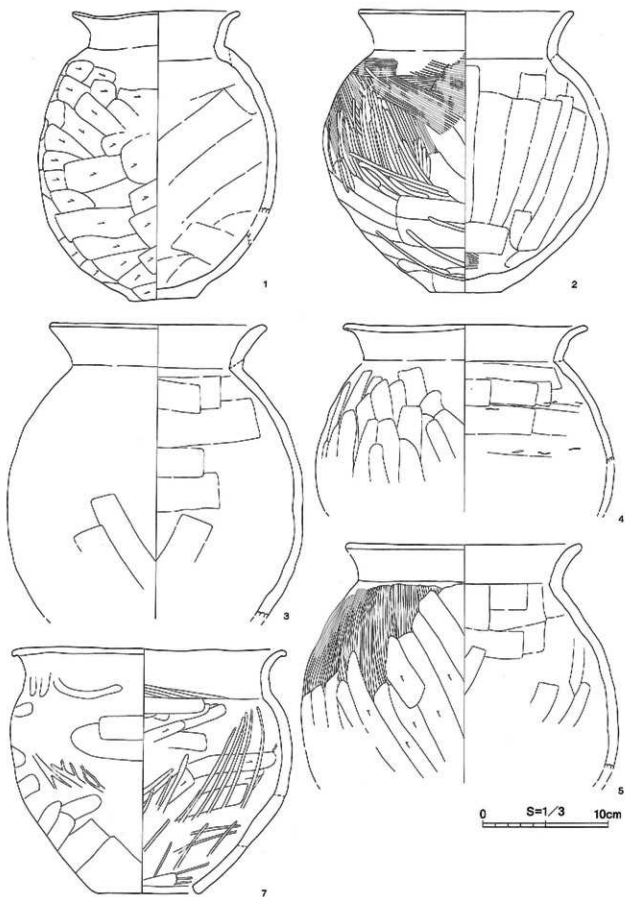
第68図 SI22出土遺物



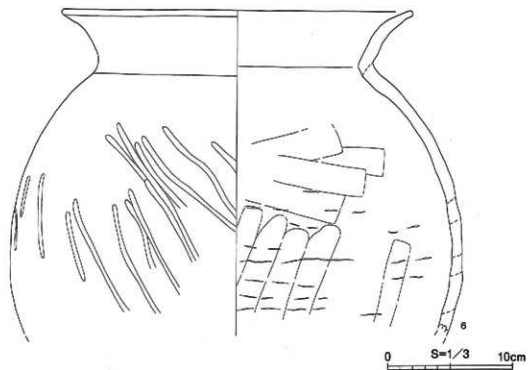
第69圖 S123出土遺物



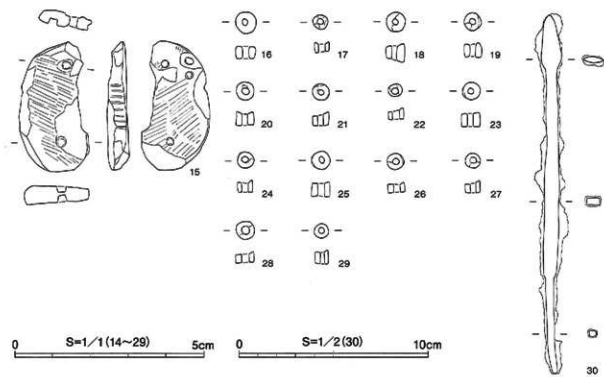
第70図 SI24出土遺物



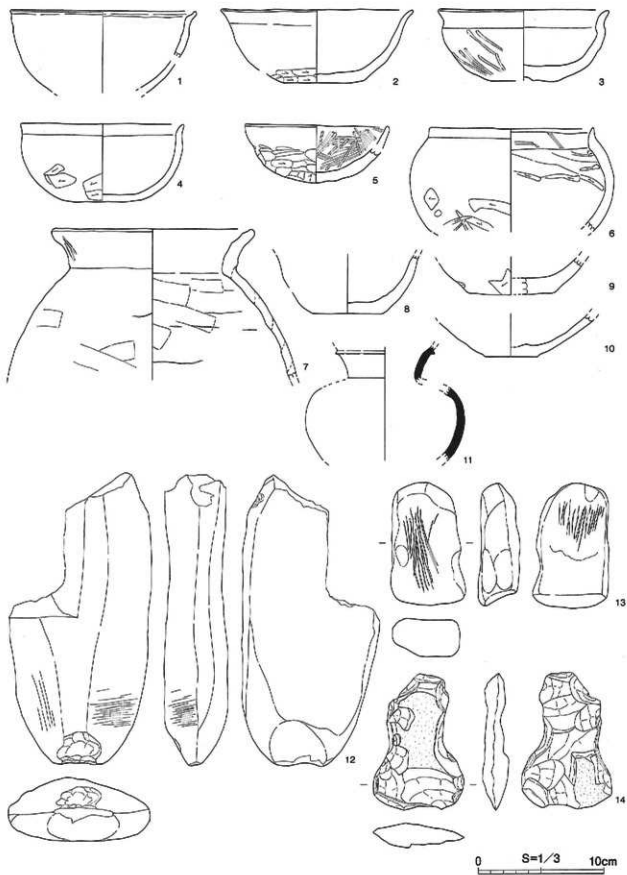
第71图 S125出土遺物 (1)



第72図 SI25出土遺物 (2)

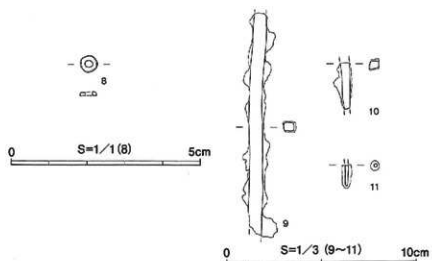
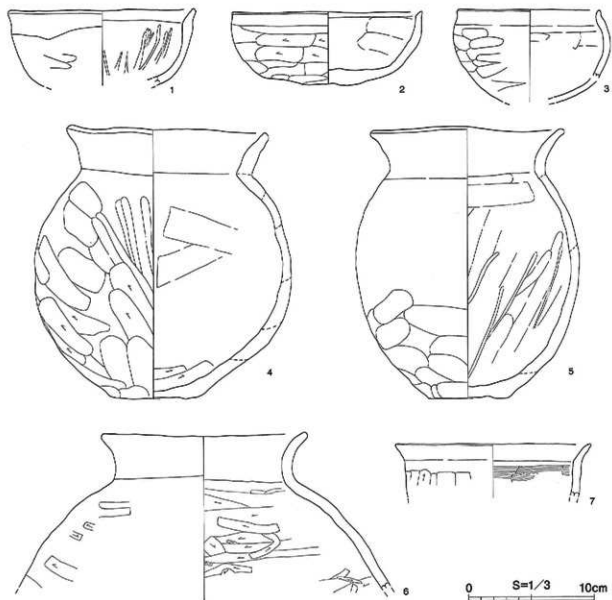


第74図 SI26出土遺物 (2)

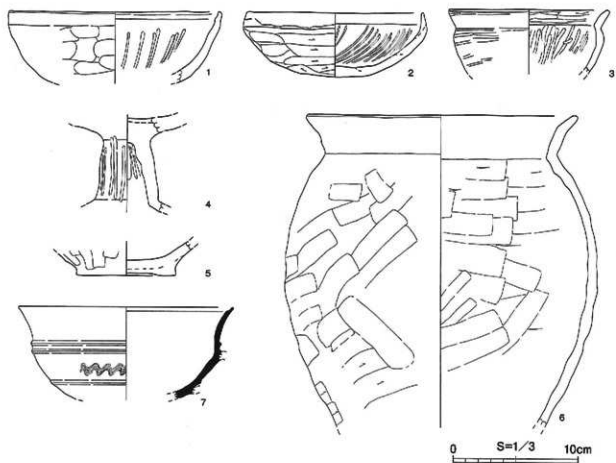


第73図 SI26出土遺物 (1)

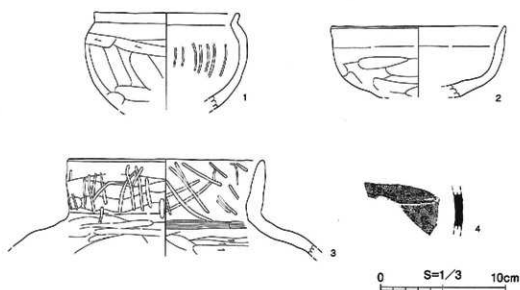




第75圖 SI27出土遺物



第76図 SI28出土遺物



第77図 SK10・その他出土遺物

第3表 S102出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師陶壺	(14.6)	(5.6)	-	口縁部はくの字状に外反し、底を持つて立ち上がる。	口縁部横ナデ。	にぶい橙色	澄母 白色砂粒 赤色砂粒	普通	カマド内	口縁部1/4残
2	土師陶壺	13.9	(4.4)	-	口縁部はくの字状に外反。	口縁部横ナデ。内面ヘラナデ。	にぶい赤褐色	白色白色砂粒	良好	カマド周辺	口縁部のみ残

第4表 S103出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師陶杯	13.5	6.0	-	体部外面に絞を持つ。口縁部は内傾し、肩部は短く立ち上がる。	肩部外面ヘラ磨り。口縁部横ナデ。体部内外全体にヘラ磨き。外面の一部はヘラ磨り。	橙色	石英 白色砂粒	良好	床面直上	完形
2	土師陶杯	(14.0)	7.2	6.0	平底。口縁部はそのまま立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ磨り。内面にはヘラ磨りとはヘラ磨きが施される。	黄褐色	石英 小砂粒	良好	竈ソデ内	1/3残
3	土師陶杯	13.8	7.4	6.0	平底。底部から体部にかけてやや平直。口縁部は短く立ち上がる。	外面全体にヘラ磨り。肩部外面にはヘラ磨り。体部内面ヘラナデ。外面大半及び内面一部にスチ付着。	にぶい橙色	澄母 白色砂粒	普通	貯蔵穴内	3/4残
4	土師陶壺	(12.8)	10.7	6.3	底部にヘラ磨りを施しやや平直。丸い体部を持つ。口縁部はくの字状に短く外反。	口縁部横ナデ。体部外面全体にヘラ磨り。底部外周のヘラ磨りは体部の磨りより細かく施される。内面底部付近にスチ付着。	にぶい黄褐色	石英 白色砂粒 黒砂粒	普通	床面直上	4/7残
5	土師陶高杯	-	(12.7)	-	胴部と杯座上半穴直。杯体部に絞を有する。	杯座内面にヘラ磨り。胴部外面横ナデ。胴部内面横ナデを施した後、杯状の工具で押さえた痕跡。	にぶい橙色	石英 黒砂粒	良好	甕 覆土下層	高杯下半1/3残
6	土師陶高杯	-	(11.5)	-	杯座上半穴直。杯体部に絞を有する。胴部は直つ直く立ち上がることなく腰やかに大きく開く。	杯座外周ともに外面にヘラ磨き。胴部内面は横ナデ。	橙色	石英 黒砂粒	良好	貯蔵穴内	高杯下半2/3残
7	土師陶壺	13.8	18.0	-	底部に磨りを施しやや平直。口縁部はくの字状に外反。	口縁部横ナデ。口縁部を再渡ナデ。胴部内外面にヘラ磨りとはヘラナデを施す。外面にスチ付着。	橙色	澄母 黒砂粒	良好	床面直上	1/3残
8	土師陶壺	(16.0)	(7.1)	-	口縁部がくの字状に外反。	口縁部横ナデ。内面ヘラ磨り。	橙色	黒色塗	良好	覆土下層	1/15残
9	土師陶壺	(18.2)	(25.6)	5.0	口縁部がくの字状に外反。底部はやや平。	口縁部横ナデ。口縁部を工具を用いてさらにナデを施す。胴部内外面ともに一部ヘラ磨り。胴部上半にスチ付着。内面底部にスチあり。	橙色	石英 長石 小砂粒	良好	床面直上	2/3残
10	土師陶甕	21.8	21.0	10.7	瓶口。頸あり。口縁部は外反する。	口縁部横ナデの後、ヘラ磨き。胴部全体にヘラ磨りの後ヘラ磨り。内面にはヘラ磨りの後、上手一部に黒毛目調整を施し、その後全体にヘラ磨り。外面の一部にスチ付着。	にぶい橙色	細砂粒	良好	床面直上	完形
11	土師陶甕	7.8	9.1	-	頸部の孔は径1.5cm程の不密円形で、焼成後に穿たれている。口縁部は真直に短く外反する。	口縁部横ナデ。胴部外面全体にヘラ磨り。内面はヘラ磨り。外面にスチ付着あり。	明赤褐色	石英・澄母 黒砂粒	良好	貯蔵穴内	ほぼ完形

第5表 S104出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師陶杯	(15.4)	(7.0)	-	口縁部が外反。	口縁部横ナデ。体部外面は斜め方向のヘラ磨りの後、ヘラ磨き。内面は一部にヘラ磨き。	橙色	黒砂粒	良好	覆土中層	1/5残
2	土師陶甕	(11.2)	(6.6)	-	口縁部がやや内傾。丸い体部を持つ。	口縁部横ナデ。外面全体にヘラ磨りを施し、体部下側にスチ付着。体部内面にはヘラ磨り。	明赤褐色	黒砂粒	良好	覆土中層	上半1/6残
3	土師陶甕	15.7	21.1	8.3	口縁部がくの字状に外反。環状の頸部を有する。瓶口。	口縁部横ナデ。胴部内外ともにヘラ磨り。外面はヘラ磨りの後に斜め方向のヘラ磨り。	淡黄褐色	砂粒	良好	床面直上	ほぼ完形

第6表 S105出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師陶弁	(17.0)	(5.2)	-	口縁部が短く立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部内外ともにヘラ磨きを施し、外面はヘラ磨きの後に斜め方向のヘラ磨り。	にぶい橙色	黒砂粒	良好	覆土下層	1/8残
2	土師陶弁	(14.0)	(5.5)	-	口縁部がやや内傾。丸い体部に短く立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ磨り。内面ヘラ磨り。外面にもスチ付着あり。	にぶい赤褐色	石英 黒砂粒	良好	床面直上	1/5残

3	土師器 杯	14.5	4.5	-	口縁肩部が短く立ち上がる。丸底で半球状を呈する。	口縁部傾ナズ。体部外面にへら ノリを施した地へラ磨き。体 部内面は放射状にへら磨き。 内外面ともにスス付着。	にぶい・橙色	黒砂粒	良好	野原穴内	完形
4	土師器 杯	15.0	6.8	-	丸底。口縁肩部がやや立ち 上がる。半球形。	口縁部傾ナズ。体部内外面と もに全体にへら磨き。体部外 面はへら磨きの後へら磨きを 施す。	にぶい・橙色	石英 黒砂粒	良好	野原穴内	4/5残
5	土師器 杯	14.1	6.6	-	丸底。口縁肩部がやや外 反。半球状を呈する。	口縁部傾ナズ。体部外面は不 定方向にへら磨り。内面は放 射状にへら磨き。	明赤褐色	石英 黒砂粒	良好	野原穴内	3/4残
6	土師器 甕	(15.9)	26.2	(7.5)	平底。口縁部はくの字状に 傾く外反。	口縁部傾ナズ。胴部外面全体 にへら磨り。胴部上半は上方 方向に磨り。下半は下方方向 に磨り。内面に黒粒着。	浅黄褐色	小石	普通	床面直上	4/5残
7	土師器 小瓶	(12.0)	10.5	5.5	胴部が球脚状を呈し、平 底。口縁部はくの字状に外 反。	胴部外面全体に黒毛目調整 を施し。胴部内面にはへら磨 り。口縁部傾ナズ。胴部内面 は全体にへらナズ。	にぶい・橙色	黒砂粒	良好	床面直上	3/4残

第7表 S105出土鉄製品観察表

No	器種	残存部位	法量 (cm)	重量 (g)	出土地点	備考
8	鉄鏃	a: 頸部・茎部 b: 頸部・茎部	a全長: (12.1) [頸部]長: (9.7)、幅: 0.7、厚: 0.4 [茎部]長: (2.4)、幅: 0.4、厚: 0.3 b全長: (7.4)、幅: 0.6、厚: 0.4	18.53	床面直上	aは計の縮小。 bには木質が付着している。 a, bともに長頸型とみられる。
9	鉄鏃?	胴部?	長: 不明、幅: 不明、厚: 0.2	4.24	覆土下層	胴状部磨りもしくは放射状三角形の磨みか、 木質が全部に付着する。
10	鉄鏃	頸部・茎部	全長: (6.3) [頸部]長: (4.0)、幅: 0.5、厚: 0.4 [茎部]長: (2.3)、幅: 0.5、厚: 0.2	5.46	覆土下層	無磨みか。
11	鉄鏃	刃部	全長: 13.8、厚: 0.3 基部幅: 2.6	50.04	覆土下層	基部が手前に折り返されており、その断面はくの字状を呈する。
12	刀子	刃部・茎部	全長: (4.4) [刃部]長: (1.5)、幅: 0.9、厚: 0.3 [茎部]長: (2.9)、幅: 0.5、厚: 0.3	3.25	覆土下層	茎部に木質が付着。

第8表 S106出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	胴部の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 甕	(14.4)	(5.4)	-	口縁部をくの字状に内転さ せて縁をせき、頸部を粗め の磨きを施す。頸部を粗め の磨きを施す。	口縁部傾ナズ。体部外面はへ ら磨り。内面は傾ナズ。一部にへ ら磨き。内面底部にへら磨き。	にぶい・橙色	黒砂粒	良好	野原穴内	1/6残
2	土師器 甕	17.0	(7.2)	-	口縁部はやや大きく外反。	外面の一部にへら磨き。内面 には黒粒着。	にぶい・褐色	雲母 黒砂粒	良好	覆土下層	口縁部3/4残
3	土師器 甕	14.4	(4.7)	-	口縁部は緩やかに外反。	外面は傾ナズ後に縦方向に磨 いたへら磨き。内面は傾ナズ後 に一部に横方向の黒毛目調 整。内外面ともにスス付着。	にぶい・橙色	石英 黒砂粒	良好	覆土下層	口縁部4/7残
4	土師器 甕	(14.5)	(17.4)	-	口縁部外反。球脚状。	口縁部傾ナズ。胴部外面全体 にへら磨り。二次磨きの痕あり。 口縁部外面は傾ナズの後、 縦方向に磨いたへら磨き。胴部 内面全体にへら磨り。黒粒 着。	にぶい・橙色	黒砂粒	良好	覆土下層	1/6残
5	土師器 甕	-	(22.7)	-	口縁部はくの字状に外反す 。球脚状。	口縁部傾ナズ。胴部外面へら 磨り。胴部内面はへらナズの 後へら磨り。内面にスス付着。	にぶい・橙色	石英 黒砂粒	良好	覆土中層	2/5残
6	土師器 甕	-	(16.8)	-	口縁部はくの字状に外反。 球脚状か。	口縁部傾ナズ。胴部上半外面 は縦方向のへら磨り。下半は 縦方向のへら磨り。内面横方 向のへら磨り。	にぶい・褐色	石英・長石 雲母 黒砂粒	良好	覆土下層	2/5残
7	土師器 甕	(17.8)	26.2	(9.5)	口縁部は緩やかに立ち上 がる。半球。	口縁部は2回に分けて磨 す。胴部外面はへら磨りを施 した地へら磨き。胴部内面は 磨り。黒粒着。	浅黄褐色	長石 石英 黒砂粒	良好	覆土下層	2/3残
8	甕志器 甕?	-	(7.7)	-	丸底。	内面に黒毛目調整を施した地 へらナズ。	灰色 器内はセピア色	白色粗砂 粒	良好	覆土下層	胴部下半1/4 残

第9表 S107出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	胴部の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 杯	(14.8)	5.8	-	基部から口縁部にかけて緩 やかに外反している。半球 状。	口縁部傾ナズ。体部外面をへ ら磨り。内面へら磨き。スス付 着。	褐色	長石・雲母	良好	床面直上	1/2残
2	土師器 杯	14.4	6.5	-	丸底。口縁部はやや外反気 味に立ち上がる。	口縁部傾ナズ。体部外面全体 へら磨り。体部内面一部にへ ら磨き。内外面ともにスス付着 あり。	にぶい・赤褐色	石英・雲母 黒砂粒	普通	床面直上	7/8残
3	土師器 杯	(15.0)	5.8	-	丸底。口縁部は短く立ち上 がる。半球形。	口縁部傾ナズ。体部外面へら 磨り。体部内面一部へら磨 き。	にぶい・赤褐色	石英・雲母 黒砂粒	良好	床面直上	3/5残

4	土師器 弁	(14.6)	(4.5)	-	口縁端部が外反。丸底か。	口縁部横ナデ。底部外面へう 崩り。内面平坦のため調整不 明。	褐色	雲母 黒砂	普通	床面直上	1/5残
5	土師器 弁	(14.4)	7.0	-	丸底。口縁部はやや内傾気 味に短く立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部下半部方 向のへう崩り。内面縦方向の へう崩り。体部内外面にス ス付着。	にぶい褐色	石英・雲母 黒砂	良好	床面直上	1/2残
6	土師器 弁	(13.3)	5.5	-	底部はやや平ら。口縁部は 立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面全体 にへう崩り。内面内面放射状 にへう崩り。	明赤褐色	雲母 黒砂	普通	床面直上	3/5残
7	土師器 丸	(13.2)	7.5	3.6	平底。口縁部は短く外反。	口縁部横ナデ。体部外部一部 にへう崩り。内面へう崩り。	褐色	黒砂	良好	床面直上	ほぼ完成形
8	土師器 小壺	-	(7.5)	-	球胴状。	胴部外面全体に縦方向のへう 崩り。内面底部へうナデ。	褐色	黒砂	普通	覆土下層	3/5残
9	土師器 高杯	(16.5)	(6.3)	-	脚部欠損。口縁部は縦やかに 外反。	口縁部横ナデ。脚部部に縦方向 のへう崩り。	赤褐色	雲母・長石 黒砂	普通	覆土下層	1/6残
10	土師器 高杯	22.5	(9.9)	-	脚部欠損。口縁部は縦やかに 広がっていき、縁を2段有 する。	内外内面横ナデの後へう崩り。 脚部にもへう崩り。	明赤褐色	雲母 白色微砂	普通	覆土下層	杯部3/4残
11	土師器 豆	(16.9)	(6.5)	-	口縁部はくの字状に外反し、 縁をもって端部に立ち上 がる。	口縁部横ナデ。肩部に縦方向 のへう崩り。体部内面に一部 にへうナデ。	褐色	石英・雲母 黒砂	良好	覆土下層	口縁部1/4残
12	土師器 豆	10.3	31.0	(7.6)	平底。口縁部はくの字状に 外反。球胴状。	口縁部横ナデ。胴部外面上平 にはへうナデ。下半には横方 向のへう崩り。底部外面には縦 方向のへう崩り。内面は横方 向のへうナデ。内外面ともにス ス付着。	にぶい褐色	石英・雲母 黒砂	普通	床面直上	ほぼ完成形
13	土師器 甕	(13.5)	19.7	6.0	口縁部はくの字状に外反。 胴部は球胴状。平底。	口縁部横ナデ。胴部外面全体 にへう崩り。内面は縦方向の へう崩り。一部に縁毛目。	にぶい赤褐色	石英・長石 黒砂	良好	床面直上	7/9残
14	土師器 甕	(17.4)	(22.6)	-	口縁部はくの字状に外反。 球胴状の胴部。	口縁部横ナデ。胴部外面縦方 向のへう崩り。内面は縦方向 のへう崩り。一部に縁毛目。	浅黄褐色	長石・雲母 赤褐色 白色微砂	良好	床面直上	2/3残
15	土師器 甕	-	(23.7)	6.0	厚手の平底を有する。やや 長胴。	胴部外縁全体にへう崩り。内 面上半にはへうナデ。下半に はへう崩り。胴部内面に厚くス スが付着。	にぶい褐色	石英・長石 雲母 黒砂	普通	覆土下層	4/5残
16	土師器 甕	(15.5)	(23.5)	-	口縁部はくの字状に外反。 球胴状の胴部。	口縁部横ナデ。胴部外面上平 にはへう崩り。下半全体に へう崩り。内面は縦方向に へうナデとへう崩り。内面 は縦方向にへうナデとへう崩 り。縁毛目。	浅黄褐色	長石・雲母 赤褐色 白色微砂 黒色微砂	普通	床面直上	2/3残
17	土師器 甕	14.6	27.4	-	口縁部はほぼ直内に外反す る。球胴状。	口縁部横ナデ。胴部外面上平 にはへう崩り。内面上半にはへう ナデ。下半にはへう崩り。縁毛 目あり。	にぶい褐色	黒砂	良好	床面直上	7/8残

第10表 S107出土鉄製品観察表

№	器種	残存部位	法量 (cm)	重量 (g)	出土地点	備考
18	不明	-	長: (5.6)、幅: (2.4)、厚: 0.7	23.03	覆土下層	目釘孔が穿たれている。
19	不明	-	長: (5.1)、幅: (2.1)、厚: 1.1	42.79	覆土下層	

第11表 S108出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	高さ	底径							
1	土師器 弁	(7.4)	4.2	-	丸底。口縁端部がやや内傾 気味に短く立ち上がる。	体部外縁にへう崩り。内面は 平坦しており調整不明。	明赤褐色	石英 白色微砂 黒色微砂	普通	床面直上	3/4残
2	土師器 小壺	-	(9.6)	-	丸底。	体部外面全体に横方向のへう 崩り。内面は横ナデ。縁部縦 あり。内外面ともにスス付着あり。	褐色	石英・長石 白色微砂	良好	貯蔵穴内	2/3残
3	土師器 甕	15.2	21.5	6.0	平底。口縁部はくの字状に 外反する。	口縁部横ナデ。胴部外面全体 にへう崩り。内面は平坦して いるため調整不明。内外面とも にスス付着。	にぶい黄褐色	石英・長石 白色微砂	良好	貯蔵穴内	7/8残

第12表 S109出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	高さ	底径							
1	土師器 弁	15.6	6.5	-	丸底。口縁部は内傾気味に 立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面へう 崩り。底部外面は縦方向のへう 崩り。	明赤褐色	石英 黒砂	良好	貯蔵穴内	3/4残
2	土師器 弁	15.7	6.4	3.5	平底。底部形は楕円。口縁 端部は外反。	口縁部横ナデ。体部外面全体 にへう崩り。口縁部外面には 体部の崩りよりも強いへう崩 り。内面へう崩り。	明赤褐色	石英・雲母 黒砂	良好	覆土下層	7/8残

3	土師器 土坏	(13.7)	6.3	-	丸底。口縁端部はやや内傾する。半球形。	口縁部傾ナデ。外部外面上半にへう磨き、下半にへう磨りを施す。内面は放射状にへう磨き。外面にスス付着。	にぶい褐色	石英・雲母 鉄砂	良好	覆土下層	12/13残
4	土師器 土坏	(14.0)	(4.3)	-	口縁部は外反気味に立ち上がり、稜を有する。	口縁部傾ナデ。口縁部内外面ともに横方向のへう磨き。外部外面へう磨り。内面放射状へう磨き。	褐色	石英 鉄砂	良好	覆土中層	1/7残
5	土師器 小瓶	11.8	12.5	5.0	歪みあり。口縁部がくの字状に外反。平底。	口縁部傾ナデ。胴部外面全体にへう磨りを施した後、斜め方向にへう磨き。胴部内面縦方向のへう磨り。底部内面放射状へう磨き。頸部傾。	にぶい褐色	石英 鉄砂	良好	覆土下層	3/4残
6	土師器 壺	-	(13.3)	6.4	中心部分がわずかにくぼむ平底。	底部から胴部にかけて外面の全体に横方向のへう磨り。	外にぶい赤褐色 内：明赤褐色	石英 白色磁鉄 赤色磁鉄	良好	覆土下層	1/2残

第13表 S110出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 土坏	15.4	(5.6)	-	丸底。口縁端部は内傾気味に立ち上がる。	口縁部傾ナデ。内外面単純のため調整不明。	褐色	白色磁鉄	普通	覆土中層	3/4残
2	土師器 土坏	12.8	5.2	-	丸底。口縁端部はやや内傾気味に立ち上がる。半球形。	口縁部傾ナデ。外部外面縦向きにへう磨り。内面上半部は目調整。	にぶい黄褐色	石英・雲母 鉄砂	良好	床面直上	完形
3	土師器 土坏	14.1	5.0	-	丸底。口縁部を立ち上げ、外面に稜をもつ。	口縁部傾ナデ。内外面単純のため調整不明。	明赤褐色	白色磁鉄 粗砂	普通	床面直上	2/3残
4	土師器 小瓶	-	(8.8)	4.4	平底。胴部は球胴状。	外部外面全体に横向きにへう磨り。焼成後に直径約2cmの孔を穿孔した。内面黒色磁運か。	明赤褐色	石英・雲母 鉄砂	良好	床面直上	2/3残
5	土師器 壺	(16.6)	(8.6)	-	口縁部はくの字状に外反し。口縁端部は稜をつけて直線に立ち上がる。	口縁部傾ナデ。外周一部に剛毛目調整。内面はへうナデ。	にぶい黄褐色	雲母 鉄砂	良好	床面直上	口縁部のみ残
6	土師器 壺	(16.0)	(4.4)	-	口縁部はくの字状に外反。	口縁部傾ナデ。外面上向きにへう磨り。内面には本製工具を当てた稜が残る。筋かへう磨り。	にぶい褐色	長石 黒色磁鉄	普通	覆土下層	1/16残
7	土師器 壺	(12.4)	(11.3)	-	口縁部はくの字状に外反。球胴状。	口縁部は傾ナデを二面に分けて施している。胴部上半外面に縦向きにへう磨き。内面へう磨り。へう磨き。後胴部内面には結合部分に粘土層を貼り付け、補強していることがわかる。	淡黄褐色	雲母・長石 白色磁鉄	良好	床面直上	1/4残
8	土師器 壺	17.0	(26.8)	-	口縁部はくの字状に外反する。球胴状。	口縁部傾ナデ。胴部内外面ともに全体にへうナデ。縦斜紋あり。外面にスス付着。	にぶい褐色	石英 鉄砂	良好	床面直上	13/15残
9	土師器 壺	-	(27.4)	-	球胴状。口縁部はほぼ直角に立ち上がる。	胴部外面上半全体に剛毛目調整を施した後、下半にへう磨り。内面は単純にしているため調整不明。	にぶい褐色	石英 鉄砂	普通	覆土中層	13/16残
10	土師器 壺	-	(3.2)	6.3	底部のへう磨りによって稜がつかられる。	底部外周下向きにへう磨り。内面放射状へう磨き。	にぶい褐色	粗砂	良好	覆土上層	底部のみ残
11	土師器 壺	-	(3.7)	(7.0)	底部にへう磨りを施し平底にする。	外面一部にへう磨き。内面一部に剛毛目へう磨り。底部外面にスス付着。	淡黄褐色	雲母 黒色磁鉄 白色磁鉄	良好	覆土下層	底部のみ残
12	土師器 壺	-	(3.2)	(4.9)	平底。球胴状。	外面のへう磨りは土器を回転させながら施したか。	淡褐色	長石・雲母 白色磁鉄	良好	床面直上	底部のみ残
13	土師器 壺	-	(3.5)	(8.7)	底部中央部がややくぼむ。	外面に剛毛目へう磨り。内面に剛毛目へう磨り。	淡黄褐色	雲母 白色磁鉄	良好	覆土下層	底部のみ残

第14表 S111出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 土坏	(14.6)	(4.6)	-	口縁端部は内傾して短く立ち上がる。	外部外面全体に斜め方向にへう磨り。内面の一部に横向きにへう磨き。内面と口縁部にスス付着。	灰黄褐色	石英・雲母 鉄砂	良好	覆土下層	1/6残
2	土師器 土坏	12.6	4.0	3.0	平底。口縁端部はやや外反。底部が厚いつくりになっている。	口縁部傾ナデ。外部外面に横方向のへう磨り。内面全体に横かへう磨き。	赤褐色	長石 白色磁鉄 黒色磁鉄	良好	覆土下層	1/2残
3	土師器 壺	-	(2.8)	5.8	平底。	外周全体に横方向にへう磨り。内面に縦方向にへうナデ。	にぶい黄褐色	石英・雲母 鉄砂	良好	覆土上層	底部のみ残
4	土師器 壺	(18.5)	(25.5)	-	口縁部はくの字状に外反する。球胴状。	口縁部傾ナデ。外部外面全体に横方向のへう磨り。内面はへうナデ。内外面ともにスス付着。	にぶい黄褐色	石英 白色磁鉄	良好	覆土上層	2/5残

5	土師器 甌	(10.0)	(6.4)	-	口縁部は広く広がる。口縁部に粘土を貼り付け、稜を作り出す。	内外ともに縦方向のヘラナデ。	にぶい黄褐色	石英 微砂粒	良好	覆土下層	口縁部のみ残
6	土師器 甌	-	(7.0)	4.4	半球。	胴部外面に縦方向のヘラ割り、内面に斜め方向のヘラナデ。	浅黄褐色	長石・雲母 白色砂粒	良好	覆土下層	1/2残

第15表 S112出土土器観察表

No.	器種	測量 (cm)			器形の特徴	胴部の特徴	色調	粘土	焼成	出土地点	備考
		口径	高さ	底径							
1	土師器 杯	13.7	5.7	-	丸底。口縁部は内縮する。	口縁部横ナデ。体部外面の一部にヘラ置き。内面に縦方向のヘラナデ。	黒褐色	石英	良好	覆土下層	完形
2	土師器 杯	13.7	5.4	-	丸底。口縁部は内縮する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ割り。内面縦方向のヘラ置きの後縦方向のヘラナデ。	褐色	長石 白色砂粒	良好	覆土下層	完形
3	土師器 杯	11.5	5.8	4.8	平底。口縁部は内縮する。	口縁部横ナデ。体部上半に縦方向に斜め目調整。底部外面ヘラ割り。内面に縦方向のヘラナデ。	浅黄褐色	石英・長石 白色砂粒 黒色砂粒	良好	覆土下層	完形
4	土師器 杯	14.2	5.6	-	丸底。口縁部は短く内縮する。	口縁部横ナデ。体部外面の一部にヘラ割り。内面に縦方向のヘラナデ。	明赤褐色	石英 白色砂粒 黒色砂粒	普通	覆土中層	2/3残
5	土師器 杯	14.3	5.6	-	丸底。口縁部は内縮する。	口縁部横ナデ。外面はヘラ割り。一部ヘラ置き。内面は横ナデの後ヘラ置き。内外ともにスス付着。	褐色	石英 白色砂粒	良好	覆土下層	完形
6	土師器 杯	16.2	6.3	-	丸底。体部中央に稜をもつ。	口縁部横ナデ。体部外面全体に縦方向のヘラ割り。内面ヘラナデ。	褐色	石英・長石 雲母 黒砂粒	良好	覆土下層	ほぼ完形
7	土師器 杯	14.1	5.8	-	丸底。口縁部は真直ぐ立ち上がる。	口縁部横ナデ。内外ともに磨滅しており調整不明。	浅黄褐色	石英	普通	覆土中層	2/3残
8	土師器 杯	15.1	5.6	-	丸底。口縁部は真直ぐ立ち上がる。外面に稜を持つ。	口縁部横ナデ。外面はヘラ割り。内面は横ナデの後ヘラ置き。外面にスス付着。	褐色	石英・長石 雲母 白色砂粒 炭	良好	覆土下層	完形
9	土師器 杯	13.2	5.8	-	丸底。口縁部は真直ぐ立ち上がり。口縁部がやや外反する。	口縁部横ナデ。体部下半外面は縦方向のヘラ割り。内面は縦方向のヘラ置き。底部外面ヘラ割り。	明赤褐色	石英 白色砂粒	良好	覆土中層	2/3残
10	土師器 杯	13.4	5.2	-	丸底。口縁部は中や外に開く。半球状。	口縁部横ナデ。体部外面下半にヘラ置き。内面上半に縦方向のヘラ置きを施す。	褐色	石英 黒砂粒	良好	床面直上	ほぼ完形
11	土師器 杯	15.3	5.6	-	丸底。口縁部は大きく外反する。	口縁部横ナデ。内外面ともに磨滅しており調整不明。	褐色	石英 白色砂粒	普通	覆土下層	2/3残
12	土師器 杯	(13.6)	5.9	5.0	平底。胴部中央部は中や外反する。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。胴部外面にヘラ割り。内面は磨滅しているため調整不明。	にぶい黄褐色	雲母 黒砂粒	普通	覆土下層	2/3残
13	土師器 甌	13.8	7.2	-	丸底。口縁部が中や内縮する。	口縁部横ナデ。底部外面に縦方向のヘラ割り。内面は縦方向のヘラナデ。	にぶい黄褐色	雲母 黒砂粒	良好	覆土中層	4/5残
14	土師器 甌	13.9	7.4	-	丸底。口縁部は真直ぐ立ち上がり。口縁部は外反する。	体部外面はヘラ割り。内面はヘラナデ。底部外面にヘラ割り。	浅黄褐色	石英・長石 赤色砂粒 白色砂粒	良好	覆土下層	5/6残
15	土師器 甌	11.4	8.7	-	丸底。口縁部が短く外反する。	口縁部横ナデ。外面ヘラナデの後ヘラ割り。内面ヘラナデ。	明赤褐色	石英・雲母 砂粒	良好	覆土下層	完形
16	土師器 高杯	(16.2)	15.2	(11.1)	坏部外面にわずかに稜を持つ。	口縁部横ナデ。坏部外面にヘラ割り。内面にヘラナデ。胴部外面は縦方向の置き。胴部は体部外面ヘラナデ。	明赤褐色	石英・雲母 長石 小砂粒	良好	覆土下層	1/2残
17	土師器 高杯	(15.7)	15.5	(12.3)	坏部外面に稜を持つ。	坏部外面ヘラナデ。基部にヘラ割り。胴部外面にヘラナデとヘラ割り。内面ヘラナデ。	明赤褐色	石英・長石 黒砂粒	良好	覆土下層	5/7残
18	土師器 高杯	15.3	14.0	11.3	短頸。坏部外面に稜を持つ。	坏部外面と胴部外面に縦方向のヘラ置き。坏内面にもヘラ置き。胴部内面には細い板状の工具を押し付けた痕。胴部横ナデ。	明赤褐色	石英・雲母 白色微粒	良好	覆土下層	7/8残
19	土師器 高杯	(15.1)	13.1	(12.3)	坏部外面に稜を持つ。	口縁部。胴部横ナデ。坏部外面一部にヘラ割り。坏内面工具によるナデ。胴部外面は縦方向にヘラ割り。	浅黄褐色	長石・石英 白色砂粒	良好	覆土下層	2/3残
20	土師器 高杯	16.0	5.40	-	頸部欠損。	口縁部横ナデ。坏部下半外面に縦方向の斜め目調整。内面は斜め目調整。	にぶい褐色	石英 微砂粒	良好	覆土下層	坏部1/2残
21	土師器 甌	19.6	8.2	19.0	平底。体部が中や内反したがる立ち上がり。口縁部が短く内側に入る。	口縁部横ナデ。体部外面縦方向のヘラ割り。内面ヘラ置き。一部にスス付着。	にぶい褐色	石英 黒砂粒	良好	覆土下層	7/8残
22	土師器 甌	(15.7)	28.2	6.5	平底。底部中央部分が中や外反し。口縁部は直内向外反し。口縁部が短く立ち上がる。厚板状。	口縁部横ナデ。胴部外面上半部に斜め目調整。外面全体にヘラ割り。内面全体にヘラナデ。外面にスス付着。	にぶい褐色	石英 黒砂粒	良好	床面直上	11/12残
23	土師器 甌	14.5	(15.2)	-	口縁部がくの字状に外反したがる立ち上がり。半球状の胴部。	口縁部横ナデ。胴部外面は一部に斜め目を施した後ヘラ割り。内面は縦方向のヘラナデの後にヘラ割り。	にぶい褐色	石英・雲母 黒砂粒	良好	覆土下層	3/7残

24	土師器 壺	15.0	28.5	6.7	平底。底部中央部がややくぼむ。口縁部はくの字状に外反する。球脚状。	口縁部傾ナデ。胴部外面は縦方向のへう張り。内面は横方向のへうナデ。	淡黄褐色	長石・石英 白色砂粒 黒色砂粒	良好	覆土下層	4/5残
25	土師器 壺	16.0	26.0	5.0	平底。口縁部はくの字状に短く外反。	口縁部は工具を用いてヨコナデ。胴部外面は全体に縦方向のへう張り。内面は横方向のへうナデ。	淡黄褐色	雲母・長石 石英 小砂粒	良好	覆土中	3/4残
26	土師器 壺	18.2	(14.4)	-	口縁部はくの字状に立ち上がり、短く外反する。	口縁部傾ナデ。胴部外面はナデに近いへう張り。内面へうナデ。	にぶい褐色	石英・長石 石英 黒砂粒	良好	覆土下層	1/4残
27	土師器 壺	16.4	29.1	5.8	平底。口縁部はくの字状に外反し。口縁部端部はさらに短く外反する。	口縁部傾ナデ。胴部外面は全体にへう張りの後部分向にへう張り。内面はへうナデ。	にぶい黄褐色	石英・雲母 黒砂粒	良好	覆土下層	19/20残
28	土師器 壺	14.9	(13.4)	-	口縁部がくの字状に外反する。球脚状。	口縁部傾ナデ。胴部上半に縦方向のへう張りの後一部に短くへう張り。胴部内面縦方向のへうナデ。	にぶい褐色	石英・雲母 黒砂粒	良好	覆土下層	1/2残
29	土師器 壺	-	(17.4)	5.4	平底。底部が中心部分でくぼむ。球脚状の胴部を定方向。	口縁部傾ナデ。胴部外面は上半にへうナデ。下半にへう張り。内面へうナデ。	にぶい褐色	石英 白色砂粒	良好	覆土中層	5/8残
30	土師器 小瓶残	15.8	16.6	4.0	口縁部がくの字状に外反する。平底。	口縁部傾ナデ。胴部外面は上半にへうナデ。下半にへう張り。内面へうナデ。	にぶい褐色	石英・長石 石英 黒砂粒	良好	覆土下層	完形
31	土師器 壺	-	(13.9)	5.5	平底。胴部は脚手。	胴部外面に横方向のへう張り。内面は縦目調整の後部分向にへう張り。内面ともに文字付付着。	にぶい褐色	石英・長石 石英 黒砂粒	良好	覆土下層	3/8残
32	土師器 小瓶残	12.6	12.7	-	丸底。口縁部は外反する。球脚状。	口縁部傾ナデ。胴部外面全体に斜め方向のへう張り。胴部外面にへう張り。内面へうナデ。	褐色	長石 白色砂粒 黒色砂粒	良好	覆土下層	4/5残
33	土師器 壺	-	(2.8)	(8.3)	平底で中心部分がややくぼむ。内面にスス付着。	外部内側縦方向のへう張り。内面にスス付着。	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	石英 黒砂粒	良好	覆土中層	底部1/2残
34	土師器 壺	21.0	22.3	8.3	単孔。口縁部はくの字状にならなかに外反。	口縁部傾ナデ。胴部外面はナデに近いへう張り。	にぶい褐色	石英・長石 白色砂粒 石英	良好	床面直上	2/3残
35	土師器 壺	-	(7.0)	4.8	単孔。	外面はへう張り。内面はへうナデ。外面にスス付着。	にぶい褐色	石英 黒砂粒	良好	覆土下層	底部のみ残
36	須志器 杯	9.7	5.0	-	左回転のロクロ成形。口縁部は内傾し、交部をもつ。	胴部外面は手持ちへう張り。	灰色	白色砂粒	良好	床面直上	完形

第16表 S113出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 杯	14.7	5.7	-	丸底。口縁部端部はやや内傾する。	口縁部傾ナデ。外部外面はへう張りをした後へう張り。内面はへう張り。	褐色	石英・長石 白色砂粒	普通	床面直上	11/12残
2	土師器 壺	(13.5)	(5.3)	-	丸底。口縁部端部はやや短く内傾する。半球状。	口縁部傾ナデ。胴部外面はへう張り。内面は厚着しており調整不明。	明赤褐色	石英 黒砂粒	普通	覆土下層	3/7残
3	土師器 杯	(12.9)	6.3	-	丸底。口縁部端部はやや内傾する。	口縁部傾ナデ。外部外面全体にへう張り。内面へう張り。	にぶい褐色	石英 黒砂粒	普通	覆土下層	2/5残
4	土師器 壺	15.0	6.5	-	丸底。口縁部端部はやや外反する。	口縁部傾ナデ。胴部外面は横方向のへう張り。内面は放射状へう張り。内面の一部が黄色色。	明赤褐色	石英 白色砂粒 黒色砂粒	普通	覆土下層	11/12残
5	土師器 壺	(11.6)	(4.3)	-	口縁部はやや内傾気味に立ち上がる。	口縁部傾ナデ。外部外面ともに厚着しており調整不明。	褐色	石英・雲母 黒砂粒	良好	覆土下層	1/8残
6	土師器 壺	(13.7)	6.8	-	丸底。口縁部は外反する。	口縁部傾ナデ。外部外面へう張り。内面は縦方向のへう張りの後、縦方向のへう張り。内外両面に一重にスス付着。	にぶい赤褐色	石英 黒砂粒	良好	覆土中層	3/4残
7	土師器 壺	(14.0)	(5.6)	-	口縁部外反。	口縁部傾ナデ。外部外面にへう張りのみみられるが、内外両面ともに厚着しており調整不明。	にぶい黄褐色	石英 黒砂粒	普通	貯蔵穴内	1/7残
8	土師器 壺	(11.0)	9.2	-	丸底。口縁部は短く外反。球脚状。	口縁部傾ナデ。外部外面は上半の一部に縦方向の斜目調整が施される。内面全体にへうナデをした後、へう張り。	褐色	長石・石英 砂粒	良好	貯蔵穴内	1/3残
9	土師器 壺	(18.8)	29.8	4.6	平底。口縁部はくの字状に外反する。やや長尻。	口縁部傾ナデ。胴部外面は縦方向のへう張り。内面は上半の一部に縦方向の斜目調整が施される。内面全体にへうナデをした後、へう張り。	にぶい褐色	石英・雲母 黒砂粒 黒砂粒	良好	覆土下層	3/4残

第17表 S114出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 杯	14.7	5.7	6.9	ロクロ成形。平底。口縁部端部は外反しながらやや立ち上がる。	口縁部傾ナデ。外部外面は胴部外面にへう張り。内面は黒色色処理を施す。	にぶい褐色	石英・長石 白色砂粒	普通	床面直上	完形



2	土師器 弁	13.5	5.5	5.1	ロクロ成形、平底。口縁部がやや外反しながら立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面は縦方向へのヘラ削り、底部外面にもヘラ削り、内面にスチ付着。	にぶい黄褐色	石英・雲母 粗砂	普通	電	完形
3	土師器 高台杯	13.9	6.3	7.8	ロクロ成形、平底は半球状。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面へラ磨き。内面にヘラ磨きを施した後、黒色地肌。	にぶい黄褐色	石英 粗砂	良好	覆土上層	6/7残
4	土師器 弁	(14.0)	5.8	7.5	平底。	外面全体に粗粒が明瞭に残る。体部外面は横ナデ、内面には磨毛目調整を施す。底部外反にスチ付着。	にぶい褐色	石英 粗砂	良好	電	2/3残
5	土師器 盃	19.3	(28.8)	-	口縁部はくの字状に短く外反する。	口縁部横ナデ。底部外面は縦方向へのヘラ削り、内面は横方向へのヘラナデ。胴部外面にスチ付着。	にぶい黄褐色	石英・長石 雲母 粗砂	良好	電	7/8残
6	土師器 盃	18.6	(28.7)	-	口縁部はくの字状に短く外反する。長脚型。口縁部歪みあり。底部欠削。	口縁部横ナデ。底部外面は縦方向へのヘラ削り、内面は横方向へのヘラナデ。	にぶい黄褐色	石英・長石 粗砂	普通	電線道	1/2残
7	土師器 盃	(18.0)	(24.0)	-	口縁部はくの字状に短く外反する。長脚型。	口縁部横ナデ。底部外面は縦方向へのヘラ削り、内面は横方向へのヘラナデ。胴部下半は粗粒が明瞭。	浅黄褐色	石英・長石 小砂	良好	電	1/5残

第18表 S115出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	高さ	底径							
1	土師器 弁	13.8	5.1	7.0	平底。	口縁部横ナデ。体部外周、底部外面はヘラ削り。内面底部付近にヘラ磨き。	にぶい黄褐色	石英 粗砂 粗砂	普通	貯蔵穴内	3/4残
2	土師器 弁	13.5	4.6	-	口縁部が外反する。底部はヘラ削りによって平底気味。	口縁部横ナデ。体部外面、底部外面はヘラ削り。内面は横ナデ、ヘラ磨き。	褐色	石英・雲母 粗砂	普通	電	11/12残
3	土師器 弁	(10.0)	(4.1)	-	口縁部に広い庇眼が入る。半球状。	体部外面へラ削り、内面へラナデ。	黄褐色	石英 小砂	良好	電	1/5残
4	土師器 盃	-	(6.5)	(7.0)	平底。	外面はヘラ削り、内面は磨毛目調整。底部には水銀板あり。	明赤褐色	石英・長石 小砂	良好	電	1/5残
5	土師器 盃	14.3	(8.4)	-	口縁部は短く外反。半球状か。	口縁部横ナデ。口縁部外面に部分的に横ナデ。胴部外面は縦方向へのヘラ削り。内面はヘラナデ、内外ともにスチ付着。	にぶい黄褐色	石英 粗砂	普通	電	1/4残
6	土師器 盃	-	(5.4)	9.0	中央がややぼんだ平底。	外面は縦方向へのヘラ削り、内面は横方向へのヘラナデ。底部はヘラ削りとヘラナデを施して成形。	にぶい黄褐色	石英 粗砂	良好	電	底部のみ残
7	土師器 盃?	-	(2.3)	-	薄手。	歪みあり。「尖」あり。	にぶい褐色	石英 粗砂	良好	覆土下層	

第19表 S115出土鉄製品観察表

No	器種	残存部位	法量 (cm)	重量 (g)	出土地点	備考
8	鉄鏃	鏃身部・基部	全長: (6.2) 鏃身部: (5.3)、幅: 1.4、厚: 0.7 基部: 長: (1.0)、幅: 0.4、厚: 0.4	11.02	覆土下層	無須有葉の長三角形鏃か。
9	鉄鏃	基部	長: (2.5)、幅: 0.4、厚: 0.4	2.29	覆土下層	
10	刀子	刃部	長: (8.0)、幅: 0.8、厚: 0.2	12.44	覆土下層	鉄鏃の基部のような鉄製品が付着している。

第20表 S116出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	高さ	底径							
1	土師器 弁	14.9	5.7	-	丸底。口縁部は中や内側気味に短く立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り。内面は縦方向へのヘラ磨き。	褐色	長石・石英 白色砂	良好	覆土下層	完形
2	土師器 弁	(13.0)	4.9	-	丸底。口縁部が内傾する。	口縁部横ナデ。底部外周はヘラ削りを施す。内外ともに厚削りしており、歪み不明。	外: にぶい褐色 内: 褐色	石英 粗砂	普通	覆土下層	5/8残
3	土師器 弁	(13.5)	5.2	-	丸底。口縁部は内傾し、口縁部は極めて短く中や外反する。	口縁部横ナデ。体部下半外面へラ削り、内面へラ磨き。内外ともにスチ付着。	にぶい褐色	石英・雲母 粗砂	普通	覆土下層	1/2残
4	土師器 弁	(13.8)	5.5	-	丸底。口縁部中や内側気味に立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部下半へラ削り。内面は厚削りしているため調整不明。	浅黄褐色	石英 砂	不良	覆土下層	1/2残
5	土師器 弁	(13.3)	(6.4)	-	丸底。半球状。	底部外周にヘラ削りを施すが、内外ともに厚削りしており、調整不明。外面の一部にスチ付着。	明赤褐色	黄砂	普通	覆土下層	2/5残
6	土師器 弁	14.0	6.6	-	丸底。口縁部外反。	口縁部横ナデ。内外ともに厚削りしており調整不明。	浅黄褐色	長石・石英	不良	覆土下層	4/5残

7	土師器 埴	12.6	7.6	-	丸底。口縁部は外反する。	口縁部傾ナデ。体部外面へラ 降り、内面へラ寄せ。外面の 大半部分にスス付着。	明赤褐色	割砂粒 細砂粒	良好	床面直上	11/12残
8	土師器 埴	(8.1)	3.8	-	丸底。口縁部にやや幅の広い 泥層が入る。	口縁部傾ナデ。体部外面へラ 降り、内面へラ寄せ。内外面 ともにスス付着あり。	明赤褐色	微砂粒	良好	覆土下層	1/2残
9	土師器 高杯	16.0	(7.0)	-	頸部欠乳。口縁部は短く立 り上がる。	口縁部傾ナデ。体部全体に 縦方向へラ寄せ。胴底部に はへラ降り、其内面へラ寄せ。	明赤褐色	石英 白色微砂	普通	床面直上	坏部のみ残
10	土師器 高杯	-	(8.4)	(11.8)	坏部欠乳。短脚。	胴部下半は2回に分けて傾ナ デを施す。胴部上半は縦方向 のへラ降り、下半は縦方向の へラ寄せ。	褐色	石英 砂粒	良好	覆土下層	1/2残
11	土師器 小型埴	(13.5)	9.7	4.0	平底。口縁部はくの字状に 外反する。	口縁部傾ナデ。外面はへラ降 り、部分的に黒毛目調。内 面へラ寄せ。内外面ともにス ス付着。	にじみ褐色	石英・雲母 白色微砂 石	良好	覆土下層	1/2残
12	土師器 埴	(14.0)	10.6	5.4	口縁部を立ち上げ、後を付 る。卑乳。	口縁部傾ナデ。体部外面の一 部に指ナデ。底部外周にへラ 降り。体部内面下半へラナ デ。	赤褐色	石英 微砂粒	良好	覆土下層	1/2残

第21表 S116出土石製品観察表

No	器種	法量 (cm)	石質	重量 (g)	出土地点	備考
13	有孔円板	長:2.0、幅:2.2、孔径:0.2、厚:0.4	燧石	4.63	覆土下層	両面に縦紋、二箇所に穿孔。
14	礫石	長:26.8、幅:7.7、厚:3.4~6.0	凝灰岩	1517.6	覆土下層	

第22表 S116出土鉄製品観察表

No	器種	残存部位	法量 (cm)	重量 (g)	出土地点	備考
15	鉄鏃	鏃身部・頸部	全長:(4.3) [鏃身部]長:(2.4)、幅:1.2、厚:0.2 [頸部]長:(1.9)、幅:0.7、厚:0.5	5.6	覆土下層	細溝の導流形鏃か。
16	鉄鏃	不明	全長:(3.8)、幅:0.8、厚:0.5	3.96	覆土下層	鉄鏃の頸部と茎部付近が屈曲したもののか、 1.1×0.9の鉄片が嵌着している。
17	鉄鏃	頸部	長:(5.1)、幅:0.6、厚:0.4	8.08	床面直上	
18	鉄鏃	頸部	長:(9.8)、幅:0.7、厚:0.3	12.63	覆土下層	長形鏃。
19	鉄鏃	a:頸部 b:頸部・茎部	a長:(6.3)、幅:0.7、厚:0.3 b全長:(3.7) [頸部]長:(2.2)、幅:0.6、厚:0.2 [茎部]長:(1.5)、幅:0.4、厚:0.2	7.95	覆土下層	2本の鉄鏃が揃って嵌着している。
20	鉄鏃	頸部・茎部	全長:(7.3) [頸部]長:(5.8)、幅:0.7、厚:0.5 [茎部]長:(1.5)、幅:0.4、厚:0.4	11.86	覆土下層	斜め刃を有する長形鏃とみられる。
21	鉄片	-	長:5.2、幅:5.3、厚:2.9	51.06	覆土下層	
22	鉄片	-	長:4.4、幅:4.8、厚:2.1	35.58	覆土下層	
23	鉄片	-	長:4.5、幅:3.0、厚:2.1	19.91	覆土下層	
24	鉄片	-	長:4.9、幅:3.5、厚:1.9	20.32	覆土下層	

第23表 S117出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	脚底の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 杯	(15.0)	(5.9)	-	口縁端部は内傾する。	口縁部傾ナデ。外面はへラ降 り、内面は厚延しているため 調査不明。	明赤褐色	砂粒	良好	覆土下層	1/4残
2	手取石 土器	(5.4)	2.6	4.9	平底。底部から口縁部まで そのまゝ立ち上がり、寸断 全量す。	内外面ともに指ナデ。底面に スス付着。	褐色	石英 微砂粒	普通	覆土下層	3/4残
3	土師器 高杯	-	(6.5)	12.0	外部欠乳。脚部はやや反 り上がる。	胴部外面全体に縦方向のへ ラ寄せ。内面にはへラナデが 施される。	褐色	石英 微砂粒	良好	覆土下層	脚部3/4残
4	土師器 小型埴	-	(9.8)	4.2	平底。脚部は卓脚状に陥ら ず。	胴部外面へラ降り、内面へラ ナデ。外面全体にスス付着。	褐色	石英 微砂粒	良好	覆土下層	3/5残
5	土師器 盆	(16.7)	23.3	(6.6)	平底。口縁部はくの字状に 外反。	口縁部2回に分けて傾ナデ を施す。胴部外面は縦方向の へラ降り、内面はへラナデ。底 部へラ寄せ。	黒褐色	石英 砂粒	良好	床面直上	1/2残

6	土器 甕	(18.4)	(9.8)	-	口縁部はくの字状に外反する。	口縁部積ナデ。胴部外面は黒毛目漆塗。内面は横方向のヘラナデ。	にぶい褐色	石英 緑砂粒 赤色粗砂	良好	床面直上	1/9残
7	須恵器 甕?	-	(10.2)	-	球脚状。	胴部中央に2本の沈線を持つ。底部内面には指の押痕あり。外側に自然磨。	外:暗灰色 内:灰色	黒色微砂 白色微砂	良好	覆土下層	胴部1/9残
8	須恵器 甕?	-	(7.7)	-		胴部上半に放状文あり。放状文の下に沈線が入る。	灰色 器内は一部 セピア色	白色微砂 灰	良好	床面直上	
9	須恵器 甕?	-	(4.8)	-	口縁下部に嵌あり。	放状に黒毛目を施す。	黒色	白色微砂	良好	覆土上層	

第24表 S117出土土器品観察表

No	器種	法量 (cm)	材質	重量 (g)	出土地点	備考
10	甕形?	長: (2.0)、幅: 2.5、孔径: 0.2、厚: 0.4	磨石	3.96	覆土下層	両面に磨痕。
11	砥石	長: 26.4、幅: 7.7、厚: 4.6~5.3	凝灰岩	1311.89	貯蔵穴内	

第25表 S117出土鉄製品観察表

No	器種	残存部位	法量 (cm)	重量 (g)	出土地点	備考
12	鉄鏡	胴部・茎部	全長: (3.4) [胴部] 長: (2.9)、幅: 0.9、厚: 0.8 [茎部] 長: (0.5)、幅: 0.2、厚: 0.2	2.59	覆土中	線状磨を有する鉄鏡か。全体的に屈曲している。
14	刀子	刃部	長: (4.4)、幅: 1.8、厚: 0.2	4.17	覆土中	
13	鉄鏡	茎部	長: (2.4)、幅: 0.2、厚: 0.2	0.61	覆土中	

第26表 S118出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	胴部の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土器 片	(15.6)	(3.9)	-	浅い半碗状。口縁端部がやや内反する。	体部外面ヘラナデ。内面一部ヘラ磨き。	褐色	石英 白色微砂	良好	覆土下層	1/4残
2	土器 甕	(13.2)	(10.4)	-	口縁部は短く立ち上がる。	口縁部積ナデ。体部外面に斜め方向のヘラ磨きを施した後、底部外周に横方向のヘラ磨り。内面は斜め方向のヘラナデ。	にぶい褐色	石英 微砂粒	普通	覆土下層	3/7残
3	土器 甕	(13.7)	(3.6)	-	口縁部はくの字状に外反し。口縁端部はさらに短く外反する?	口縁部積ナデ。	褐色	石英 白色微砂 黒色微砂 粒	良好	覆土下層	口縁部のみ残
4	土器 甕	-	(16.0)	-	球脚状。	胴部外面はヘラ磨り。内面はヘラナデ。外面の大部分にスス付着。	にぶい黄褐色	石英 白色微砂 粒	良好	覆土下層	4/7残

第27表 S118出土鉄製品観察表

No	器種	残存部位	法量 (cm)	重量 (g)	出土地点	備考
5	鉄鏡?	茎部?	長: (5.1)、幅: 0.6、厚: 0.4	6.58	覆土下層	
6	刀子	刃部	長: (3.5)、幅: 1.4、厚: 0.2	3.68	覆土下層	

第28表 S119出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	胴部の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土器 甕	14.7	5.4	-	丸底。口縁端部はやや内傾気味に立ち上がる。	口縁部積ナデ。体部外面は斜め方向のヘラ磨り。内面は放射状にヘラ磨き。底部外周にスス付着。	明赤褐色	石英 白色微砂 粒	良好	覆土下層	3/4残
2	土器 甕	(14.1)	(4.1)	-	丸底か。口縁端部が極めて短く立ち上がる。	口縁部積ナデ。体部外面は斜め方向のヘラ磨り。内面は放射状にヘラ磨き。	明赤褐色	石英・雲母 微砂粒	良好	覆土下層	4/0残
3	土器 甕	(14.0)	(4.7)	-	口縁部が短く立ち上がる。	口縁部積ナデ。体部外面は斜め方向のヘラ磨り。	外: にぶい褐色 内: 明赤褐色	石英 微砂粒	良好	覆土下層	1/5残
4	土器 高杯	-	(9.7)	13.1	坪部欠丸。脚端部はやや反り上がる。	脚部積ナデ。脚部外面は斜め方向のヘラ磨り。内面は放射状にヘラ磨り。	にぶい黄褐色	石英・雲母 微砂粒	普通	壺内	脚部3/5残
5	土器 甕	(12.0)	(11.1)	-	口縁部はくの字状に外反。球脚状。	口縁部積ナデ。胴部外面は斜め方向のヘラ磨り。内面は横方向のヘラナデ。	淡黄褐色	石英・長石 微砂粒	良好	覆土下層	1/2残
6	土器 甕	17.0	(6.4)	-	口縁部はくの字状に外反し。端部は高直立ち上がる。	口縁部積ナデの後、口縁外部の一部に横方向のヘラ磨き。口縁基部には横方向の黒毛目漆塗を施した。底、器内面のヘラ磨き。胴部上半にもヘラ磨きか。内面に磨痕あり。	明赤褐色	石英 粗砂粒 細砂粒	良好	覆土下層	口縁部のみ残

7	土師器 甕	(14.4)	(21.5)	-	口縁部はくの字状に外反、 球脚状。	口縁部傾ナデ。胴部外面は薄 毛目調を施した後、上半に ヘラナデ。下半にヘラナデ。中 尖部にヘラ筋を施している。 内面はヘラナデ。	にぶい褐色	石英・雲母 白色砂粒 粗砂粒	良好	覆土下層	4/5残
8	土師器 甕	(17.8)	(8.6)	-	口縁部はくの字状に外反。	口縁部傾ナデ。胴部外面は家 方向の縦毛目調。内面は家 方向の縦毛目調。外面にス ス付着。	褐色	石英・雲母 粗砂粒	普通	覆土中層	1/12残
9	土師器 甕	(18.0)	(28.5)	-	口縁部はくの字状に外反、 球脚状。	口縁部傾ナデ。胴部外面は家 方向のヘラナデ。内面は家 方向のヘラナデ。	明赤褐色	長石・石英 砂粒	良好	覆土中層	1/3残
10	土師器 甕	(17.0)	(8.5)	-	口縁部はくの字状に外反。	胴部外反にはヘラ筋を施し た後に、部分均にヘラ筋。 内面はヘラナデの後へヘラ 筋。	褐色	石英 白色粗砂 粒	良好	覆土下層	口縁部のみ残
11	土師器 甕	(15.5)	(15.5)	-	口縁部がくの字状に外反。	口縁部傾ナデ。胴部外側へラ 筋。内面ヘラナデ。粗製あり。	にぶい褐色	石英・雲母 粗砂粒	良好	覆土下層	1/9残
12	土師器 甕	(18.7)	(16.0)	-	口縁部がくの字状に外反。	口縁部傾ナデ。胴部内外面と もにヘラナデ。	にぶい赤褐色	石英 粗砂粒 微砂粒	良好	覆土下層	1/10残
13	土師器 甕	(22.0)	(24.5)	-	口縁部がくの字状に外反、 球脚状。	口縁部傾ナデ。胴部上半にヘ ラナデの後、下半にヘラ筋。 内面はヘラ筋の後上半にヘ ラナデ。	にぶい褐色	石英 粗砂粒 微砂粒	良好	覆土下層	1/3残
14	須恵器 弁	(12.0)	(3.8)	-	左輪縁のロクロ成形。口縁 部は内傾して立ち上がる。 体部に受け部を持つ。	口縁部傾ナデ。体部外面は粗 毛へラ筋。	青灰色	白色砂粒	良好	覆土下層	1/5残

第29表 S120出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徵	調整の特徵	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 甕	16.9	31.9	6.8	平底。口縁部はくの字状に 外反。	口縁部傾ナデの他外面は家 方向のヘラ筋。内面は家 方向のヘラナデ。胴部全体 にヘラ筋を施した後にヘラ 筋。内外面ともにスス付着。	にぶい褐色	石英 粗砂粒 微砂粒	良好	覆土下層	4/5残

第30表 S121出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徵	調整の特徵	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 弁	(13.2)	4.7	-	丸底。口縁部はくや内傾 する。	口縁部傾ナデの他、体部外面 は家方向のヘラ筋。内面は 家方向のヘラ筋。	浅黄褐色	石英・長石 白 白色砂粒	良好	覆土下層	2/3残
2	土師器 甕	15.6	(12.3)	-	口縁部がくの字状に外反。	口縁部傾ナデの後、縦方向の ヘラ筋。胴部はヘラ筋の 後、ヘラ筋。胴部内面は家 方向のヘラナデの後、家方 向の縦毛目調。内外面とも にスス付着あり。	にぶい黄褐色	石英 粗砂粒 微砂粒	良好	床面直上	3/8残
3	土師器 甕	(22.4)	(13.8)	-	口縁部はなだらかに外反す る。球脚状。	口縁部傾ナデの後、縦方向の ヘラ筋。胴部外面はヘラ 筋を施した後に、一部にヘ ラナデを施した後に家方向の ヘラ筋。	浅黄褐色	石英・砂粒	良好	床面直上	1/2残
4	須恵器 碗?	-	(3.8)	-	胴部上半から口頸基部にか けての破片。	外面に黄灰による自然釉があ られる。装文が施されてい る。	灰色	白色砂粒	良好	覆土下層	

第31表 S121出土土器品観察表

No	器種	法量 (cm)	石質	重量 (g)	出土地点	備考
13	磨石	長: (11.5)、幅: (9.2)、厚: 4.7	安山岩	663.99	覆土上層	

第32表 S122出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徵	調整の特徵	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 杯	14.9	6.4	-	丸底。口縁部が短く立ち 上がる。半球状。	口縁部傾ナデ。体部外面へラ 筋。内面へラ筋。外面全 体スス付着。	明赤褐色	石英・長石 雲母 粗砂粒	良好	覆土下層	5/8残
2	土師器 杯	12.2	5.0	-	丸底。口縁部がやや中よ り上がる。半球状。	口縁部傾ナデ。体部外面へラ 筋。内面へラ筋。底部内 面にスス付着。	褐色	石英・長石 白色粗砂 粒	良好	床面直上	完整
3	土師器 杯	-	(3.1)	-	丸底。	体部外面へラ筋。内面は厚 薄しているため調整不明。	明赤褐色	石英・長石 小砂粒	良好	覆土上層	1/3残
4	土師器 碗	(12.8)	(9.8)	-	口縁部がやや外反して立ち 上がる。	口縁部傾ナデ。体部外面は下 半にヘラ筋を施した。全 体にヘラ筋。内面は全体に ヘラ筋。	褐色	石英 微砂粒	良好	床面直上	1/4残

5	土師器 壺	(12.0)	(6.2)	-	口縁部はくの字状に外反する。	口縁部外面は横ナデの痕、縦方向へのへら磨き。内面は横ナデの痕、縦方向へのへら磨き。胴部上半外面がヘラナデの痕へら磨き。内面はヘラナデ。口縁部ナデ。胴部内面へら磨り。内面は高め方向へのへらナデ。	にぶい・橙色	石英 微砂粒	良好	覆土下層	1/10残
6	土師器 壺	(18.4)	(14.1)	-	口縁部はくの字状に外反する。	口縁部ナデ。胴部内面へら磨り。内面は高め方向へのへらナデ。	浅黄褐色	石英 小砂粒	良好	覆土下層	1/3残
7	土師器 壺	-	(16.0)	5.7	平底。	底部へら磨り。胴部外面もへら磨り。内面はヘラナデ。外面にスス付着。	にぶい・橙色	赤色細砂粒 白色細砂粒	良好	覆土下層	1/4残

第33表 S123出土土器観察表

No	器種	度量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 杯	(12.2)	5.3	-	丸底。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面は縦方向へのへら磨き。内面は縦方向へのへら磨き。縦部外面にもへら磨き。内面は縦方向へのへら磨き。外面にスス付着。	外・明赤褐色 内・橙褐色	石英 粗砂粒	普通	覆土下層	7/8残
2	土師器 杯	14.4	5.1	-	丸底。口縁部は中や立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面は縦方向へのへら磨り。縦部外面にもへら磨き。内面は縦方向へのへら磨き。外面にスス付着。	赤褐色	石英・砂粒	良好	覆土下層	完形
3	土師器 杯	14.2	6.1	-	丸底。半球状。	口縁部横ナデ。体部外面は縦方向へのへら磨り。縦部外面にもへら磨き。内面は縦方向へのへら磨き。外面にスス付着。	黄褐色	石英・長石 砂粒	良好	覆土中層	完形
4	土師器 杯	(15.0)	5.0	-	口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面は縦方向へのへら磨り。内面はへら磨きの後、黒色処理をしている。外面にスス付着。	明赤褐色	石英 微砂粒	良好	床面直上	1/6残
5	土師器 杯	16.0	7.2	-	丸底。底縁から口縁部にかけてならに広がっている。	口縁部横ナデ。体部外面にへら磨り。底面内面の一部にへら磨きを確認できるが、全体的に磨滅しているため高さ不明。底面外面にスス付着。	*明赤褐色 褐色	石英 粗砂粒	良好	床面直上	9/10残
6	土師器 杯	(14.8)	5.2	4.0	やや平底。口縁部は外反する。	口縁部横ナデの痕。外面は一部にへら磨き。体部から底面にかけての外面は縦方向へのへら磨き。内面は磨滅しているため高さ不明。外面の一部にスス付着。	明赤褐色	石英 粗砂粒	良好	覆土下層	3/4残
7	土師器 杯	9.4	6.5	3.5	手捏丸風。全体に厚手。平底。	口縁部横ナデ。体部外面は縦方向へのへら磨り。縦部外面は縦方向へのへら磨り。内面は縦方向へのへら磨り。	赤褐色	石英 砂粒	良好	覆土下層	ほぼ完形
8	土師器 碗	(13.0)	(6.8)	-	口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面は縦方向へのへら磨り。縦部外面は縦方向へのへら磨き。内面は縦方向へのへら磨き。	にぶい・橙褐色	石英 微砂粒	良好	覆土下層	1/6残
9	土師器 碗	12.3	7.1	4.5	平底。歪みあり。口縁部はくの字状に内傾する。	口縁部横ナデの痕。縦面に泥縁を入れる。体部外面へら磨り。外面にスス付着。	明赤褐色	石英・粗砂粒 粗砂粒	良好	覆土下層	3/4残
10	土師器 灯	10.7	17.0	4.9	平底。歪みあり。口縁部はくの字状に外反。	口縁部横ナデの痕。縦方向へのへら磨きを施す。外面胴部上半にはへら磨き。下半にはへら磨り。外面にスス付着。	褐色	石英・長石 白色細砂粒 赤色細砂粒	良好	覆土下層	9/10残
11	土師器 壺	-	(7.3)	7.5	平底。底面中央部がややくぼむ。	胴部外面へら磨り。内面は縦方向へのへらナデ。	黄灰色	石英・長石 砂粒	良好	床面直上	1/4残
12	土師器 鉢	(28.1)	(12.9)	-	口縁部は中や外反する。	胴部外面上半に縦方向へのへら磨りを施した後に口縁部横ナデ。内面は磨滅しており調整不明。	にぶい・橙褐色	石英・雲母 粗砂粒	普通	覆土下層	1/10残

第34表 S123出土土製品観察表

No	器種	度量 (cm)	材質	重量 (g)	出土地点	備考
13	砥石	長:16.6, 幅:5.0, 厚:4.2	風紋岩	602.93	覆土下層	一部に損傷あり。

第35表 S124出土土器観察表

No	器種	度量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 高杯	14.3	(6.2)	-	胴部丸脚。	胴部外面一部にへら磨き。脚基部周辺にはへら磨り。外部内面にはへら磨き。	明赤褐色	石英 赤色粗砂粒 粗砂粒	良好	貯蔵穴内	胴部7/8残
2	土師器 盃	(18.0)	37.8	(8.6)	口縁部はくの字状に外反し、底面を持って立ち上がる。梨形状。底面は中心部がややくぼむ。平底。	口縁部横ナデ。胴部外面は縦方向へのへら磨り。内面は縦方向へのへら磨き。縦部外面にもへら磨き。内面は縦方向へのへら磨き。外面全体にスス付着。	褐色	長石 小砂粒	良好	貯蔵穴内	1/2残
3	土師器 盃	(20.0)	(6.7)	-	口縁部はくの字状に外反。	口縁部横ナデ。外面へら磨り。内面は縦方向へのへら磨り。	褐色	石英・長石 黄色細砂粒 白色細砂粒	良好	覆土下層	1/8残
4	土師器 盃	-	(2.0)	(5.0)	平底。	底面外周に縦方向へのへら磨り。内面は磨滅しており調整不明。	にぶい・橙褐色	石英・長石 小砂粒	良好	覆土下層	1/10残

5	土師器 甕	-	(12.2)	(9.0)	平底。	胴部外面は縦方向へのヘリ取りの後、一部にヘラ磨き。底面外周は縦方向へのヘリ取り。内面は磨削しており、図表不詳。	外：ぶい・褐色 内：黒色	石英 黒砂粒	普通	甕土下層	1/7残
---	----------	---	--------	-------	-----	---	-----------------	-----------	----	------	------

第36表 S125出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	胴部の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 甕	13.3	23.0	5.5	口縁部がくの字状に外反し、口縁端部はさらに外に広がる。平底。	口縁部横ナデ。胴部外面は一定方向にヘラ磨り、内面はヘラナデを施す。外面にスス付着。	ぶい・黄褐色	赤母 赤色砂粒 白色砂粒	良好	甕土中層	7/8残
2	土師器 甕	(17.2)	22.3	5.6	口縁部はくの字状に外反。球脚状。平底。	口縁部横ナデ。胴部外面は全体にヘラ磨りの後、上半に黒毛目調整を施し、その後部分的にヘラ磨き。内面は全体にヘラナデ。一部に黒毛目調整。外面全体にスス付着。	ぶい・黄褐色	石英 白色砂粒 赤色砂粒	良好	甕土下層	9/10残
3	土師器 甕	(17.3)	(23.3)	-	口縁部はくの字状に外反。	口縁部横ナデ。胴部外面は厚粘りしているがわずかにヘラ磨りか確認できる。内面はヘラナデ。外周急スス付着。	褐色	黒粒 黒砂粒	普通	甕土下層	2/5残
4	土師器 甕	19.5	(14.8)	-	口縁部はくの字状に外反。球脚状。	口縁部横ナデ。胴部外面には縦方向へのヘラ磨り。内面には横方向へのヘラナデ。	ぶい・赤褐色	石英・赤母 白色砂粒	良好	甕土下層	1/3残
5	土師器 甕	(18.8)	(18.8)	-	口縁部はくの字状に外反。球脚状。	口縁部横ナデ。胴部外面は黒毛目調整の後、ヘラ磨り。内面は上半にヘラナデ、下半にヘラ磨り。	ぶい・褐色	石英 黒砂粒	良好	甕土下層	2/5残
6	土師器 甕	(28.0)	(25.7)	-	大甕。口縁部はくの字状に外反。球脚状。	口縁部横ナデ。胴部外面にヘラ磨き。内面は上半に縦方向へのヘラナデ。下半に横方向へのヘラナデを施す。縦筋あり。内外周ともにスス付着。	ぶい・黄褐色	石英 黒砂粒	普通	甕土中層	1/4残
7	土師器 甕	21.8	19.4	8.0	単孔。口縁部が外反しながら立ち上がり、口縁端部はきつく外反する。	口縁部横ナデ。内面の一部に黒毛目調整。口縁部外面には磨正あり。胴部外面にヘラ磨り。一部にヘラ磨き。胴部内面は縦方向へのヘラナデの後、縦方向への磨き。内面底部付着は横方向へのヘラ磨き。	浅黄褐色	石英・長石 砂粒	良好	甕土下層	3/4残

第37表 S126出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	胴部の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 杯	14.9	(6.5)	-	口縁部が外反してから短く立ち上がる。	口縁部横ナデ。	ぶい・褐色	赤色砂粒 白色砂粒	普通	甕土中層	1/2残
2	土師器 杯	(17.4)	5.7	5.4	平底で口縁部がゆるやかに外反する。	口縁部横ナデ。底部外周へラ磨り。	ぶい・褐色	白色砂粒	普通	甕土中層	2/3残
3	土師器 杯	(13.4)	5.6	5.2	口縁部が短く外反する。底部中心部がくぼむ。	口縁部横ナデ。外周にヘラ磨き。	ぶい・褐色	白色砂粒	普通	甕土下層	1/2残
4	土師器 杯	(13.0)	6.2	(5.0)	底部にヘラ磨りを通し器をゆるやかにする。口縁部は短く外反。	口縁部横ナデ。体部外周の一部にヘラ磨り。一部スス付着。	褐色	小石含む	普通	甕土下層	1/3残
5	土師器 杯	11.5	4.6	-	丸底で半球形状。	口縁部横ナデ。外周底部はヘラ磨り。体部へラ磨き。内面は全体にヘラ磨き。	明赤褐色	白色砂粒 黒色砂粒	良好	甕土中層	5/6残
6	土師器 杯	(13.0)	(8.3)	-	丸い体部から口縁部が短く立ち上がる。	口縁部横ナデ。内外周ともに一部へラ磨り。	外：明黄褐色 内：黒褐色	小石含む	普通	甕土中層	上半1/3残
7	土師器 甕	(16.1)	(11.6)	-	口縁部はくの字状に外反し、端部は短く立ち上がる。	体部内外にヘラナデ。胴部内面に縦筋が横切れる。	外：ぶい・褐色 内：黄褐色	白色砂粒	普通	甕土下層	上半1/3残
8	土師器 甕	-	(4.7)	5.4	平底。	内外ともに厚粘りしており調整不詳。	外：ぶい・褐色 内：黄褐色	白色砂粒	普通	甕土下層	底部のみ残
9	土師器 甕	-	(2.9)	(7.0)	平底。	底部外周へラ磨り。	浅黄褐色	赤色砂粒	良好	甕土中層	底部のみ残
10	土師器 甕	-	(3.4)	4.0	平底。	内面全体にスス付着。	ぶい・黄褐色	黒砂粒	普通	甕土下層	底部のみ残
11	須恵器 甕	-	(9.1)	-	口縁部に線を有する。					甕土中層	

第38表 S126出土土器品観察表

No	器種	法量 (cm)	石質	重量 (g)	出土地点	備考
12	碓石?碓石?	長: (23.1)、幅: (11.2)、厚: 5.0	流紋岩	1703.36	甕土下層	表面の一部に磨削。
13	碓石	長: 10.8、幅: 6.0、厚: 3.0	流紋岩	304.53	甕土下層	一部被熱。縦筋あり。

14	打製石斧	長:(10.8)、幅:7.2、厚:2.0	安山岩	148.1	覆土中層	一部欠損。
15	勾玉	長:3.4、幅:1.8、孔径:0.2、厚:0.5	滑石	4.84	覆土下層	両面に磨製。完全穿孔は一面所のみ。
16	白玉	直径:5.5、孔径:1.5、厚:3.1	滑石	0.17	覆土下層	
17	白玉	直径:4.0、孔径:1.5、厚:2.5~3.0	滑石	0.06	床面直上	
18	白玉	直径:5.0、孔径:1.2、厚:0.3~0.5	滑石	0.18	覆土下層	
19	白玉	直径:5.0、孔径:1.5、厚:5.0	滑石	0.14	覆土下層	
20	白玉	直径5.0、孔径:1.8、厚:3.0~3.5	滑石	0.13	覆土下層	
21	白玉	直径4.5、孔径:1.5、厚:2.5~4.0	滑石	0.13	床面直上	
22	白玉	直径4.0、孔径:2.0、厚:2.0~3.0	滑石	0.06	床面直上	
23	白玉	直径:5.0、孔径:1.2、厚:3.5~4.0	滑石	0.18	覆土下層	
24	白玉	直径:4.2、孔径:2.0、厚:2.2~3.0	滑石	0.10	覆土下層	
25	白玉	直径:5.0、孔径:1.5、厚:3.5~4.0	滑石	0.20	覆土下層	
26	白玉	直径:4.2、孔径:1.5、厚:2.2~2.8	滑石	0.10	覆土下層	
27	白玉	直径:4.0、孔径:1.5、厚:2.2~3.2	滑石	0.09	覆土下層	
28	白玉	直径:5.0、孔径:2.2、厚:2.0~3.0	滑石	0.12	覆土下層	
29	白玉	直径:4.0、孔径:1.5、厚:3.5~4.0	滑石	0.10	覆土下層	

第39表 S126出土鉄製品観察表

No	器種	残存部位	法量 (cm)	重量 (g)	出土地点	備考
30	鉄線	鎌倉部・胴部・茎部	全長:19.0 [鎌倉部]長:2.4、幅:1.0、厚:0.3 [胴部]長:11.4、幅:0.7、厚:0.4 [茎部]長:5.2、幅:0.3、厚:0.3	21.72	覆土下層	鎌倉部はナリ目を有する長三角形の長直線。棒状の胴部で長は直線もしくは斜め線を有する。

第40表 S127出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	高さ	底径							
1	土師器 片	(15.0)	(6.0)	-	口縁部やや外反。	口縁部横ナデ、底部のみ平反ナデ。体部外面一部にへう張り。体部内面へう張り。	褐色	白色砂粒 黒色砂粒	良好	覆土下層	1/3残
2	土師器 片	15.1	5.8	-	口縁部がやや外反する。	口縁部横ナデ。体部外面は横方向にへう張り。内面は横方向のへう張り。内外面ともに一部にスス付着。	褐色	石英 粗砂粒 砂粒	普通	床面直上	11/12残
3	土師器 壺	11.4	(7.3)	-	丸唇が、口縁部は短く外反する丸い。体部から口縁部が短く外反。	口縁部横ナデ。体部外面は横方向にへう張り。体部内面へう張り。	外:にぶい褐色 内:にぶい赤褐色	粗砂粒	良好	貯蔵穴内	2/3残
4	土師器 壺	16.1	21.2	7.0	口縁部はくの字状に外反。	口縁部横ナデ。胴部外面と底部外面にへう張り。胴部内面へう張り。内面底部付近はへう張り。内外面ともにスス付着。内面は特に多く付着している。	灰黄褐色	石英 白色粗砂 粗砂 赤色粗砂 赤色細砂 粗砂	普通	床面直上	15/16残
5	土師器 壺	15.5	20.8	6.2	平底。口縁部がくの字状に外反。	口縁部横ナデ。胴部外面下半にへう張り。口縁部内面には横方向のへう張り。胴部内面は横方向のへう張りを通した。部分面にへう張り。底部付近の胴部下半内面の一部が赤褐色に着色。	にぶい黄褐色	石英 白色粗砂 粗砂 赤色粗砂 粗砂	普通	貯蔵穴内	完形
6	土師器 壺	(16.0)	(12.7)	-	厚胴状。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。胴部内外面ともにへう張り。胴部外面の一部にスス付着。口縁部と胴部の接合部あり。	淡黄褐色	白色砂粒 黒色砂粒	良好	貯蔵穴内	1/4残
7	土師器 壺	(15.6)	(4.2)	-	口縁部は外反。	口縁部横ナデ。胴部外面は横方向にへう張り。胴部内面は横方向に横目直線。	にぶい褐色	粗砂粒	普通	貯蔵穴内	口縁部2/5残

第41表 S127出土石製品観察表

No	器種	法量 (cm)	石質	重量 (g)	出土地点	備考
8	白玉	直径:4.5、孔径:2.0、厚:1.0	碧玉	0.04	覆土下層	

第42表 S127出土鉄製品観察表

No	器種	残存部位	法量 (cm)	重量 (g)	出土地点	備考
9	鉄鏃	鏃部	長: (11.4)、幅: 0.5、厚: 0.5	15.04	覆土上層	長割製。
10	鉄鏃	茎部	長: (2.4)、幅: 0.3、厚: 0.4	1.48	床面直上	
11	鉄鏃	茎部	長: (1.1)、幅: 0.2、厚: 0.2	0.31	床面直上	

第43表 S128出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	図説の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 杯	(16.9)	(5.6)	-	口縁部はやや立ち上がる。 平縁状。	口縁部縮ナデ。体部外面はへう 削り、体部内面は縦方向に へう削ぎ。	棕色	緻密	良好	覆土下層	1/8残
2	土師器 杯	13.9	5.1	-	口縁部が内傾する。丸底。	口縁部縮ナデ。外面は縦方向に 横方向のへう削りを施した 後、底部のへう削り。内面は 放射状のへう削ぎ。内外面と もに黒縁あり。口縁部に縦積 帯あり。	棕色	石英・雲母 黒砂粒 黒砂粒	良好	貯蔵穴内	完形
3	土師器 杯	(12.8)	(5.1)	-	口縁部がくの字状に外反。	口縁部縮ナデの縦、横方向の へう削ぎ。体部外面は横方向 のへう削ぎ。体部内面は放射 状にへう削ぎ。	明赤褐色	緻密	良好	覆土下層	1/8残
4	土師器 高杯	-	(7.8)	-	杯部、杯部欠損。短頸。	外面に縦方向のへう削ぎ。内 面上半は平縁状のもので薄でた びあり。内面下半は横ナデ。	にぶい黄褐色	石英 白色砂粒	良好	覆土下層	頸部1/3残
5	土師器 高杯	-	(2.7)	7.9	底部中心部が若干くぼむ。	底部外周へう削り。	にぶい黄褐色	石英 白色砂粒	良好	覆土上層	1/24残
6	土師器 蓋	(21.7)	(24.7)	-	口縁部はくの字状に外反し、 肩部にさらに少し外反する。	口縁部縮ナデ。側部外面へう ナデ。へう削り。ススが付着。 側部内面へうナデ。縦積帯あ り。	にぶい黄褐色	石英・雲母 黒砂粒	良好	覆土下層	1/4残
7	須恵器 高杯	(17.0)	(7.3)	-	杯部に3つの紐を有する。 特殊の把手が付属していた か。	縦状文が施される。				覆土上層	

第44表 SK10・その他出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	図説の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 甕	(11.6)	(7.7)	-	口縁部はくの字状に短く外 反する。	口縁部縮ナデ。体部外面はへう 削り、内面は縦方向のへう削 ぎ。外面にスス付着。	赤褐色	石英・雲母 黒砂粒	普通	SK10	1/6残
2	土師器 弁	(14.0)	(5.6)	-	口縁部はやや外反する。	口縁部縮ナデ。体部外面へう 削り。内面は彫刻しているた め真数不明。	棕色	石英・雲母 黒 赤色黒砂 粒	良好	表土中	1/4残
3	土師器 甕	(15.7)	(7.6)	-	口縁部がやや外反しながら 立ち上がる。	口縁部外面は縮ナデの後、横 方向のへう削りを施してから 縦方向のへう削ぎ。口縁部内 面は横ナデの後へう削ぎ。口 頸部外面はへう削りの後へ うナデ。内面は黒目黒縁と へう削りが施される。	にぶい棕色	石英 黒砂粒	良好	表様	口縁部のみ残
4	須恵器	-	-	-		溝状文あり。	明灰黄色	石英 白色砂粒	良好	表様	



### Ⅲ おわりに

今回の北若松原遺跡発掘調査では、第1次・2次合わせて竪穴住居跡28軒と土坑17基が確認された。各遺構及び出土遺物等の状況は前章で記したとおりであり、特に本地域の古墳時代中期から後期にかけての集落構造を考える上で貴重な資料が得られたものとする。ここでは、これらの出土土器及び竪穴住居跡について若干の考察を加え、報告のまとめとしたい。

#### 1 出土土器について

今回確認された竪穴住居跡28軒のうち明らかに時期が異なるのはSI14・15の2軒のみであり、平安時代中頃のものと思われるものである。他はすべて古墳時代中期後葉から後期初頭の比較的短期間に営まれたものであり、住居の建て替えや拡張等の例はあるものの重複関係はみられないという状況である。

さて宇都宮市内におけるこの時期の集落出土土器については、北関東自動車道路建設及び東谷・中島地区土地区画整理事業等に伴う一連の発掘調査があり、杉村遺跡、権現山遺跡・百目鬼遺跡、立野遺跡等で詳細な編年作業が試みられている。また、近隣では本遺跡北方2.5kmの雷電山遺跡においてもこの時期の集落が発掘され、編年案が提示されている。これらの土器編年案を参考に本集落出土土器群の変遷を考えると概ね次の2時期に分けられる。

I期 SI04・06・11・12・13・20・24・25・26・27出土の土器群。

土師器には坏・埴・高坏・壺・甕・甔等の器種がみられる。坏・埴類は半球形のもの(SI12-1~7、SI13-1~4等)といわゆる内斜口縁のもの(SI12-10~12、SI26-1~4等)があり、全体に深めで平底のものもみられる。高坏は小型のものが一定量みられる。壺・甕類は大小2種類みられるが、大型品は全体に胴部の丸味が強い。甔も大小があり、甔の底部を抜いたような大型単孔のもの(SI04-3、SI06-7等)や折り返し口縁を持つ小型単孔のもの(SI11-5・6)がみられる。

須恵器の伴出は、SI12(坏身)・SI26(甔)及びSI06(大型甔?)の3住居跡で確認されている。このうちSI12の坏身は、土釜形の名残とみられる器形や底部の手持ちヘラ削り等古式の様相がみられ、TK208形式以前のものと考えられる。また、SI26の甔も体部径よりも口径が小さくなるものであり、やはり同時期頃のものと考えられる。本期の年代としては、5世紀後葉頃と考える。

II期 SI02・03・05・07・08・09・10・16・17・18・19・21・22・23・28出土の土器群。

土師器の器種構成はI期とほぼ同じである。坏・埴類は全体に浅めのものが多くなるともに、新たに須恵器の模倣坏(SI10-3、SI16-3、SI23-1等)が加わり、本期の大きな指標となっている。甔は胴部の丸味が徐々に弱まり、長胴化傾向を示すもの(SI19-9~13、SI28-6等)がみられるようになる。また大型単孔の甔は、いわゆる砲弾形(SI03-10)となる。

須恵器の伴出は、SI17(大型甔?)・SI19(坏身)・SI21(直口壺?)・SI28(高坏)の4住居跡で確認されている。このうちSI19の坏身は、立ち上がりの高さや端部の仕上げ方等からTK23もしくはTK47形式のものと考えられる。また、SI28の高坏は無蓋坏部の破片資料であるが、坏部の深さや取っ手の位置等から同時期頃のものと考えられる。本期の年代としては、5世紀末から6世紀初頭と考える。

## 2 竪穴住居跡について

下表は今回確認された古墳時代の竪穴住居跡26軒の一覧表である。調査区の関係で全体像が確認できなかったものも若干あるが、本遺跡のおおよその様相は把握できるものと思われる。ここではいくつかの視点から、本遺跡竪穴住居跡の形態的・構造的特徴を整理してみたい。

**規模と平面形** 規模については床面積を取り上げ、便宜的に大型（25㎡以上）、中型（15～25㎡）、小型（15㎡以下）の3段階に分けたところ、大型9軒・中型8軒・小型9軒と非常にバランスのとれた配分を示している。これは時期毎にみてもⅠ期が大型3軒・中型4軒・小型3軒、Ⅱ期が大型6軒・中型4軒・小型6軒で、大中小のバランスは概ね保たれていると言える。ただしⅡ期の大型の半数は床面積が30㎡後半から40㎡を超えるものであり、大型化が進んでいるとも言える。一方平面形については、厳密には正方形は無くすべて長方形（又は正方形指向）であるが、ここでは便宜上長短比が1:1.5未満のものを正方形、それ以上のものを長方形と分類した。これを規模別にみると、大型は正方形8軒・長方形1軒、中型は正方形4軒・長方形3軒、小型は正方形2軒・長方形5軒となり、小型になるにつれて長方形が多くなっていることが指摘できる。なお主柱は4本が基本で、中小型で長方形のものには2本主柱もみられる。

**間仕切り溝** 間仕切り溝は壁と主柱穴間又は主柱穴を結ぶ線上間に掘られた小溝で、その本数は住居跡によって様々である。今回の調査では、全竪穴住居跡の半数に近い12軒で間仕切り溝が確

遺構名	規模			平面形	主柱	火処	間仕切り溝	時期	備考
	長辺×短辺m	面積㎡	分類						
SI01	2.95×2.52	7.43	最小	不整形		無			
SI02	4.03×3.30	13.29	小	長方形		カマド		Ⅱ期	
SI03	4.12×3.13	12.89	小	長方形		カマド		Ⅱ期	
SI04	3.09×2.86	8.83	小	正方形		無		Ⅰ期	
SI05	4.73×3.90	18.44	中	正方形		地床炉		Ⅱ期	
SI06	4.95× ?		中	正方形	4本	地床炉		Ⅰ期	
SI07	4.73×4.07	19.25	中	長方形		無		Ⅱ期	
SI08	4.85×4.82	23.37	中	正方形	4本	地床炉	有	Ⅱ期	主柱間に小柱
SI09	5.27×5.16	27.09	大	正方形	4本	地床炉	有	Ⅱ期	
SI10	5.47×5.42	29.64	大	正方形	4本	地床炉	有	Ⅱ期	
SI11	3.18× ?		小	正方形		地床炉		Ⅰ期	
SI12	5.59×3.90	21.80	中	長方形	2本	地床炉		Ⅰ期	
SI13	5.02×4.93	24.74	中	正方形	4本	地床炉	有	Ⅱ期	炉は壁の直下
SI16	6.45×6.17	39.79	大	正方形	4本	地床炉	有	Ⅱ期	拡張2回
SI17	6.63×6.52	43.22	最大	正方形	4本	地床炉	有	Ⅱ期	床に小柱穴列
SI18	3.74× ?		小					Ⅱ期	
SI19	6.07×6.05	36.72	大	正方形	4本	カマド	有	Ⅱ期	拡張
SI20	3.36×2.92	9.81	小	長方形		無		Ⅰ期	
SI21	3.88×3.46	13.42	小	長方形		地床炉		Ⅱ期	
SI22	4.12×3.25	13.39	小	長方形	2本	地床炉		Ⅱ期	
SI23	5.67×4.85	27.49	大	長方形	4本	地床炉	有	Ⅱ期	
SI24	5.43×5.28	28.67	大	正方形	4本	地床炉	有	Ⅰ期	
SI25	5.25×5.10	26.77	大	正方形	4本	地床炉	有	Ⅰ期	張出貯蔵穴
SI26	5.12×5.08	26.01	大	正方形	4本	地床炉	有	Ⅰ期	壁に小柱穴列
SI27	4.32×3.37	14.55	中	長方形	2本	地床炉		Ⅰ期	
SI28	4.67×4.48	20.92	中	正方形	4本	地床炉	有	Ⅱ期	拡張

第45表 古墳時代竪穴住居跡の様相

認されている。その内訳を規模別にみると大型9軒・中型3軒で、大型はすべて確認されている。また時期別ではI期4軒・II期8軒となり、増加傾向にあると言える。なお、SI17の床やSI26の壁にみられる小柱穴列はかなり希少な確認例であるが、間仕切り空間に置かれた構造物に伴うものと思われる。

**炉とカマド** 竪穴住居跡内の火処の内訳は、地床炉18軒・カマド3軒と炉が圧倒的に多い。これを時期別にみると、I期がすべて地床炉で8軒、II期が地床炉10軒・カマド3軒であり、本集落ではII期にカマドが導入されたことが指摘できる。確認された3軒のカマドはいずれも煙道部が僅かに壁を切り込むもので、壁を切り込んで燃焼部を造るタイプのもの（本遺跡古代のSI14・15等）より初期的であると思われる。また炉は、その位置が一方（北又は東）の壁に近づいているものがほとんどで、特にSI13などは東壁の直下にほぼ接している。炉からカマドに変化する時の状況が、よく反映されているものと思われる。

### 3 集落について

以上のように本遺跡の古墳時代集落は、中期後葉から後期初頭（暦年代では5世紀後葉から6世紀初頭）にかけて概ね2時期にわたって営まれたものである。集落の構成は、弧状に配された数軒から5～6軒の竪穴住居跡が一単位とみられ、時期とともに範囲を拡大しながら変遷したものとみられる。また集落規模は、I期10軒からII期15軒に増加するとともに、竪穴住居面積も大型化傾向にあり、人口は着実に増加していたものとみられる。さらにはこの時期、竪穴住居へのカマドの導入や須恵器・鉄器等の普及など、集落における生活様式が飛躍的に発展する様子が窺える。

さて本集落跡の立地的環境で最も注目しなければならないのは、浅い谷部を挟んで僅か0.5km西に展開する塚山古墳群の存在である。主墳である塚山古墳は、東谷町の塚塚古墳とともに栃木県の中期古墳を代表する大型前方後円墳であり、当時における宇都宮市南部地域の重要性を示すものである。この塚山古墳群の位置付けについては、宇都宮大学をはじめとする一連の発掘調査等から、塚山古墳→塚山西古墳→塚山南古墳という順で前方後円墳（西・南古墳は帆立貝型）が3代にわたって築かれたことが確認され、出土した円筒埴輪や土器の分析等から5世紀中葉から6世紀初頭にかけての造営年代が示されている。

本集落はまさにこの塚山古墳群の造営期間中に営まれたものであり、その膝元の集落として大きな役割を担っていたことは想像に難くないところである。そして塚山古墳群の造営終了とともに、本集落もその終焉を迎えたものと思われる。

#### （参考文献）

- 藤田典夫・安藤美保 2000『杉村・磯岡・磯岡北』栃木県教育委員会・(財) 栃木県文化振興事業団
- 藤田典夫・谷中 隆 2001『権現山遺跡・百目鬼遺跡』栃木県教育委員会・(財) とちぎ生涯学習文化財団
- 内山敏行 2005『東谷・中島地区遺跡群5 立野遺跡』栃木県教育委員会・(財) とちぎ生涯学習文化財団
- 今平利幸 1994『雷電山遺跡』宇都宮市教育委員会
- 常川秀夫・大金直亮・石川均 1979『塚山古墳群』栃木県教育委員会
- 石部正志・阿部知己・齋藤恒夫 1995『塚山古墳外形確認調査報告』『峰考古』第9号 宇都宮大学考古学研究会
- 石部正志・阿部智之他 2003『塚山西古墳・塚山南古墳』宇都宮市教育委員会

## 第2章

# 若松原南遺跡

# I はじめに

## 1 調査の経過

若松原南遺跡は、宇都宮市街地の南方約6km、宇都宮市若松原3丁目21番他に所在する遺跡で、古墳時代の集落跡として登録(県番号4195)された周知の埋蔵文化財包蔵地である。この包蔵地の南端を東西に横切るのが市道749号線であるが、近隣の宅地開発等に伴って交通量が増大したことから、平成16年に道路拡幅の工事計画が浮上した。宇都宮市教育委員会と市道路建設課は、協議の結果、平成18年度以降に記録保存のための発掘調査を実施することとした。

**確認調査** 調査期間は平成18年11月21日～平成19年1月16日。現道及び拡幅部分を合わせた約2,000㎡(総延長約250m)を対象に表土を除去し、遺構等の確認にあたった。この結果、現道部分は削平や攪乱が激しく遺構等の確認はできなかったが、拡幅部分(現道北側の水田面)においては竪穴住居跡、土坑、溝跡等を確認することができた。なお当該年度はおおよそその遺構数と分布範囲をおさえるに止め、本調査は次年度予算で実施することとした。

**本調査** 調査期間は平成19年10月16日～平成20年2月12日。調査対象としたのは、前年度の調査で遺構が確認できた約1,000㎡(総延長約220m)の範囲である。発掘調査は竪穴住居跡や土坑が密集する西側から着手し、順次東方へと進んだ。竪穴住居跡は7軒確認されたが、調査区が幅4～5mと細長いため、いずれも部分的で全容を把握できるものはなかった。ただしやや大型のSIO4は複数のカマドを有し、遺物も多かったため調査にも時間を要した。調査区の中央付近、竪穴住居跡群のすぐ東側では3棟の掘立柱建物跡と柵状の柱穴列1本が確認された。こちらも調査区の関係で、柱間数や全体規模はいずれも不明であった。東側に進むと住居跡・建物跡等はいずれも、土坑の分布が中心であった。ある程度の遺構の広がり認められたものの、全体的に遺物量は少なかつたこともあり、調査は順調に進み、ほぼ予定の期日で終了することができた。

## 2 遺跡の環境

本遺跡は北若松原遺跡の南南西約1kmに位置し、地理的・地形的環境はこれ(第1章I-2参照)とほぼ同じで、やはり南流する田川と姿川に挟まれた宝木台地上に立地する。微地形的には、姿川の支流である兵庫川の左岸台地上で、標高は90m前後である。遺跡地付近はほぼ平坦であるが、兵庫川沿いの西から東にかけて僅かに上る緩斜面となっており、その高低差は2m程である。また、兵庫川沿岸の低地面との比高差は3～4mを測る。なお遺跡地の現況は水田・畑地・道路等として利用されているが、周辺はほぼ宅地化されている。

周辺の遺跡についても北若松原遺跡とほぼ同様(第2図)であり、古墳時代をはじめとする集落遺跡の密集度が高い。なお、本遺跡の北方約1kmには、本県の中期古墳を代表する塚山古墳群が存在している。

(参考文献)

宇都宮市教育委員会 2017 「宇都宮市遺跡分布地図」

## II 遺構と遺物

今回の若松原南遺跡においては、約1,000㎡が発掘調査の対象となり、竪穴住居跡7軒・掘立柱建物跡3棟・柱穴列2本・土坑48基及び堀等が確認された。ここでは遺構毎に、調査成果をまとめた。

### 1 竪穴住居跡

#### SI01 (第80・81・97図)

**概要:**北壁にカマドを有する中規模の竪穴住居跡で、南半分以上が調査区外である。平面形は方形とみられ、主軸の方位はN-13°-Eである。**位置:**調査区の中央やや西寄りに位置し、兵庫川低地までは約100mの距離にある。**規模:**東西4.75m×南北1.20m以上の方形で、確認面から床面までの深さは0.60m前後とやや深めである。**覆土:**自然堆積であるが、下層床面中央部にはカマドから流れ出た灰褐色粘土や焼土を多く含む層がみられた。**床面:**ほぼ平坦で、カマド周辺はよく踏み固められていた。**柱穴:**調査区内では確認されていない。**貯蔵穴:**南北46cm×東西67cm×深さ68cmの隅丸長方形で、カマド右脇の北東コーナー寄りに位置する。**カマド:**東壁のほぼ中央に位置し、煙道は壁を45cm程掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体として造られたもので、幅120cm・奥行き90cm程の大きさである。燃烧部は南北88cm×東西78cm×深さ10cmの不整形円の凹みで、火処は赤く焼け焦がされていた。**出土遺物:**図示したのは土師器壺1点のみで、カマド周辺から出土したものである。

#### SI02 (第82図)

**概要:**南壁中央に小さい張出を有するやや小規模な竪穴住居跡で、主軸の方位はN-18°-Eである。なお、北西コーナー付近は調査区外である。**位置:**調査区の中央やや西寄り、SI01のすぐ東側に位置する。**規模:**東西3.68m×南北3.10m以上の隅丸長方形で、確認面から床面までの深さは0.1m前後である。**覆土:**自然堆積で、下層には小さいロームブロックが含まれていた。**床面:**ほぼ平坦で、主柱穴に囲まれた中央部はある程度踏み固められていた。**柱穴:**主柱穴はP1~P4(直径32cm~37cm×深さ22cm~29cm)の4本で、柱間距離は南北1.35m×東西1.85mと長方形の配置である。**張出:**南壁中央部が幅約1m・奥行き30cmほどの大きさで半月状に張り出している。ただしこの部分に貯蔵穴等の施設は見られない。**火処:**床面から地床炉等は確認されていない。また、調査区外の北壁東寄りにおいても、その残り具合からカマドを有する可能性は低いものとみられる。**出土遺物:**覆土下層から破片資料が数点出土したが、図示し得るものは無かった。

#### SI03 (第83図)

**概要:**北東コーナー部のみが確認された竪穴住居跡で、想定される主軸方位はN-18°-Eである。**位置:**調査区のほぼ中央部で、SI04と主軸を揃えて隣接している。**規模:**平面規模は不明であるが、確認面から床面までの深さは0.58mとしっかりした深みを有している。**覆土:**全体にローム粒・小ロームブロックを多く含んでおり、人為的に埋め戻された可能性が高い。**床面:**確認された範囲ではほぼ平坦である。**出土遺物:**覆土下層から破片資料が数点出土したが、図示し得るものは無かった。

#### S104 (第84・85・98・99図)

**概要:** 確認された中では最も規模の大きい竪穴住居跡で、北東コーナーと南東部が調査区外となっている。主軸方位はN-13°-Eである。 **位置:** 調査区の中央部で確認された竪穴住居跡群の最も東寄りに位置する。 **規模:** 東西6.20m×南北5.30m以上の整った方形と思われる、確認面から床面までの深さは0.45～0.50mである。 **覆土:** 自然堆積で、下層には小ロームブロック・ローム粒等が含まれていた。 **床面:** ほぼ平坦で、中央部及びカマド周辺は良く踏み固められていた。 **柱穴:** 確認された主柱穴はP1～P3(直径38cm～68cm×深さ48cm～72cm)の3本で、柱間距離は東西3.45m×南北3.20mと、やや東西が長い。なお床面中央部のP4は、直径75cm×深さ28cmの土坑状の穴で、柱穴とは考えにくい。 **カマド:** 本住居跡では北壁で1つ、東壁で2つ、合わせて3つのカマドが確認されている。このうち東壁や北寄りに設けられたカマド1は、周辺から複数の壘や坪が出土しており、最終的に使用されていたものとみられる。煙道部の壁への切り込みは約20cmと浅く、壁の立ち上がり部も残したままである。本体は灰褐色粘土で構築されたものとみられ、大きさは袖部の残存状況から幅約100cm×奥行き約80cm程であったものとみられる。また焚き口部には凝灰岩が補強材としてコの字状にかけ渡されていたが、これから間口の大きさを推定すると幅約30cm×高さ約20cm程であったとみられる。次にやはり東壁のやや南寄りで確認されたカマド2であるが、煙道部の壁への切り込みは約50cmとカマド1より深く、東西断面の観察の結果、カマド廃絶後に約10cmの厚さで土を貼り、壁を復原している様子が明らかになった。このことからカマド2からカマド1への付け替えが窺われる。なお、北壁のカマド3は燃焼部の掘り込みだけが確認されたものであるが、本体部の粘土等が残されていない状況から、カマド1以前に廃絶されたものと思われる。 **出土遺物:** 図示し得たのは、土師器の坏2点・壘3点・甕1点・須恵器の坏1点であり、1の坏と3～5の壘はカマドからの出土である。また7の須恵器坏は、柱穴P2の根本からの出土である。

#### S105 (第86図)

**概要:** 不整楕円形の小型な竪穴住居跡で、主軸の方位はN-13°-Eである。 **位置:** 調査区の西端近くで、兵庫川低地を臨む台地縁辺部である。 **規模:** 南側がSD02に切られ、調査区外に延びていることから全容は不明であるが、短軸2.40×長軸1.90m以上の不整楕円形で、確認面から床面までの深さは5～8cmとかなり浅めである。 **覆土:** 自然堆積で、ローム粒を主体とした土層である。 **床面:** ほぼ平坦であるが、あまり踏み固められた様子は認められない。 **柱穴:** 主柱穴とみられるのはP1～3で、直径30cm前後の円形の穴であるが、深さが8～14cmと浅く、配置も不整である。また周囲には壁柱穴とみられる直径20～25cmの小穴がいくつか並ぶが、いずれも浅め(深さ7～10cm)である。 **火処:** 残存する床面からは、炉の痕跡等は確認されていない。 **出土遺物:** なし

#### S106 (第87図)

**概要:** 調査区内で南東コーナーのみが確認された竪穴住居跡で、推定される主軸の方位はN-16°-Eである。 **位置:** 調査区の西端で、兵庫川低地を臨む台地縁辺部である。 **規模:** 平面形は隅丸方形と思われるが、規模は不明である。また確認面からの深さは6～7cmと非常に浅い。 **覆土:** 自然堆積である。 **床面:** ほぼ平坦であるが、あまり踏み固められた様子は認められない。 **柱穴:** 直径25cmほどの穴が一個(P1)確認されたが、深さは10cmと浅い。 **出土遺物:** なし

#### S107 (第88図)

**概要:** 調査区内で南東コーナーのみが確認された竪穴住居跡で、推定される主軸の方位はN-28°-E

である。位置：SB05のすぐ西脇で、調査区の最西端である。規模：平面形は隅丸方形と思われるが、規模は不明である。また確認面からの深さは10cm前後と非常に浅い。覆土：自然堆積である。床面：ほぼ平坦であるが、踏み固められた様子は認められない。柱穴：コーナー付近から直径25cmほどの穴が一個(P1)確認されたが、深さは10cmと浅い。出土遺物：なし

## 2 掘立柱建物跡

### SB01 (第89図)

概要：桁行2間以上×梁行2間の側柱式の建物とみられ、主軸の方位はN-48°-Wと大きく西へ傾いている。位置：竪穴住居跡群のすぐ東側に位置し、SI04とは僅か5m程の距離にある。

規模・柱間寸法：桁行は南側柱列で、柱間寸法は西から3.32+Xm。梁行は西妻柱列で、総長が4.36m、柱間寸法が北から2.20+2.16mである。掘方：平面形は直径57～65cmの不整形円で、確認面からの深さは56～65cmである。大部分が柱痕跡を残しており、推定される柱の太さは15cm前後である。出土遺物：なし。

### SB02 (第90図)

概要：柱穴1個の確認であるが、掘方等の状況から掘立柱建物跡の隅柱と判断したものである。

位置：SB01のすぐ西側に位置し、本体部は北側調査区外へ展開しているものと思われる。掘方：平面形は一辺80～90cmの方形とみられ、深さは25cm前後。底面のほぼ中央には、柱を据えたと思われる直径25cm・深さ15cmの小穴が確認できる。出土遺物：なし

### SB03 (第91図)

概要：桁行2間以上×梁行1間以上の側柱式の建物とみられ、主軸の方位はN-26°-Wと西へ傾いている。位置：SB01から15mほど西に位置し、本体部は南側調査区外へ展開しているものとみられる。規模・柱間寸法：桁行は北側柱列で、柱間寸法は東から2.45+2.35+Xm。梁行は東妻柱列で、柱間寸法は北から2.24+Xmである。掘方：平面形は長軸80～90cm×短軸70～80cmの長方形（もしくは隅丸長方形）で、確認面からの深さは33～65cmである。出土遺物：なし

## 3 柱穴列

### SX01 (第92図)

概要：5間もしくはそれ以上の櫺状の柱穴列で、主軸方位はN-63°-Wである。位置：SB01とSB03の中間。規模・柱間寸法：確認された柱穴列は1列6本・5間分で、総長6.82m、柱間寸法は西から1.41+1.44+1.30+1.46+1.21mである。掘方：平面形は直径28～40cmの円形で、確認面からの深さは17～45cmである。出土遺物：なし

### SX02 (第93図)

概要：5間の櫺状の柱穴列で、主軸方位はN-85°-Eである。位置：SI05のすぐ東側。規模・柱間寸法：確認された柱穴列は1列6本・5間分で、総長6.67m、柱間寸法は西から1.33+1.20+1.21+1.35+1.58mである。掘方：平面形は直径30～55cmのほぼ円形で、確認面からの深さは5～12cmとかなり浅めである。出土遺物：なし



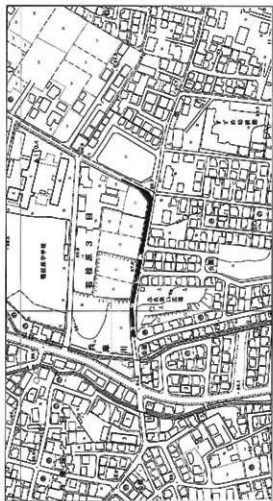
#### 4 土坑

今回の発掘調査では48基の土坑が確認されている。分布は調査区のほぼ全域に及んでいるが、住居・建物跡周辺には集中する傾向がみられる。平面形は楕円形のものが多く半数近くを占め、円形や隅丸方形のものも一定量認められる。

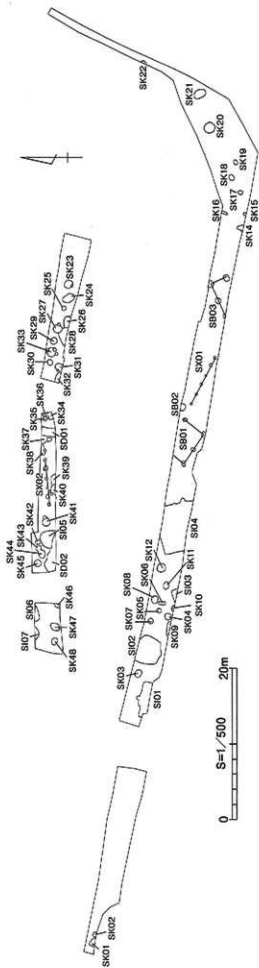
規模は長軸54～193cm×短軸36～137cmとかなりばらつきが見られるが、深さは5～38cmと全体に浅めである。なお、出土遺物は認められない。

第46表 土坑一覧

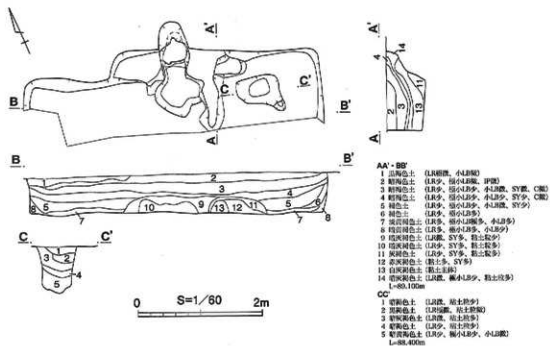
遺構名	平面形	大きさcm	深さcm	遺構名	平面形	大きさcm	深さcm
SK01	隅丸方形	100×(74)	16	SK25	隅丸方形	58×55	5
SK02	楕円形	64×(45)	23	SK26	隅丸方形?	(140×95)	4
SK03	不整円形	98×94	27	SK27	楕円形	122×114	9
SK04	円形	85×81	18	SK28	隅丸方形?	(225×155)	6
SK05	円形	62×60	18	SK29	隅丸方形	91×85	7
SK06	長方形	93×47	15	SK30	楕円形	77×68	11
SK07	円形	70×67	28	SK31	隅丸方形?	(94)×96	18
SK08	円形	101×93	27	SK32	楕円形?	(130×60)	10
SK09	長方形?	193×(35)	7	SK33	不整円形	119×114	5
SK10	不整円形	82×(33)	15	SK34	楕円形?	(67)×103	12
SK11	楕円形	98×77	23	SK35	円形	56×53	21
SK12	円形	116×110	21	SK36	楕円形	54×44	11
SK13	長楕円形	94×36	38	SK37	不整形?	(105×85)	6
SK14	不整円形	99×82以上	12	SK38	不整円形?	157×(55)	5
SK15	長方形?	36×(35)	22	SK39	隅丸方形?	(120×90)	9
SK16	長楕円形	(87)×35	29	SK40	不整円形?	(130×60)	10
SK17	楕円形	74×48	23	SK41	楕円形	(106)×103	11
SK18	楕円形	87×66	22	SK42	楕円形	72×62	11
SK19	隅丸方形	60×57	21	SK43	楕円形	76×(55)	12
SK20	楕円形	152×137	21	SK44	楕円形	103×(85)	14
SK21	楕円形	163×115	11	SK45	楕円形	98×91	10
SK22	楕円形?	77×(33)	29	SK46	楕円形?	(73×57)	16
SK23	楕円形	119×103	12	SK47	隅丸方形	118×94	7
SK24	楕円形	163×104	10	SK48	楕円形	94×75	11



第78图 調査地区図 (1:5,000)

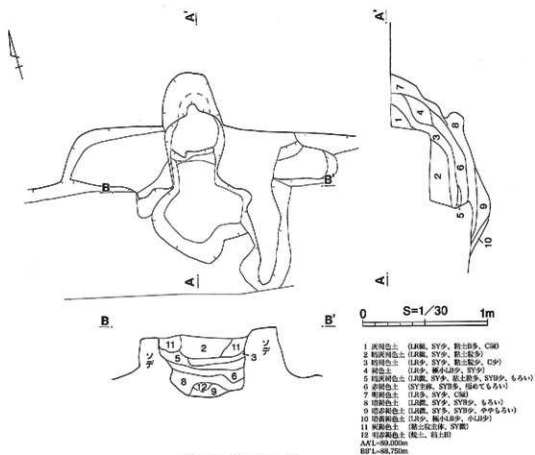


第79图 遺構配置図



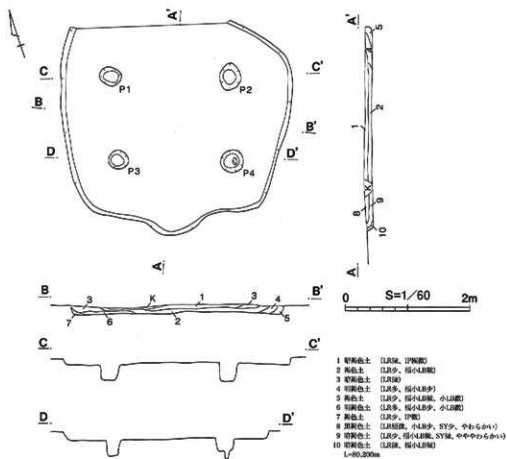
- 1 黄褐色土 (灰肌層、小土層)  
 2 黄褐色土 (灰少、細小土層、IP層)  
 3 黄褐色土 (灰少、細小土層、小土層、SY層、C層)  
 4 黄褐色土 (灰少、細小土層、小土層、SY少、C層)  
 5 緑色土 (灰少、細小土層、小土層、SY少)  
 6 緑色土 (灰少、細小土層)  
 7 黄褐色土 (灰少、細小土層多、小土層多)  
 8 黄褐色土 (灰多、細小土層、小土層)  
 9 黄褐色土 (灰肌、SY多、粘土数少)  
 10 黄褐色土 (灰少、SY多、粘土数多)  
 11 黄褐色土 (灰少、SY多、粘土数多)  
 12 黄褐色土 (粘土多、SY多)  
 13 黄褐色土 (粘土多)  
 14 黄褐色土 (灰肌、細小土層少、粘土数多)  
 L=80、100m
- CC'
- 1 黄褐色土 (灰肌、粘土数少)  
 2 黄褐色土 (灰肌層、粘土数多)  
 3 黄褐色土 (灰肌、粘土数多)  
 4 黄褐色土 (灰少、粘土数少)  
 5 黄褐色土 (灰少、粘土数少)  
 L=80、100m

第80図 SI01

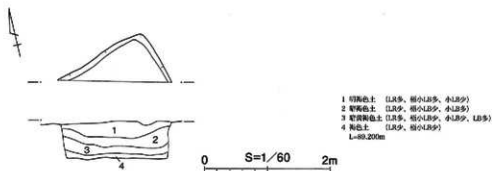


- 1 黄褐色土 (灰肌、SY少、粘土数多、C層)  
 2 黄褐色土 (灰肌、SY少、粘土数少)  
 3 黄褐色土 (灰少、SY少、粘土数少、C少)  
 4 黄褐色土 (灰少、細小土層、SY少)  
 5 黄褐色土 (灰肌、SY少、粘土数多、SY少、もろい)  
 6 黄褐色土 (SY肌層、SY多、粘土数多、もろい)  
 7 黄褐色土 (灰少、SY少、C層)  
 8 黄褐色土 (灰肌、SY少、SY多、もろい)  
 9 黄褐色土 (灰肌、SY少、SY多、もろい)  
 10 黄褐色土 (灰少、細小土層、小土層)  
 11 黄褐色土 (粘土数多、SY肌)  
 12 黄褐色土 (粘土、粘土)  
 A/L=80、100m  
 BB' L=80、100m

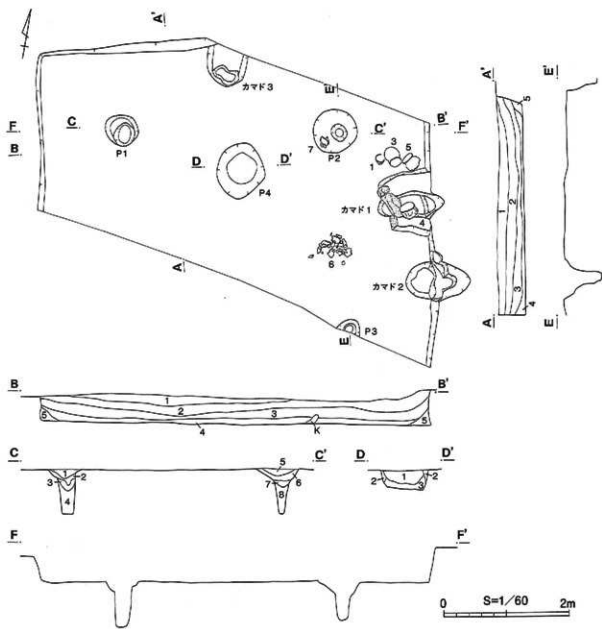
第81図 SI01カマド



第82图 SI02



第83图 SI03



AA'-BB'

- 1 赤褐色土 (L.R.灰黄、IPH)
- 2 赤褐色土 (L.R.灰、IPH、中+L.20%以上)
- 3 暗褐色土 (L.R.少、L.20%以上)
- 4 褐色土 (L.R.少、灰(L.R.)、中+L.20%以上)
- 5 黄褐色土 (L.R.多、灰(L.R.少、小L.R.))

CC'

- 1 褐色土 (L.R.少、灰(L.R.))
- 2 黄褐色土 (L.R.多、灰(L.R.多))
- 3 黄褐色土 (L.R.主、L.R.少、6.5%以上)
- 4 黄褐色土 (L.R.主、中+L.5%以上)
- 5 褐色土 (L.R.多、灰(L.R.))、C.R.
- 6 黄褐色土 (L.R.多、灰(L.R.少、C.R.))
- 7 暗黄褐色土 (L.R.多、灰(L.R.多、小L.R.少、中+6.5%以上)
- 8 黄褐色土 (L.R.主、L.R.多、6.5%以上)

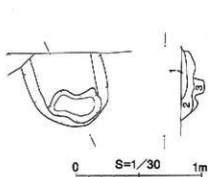
L=89.90m

DD'

- 1 褐色土 (L.R.少、灰(L.R.少、小L.R.少、SYH)
- 2 黄褐色土 (L.R.多、灰(L.R.少、小L.R.))
- 3 暗黄褐色土 (L.R.主、灰(L.R.少、小L.R.少、中+粗粒土))

L=89.90m

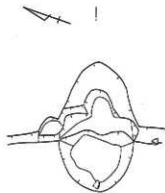
第84図 S104



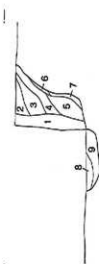
- 1 粘土質褐色土 (L.R.多、小L.R.少、SY少)
- 2 粘土質褐色土 (L.R.多、細小L.R.少、小L.R.微、SY微)
- 3 粘土質褐色土 (L.R.多、細小L.R.多、小L.R.少、もろい)

L=89.900m

カマド3

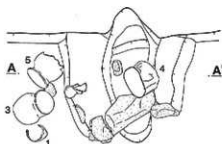


カマド2

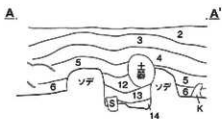


- 1 褐色土 (L.R.微、小L.R.微、中L.L.多りる)
- 2 褐色土 (L.R.微、SY微)
- 3 褐色土 (L.R.少、SY微)
- 4 褐色土 (L.R.少、SY少、粘土微多)
- 5 褐色土 (L.R.多、SY多、もろい)
- 6 褐色土 (L.R.少、粘土微多)
- 7 褐色土 (L.R.多、粘土微多)
- 8 褐色土 (L.R.多、小L.R.多、SY少)
- 9 褐色土 (L.R.多、小L.R.少、SY多、もろい)

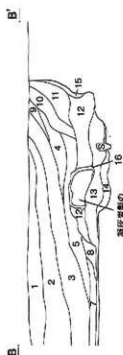
L=89.400m



カマド1



カマド1

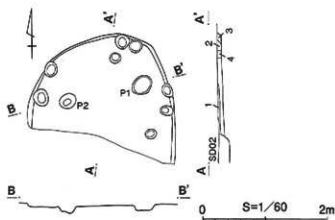


深土層の穴の開口

- 1 褐色土 (L.R.微、SY微)
- 2 褐色土 (L.R.微、細小L.R.微、SY微)
- 3 褐色土 (L.R.微、細小L.R.微、SY微、粘土微多)
- 4 褐色土 (L.R.微、SY少、粘土微多)
- 5 褐色土 (L.R.少、粘土微多、SY少)
- 6 褐色土 (L.R.多、SY少、粘土微多)
- 7 褐色土 (L.R.多、SY微)
- 8 褐色土 (L.R.多、粘土微多、SY少)
- 9 褐色土 (L.R.微、粘土微多、粘土微多)
- 10 褐色土 (L.R.少、小L.R.多、粘土微多、SY微)
- 11 褐色土 (L.R.少、SY少、粘土微多、C微)
- 12 褐色土 (L.R.微、SY多、SY多、粘土微多、C微)
- 13 褐色土 (L.R.少、SY少、L.R.多、C少)
- 14 褐色土 (L.R.少、SY多、L.R.多、C少)
- 15 褐色土 (L.R.多、粘土微多)
- 16 褐色土 (粘土微多)

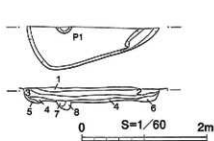
L=89.400m

第85図 SiO4カマド



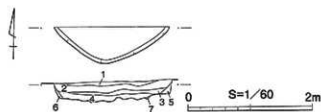
第86图 SI05

- 1 黏褐色土 (灰少)
  - 2 褐色土 (灰少, 黏土质少, SP质)
  - 3 暗褐色土 (灰多, 黏土质少)
  - 4 黑褐色土 (灰质)
- AA/L=84.840m  
BB/L=84.740m



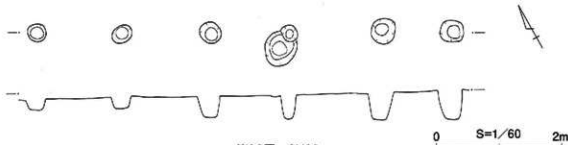
- 1 深褐色土 (灰质, SP质)
  - 2 暗褐色土 (灰质, SP质)
  - 3 褐色土 (灰少, 黏土质, SP质)
  - 4 暗褐色土 (灰多, 黏土质少)
  - 5 暗褐色土 (灰多, 小灰质, SP质)
  - 6 暗褐色土 (灰多, 小灰质, 少量)
  - 7 暗褐色土 (灰质, 黏土质, 中中中中中中)
  - 8 褐色土 (灰少, 黏土质, 小灰质, 中中中中中)
- L=84.740m

第87图 SI06

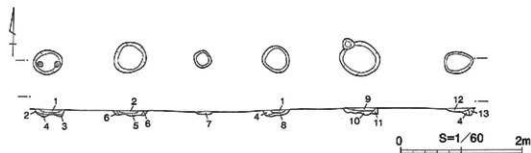


- 1 深褐色土 (灰质, SP质)
  - 2 暗褐色土 (灰质, SP质)
  - 3 褐色土 (灰少, 黏土质)
  - 4 暗褐色土 (灰多, 小灰质, SP质)
  - 5 褐色土 (灰少, 中中中中中)
  - 6 暗褐色土 (灰多, 黏土质)
  - 7 暗褐色土 (灰多, 少量)
- L=84.600m

第88图 SI07

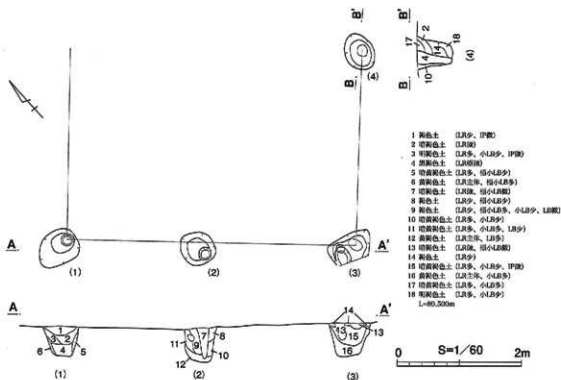


第92图 SX01

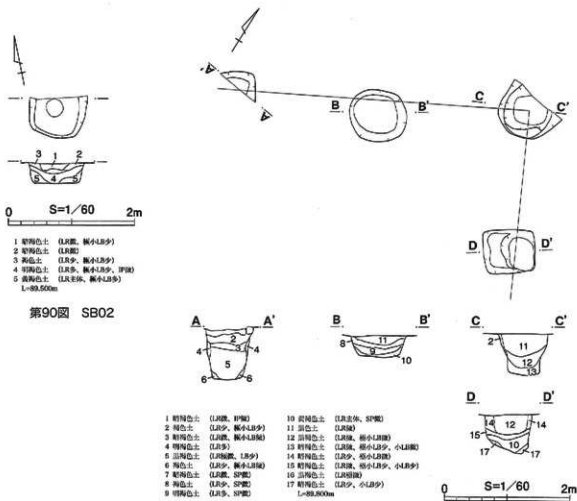


- 1 暗褐色土 (灰少)
  - 2 褐色土 (灰少, 黏土质少)
  - 3 暗褐色土 (灰多, 中中中中中)
  - 4 暗褐色土 (灰质)
  - 5 暗褐色土 (灰多)
  - 6 暗褐色土 (灰多)
  - 7 暗褐色土 (灰多, SP质)
  - 8 暗褐色土 (灰多, SP质)
  - 9 暗褐色土 (灰少, SP质)
  - 10 暗褐色土 (灰多, 黏土质)
  - 11 暗褐色土 (灰多, SP质)
  - 12 暗褐色土 (灰多, 小灰质)
  - 13 暗褐色土 (灰多, 黏土)
- L=84.840m

第93图 SX02



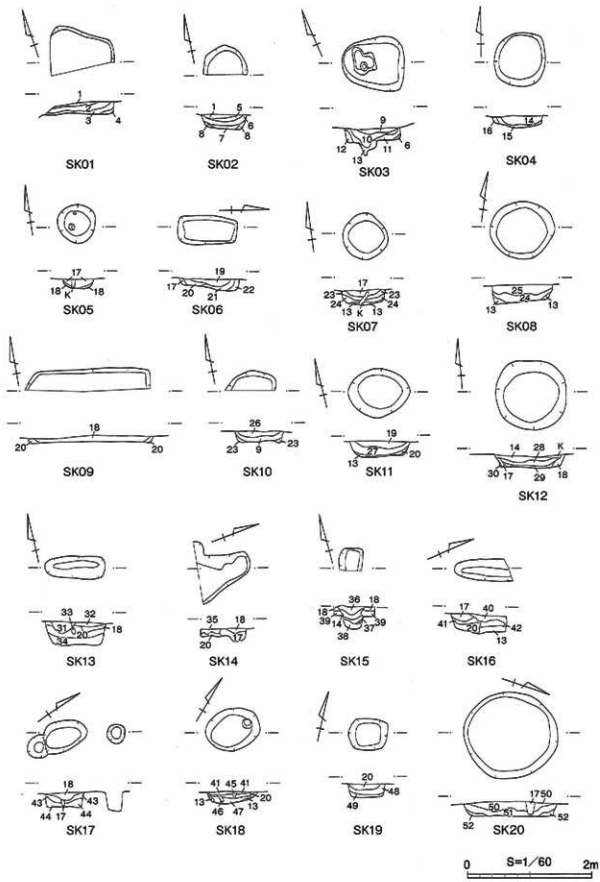
第89图 SB01



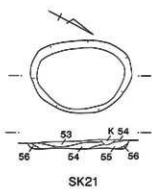
第90图 SB02

第91图 SB03

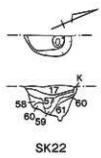




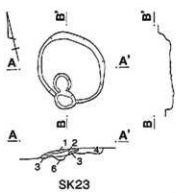
第94图 土坑集成 (1)



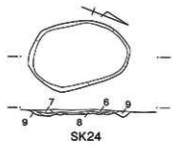
SK21



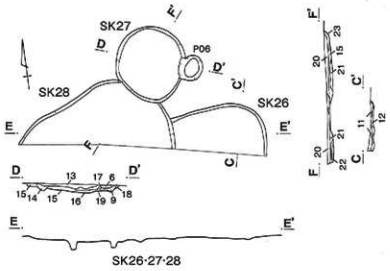
SK22



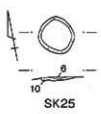
SK23



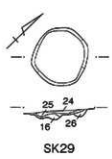
SK24



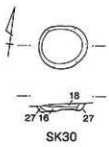
SK26-27-28



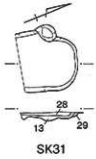
SK25



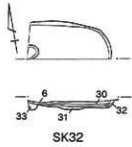
SK29



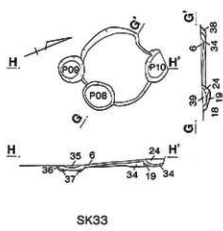
SK30



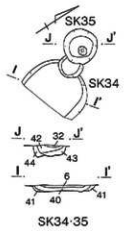
SK31



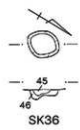
SK32



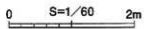
SK33



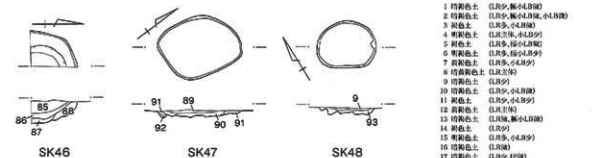
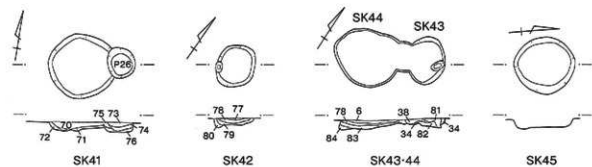
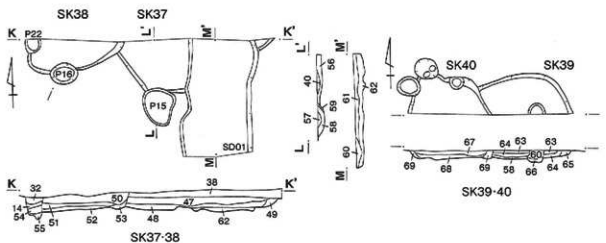
SK34-35



SK36

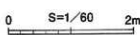


第95圖 土坑集成 (2)

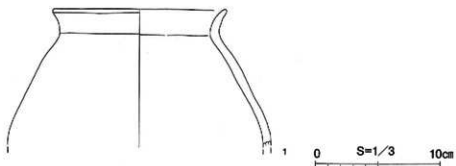


- |                                 |                                |                                 |
|---------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|
| 10 褐色土 (L.灰少, 短小L.卵)            | 52 暗褐色土 (L.灰多, 短小L.卵, SP散)     | 85 暗褐色土 (L.灰多, 短小L.卵)           |
| 20 暗褐色土 (L.灰多, 小L.卵)            | 53 暗褐色土 (L.灰多, 短小L.卵)          | 86 暗褐色土 (L.灰多, 短小L.卵)           |
| 21 褐色土 (L.灰少, 短小L.卵)            | 54 黄褐色土 (L.灰多, IP散)            | 87 黄褐色土 (L.灰多, 中中中L.卵)          |
| 22 暗褐色土 (L.灰多, 小L.卵)            | 55 暗褐色土 (L.灰多, IP散)            | 88 暗褐色土 (L.灰多, 短小L.卵, SP散)      |
| 23 暗褐色土 (L.灰多, 短小L.卵)           | 56 褐色土 (L.灰多, IP少)             | 89 暗褐色土 (L.灰多, 短小L.卵, IP散, SP散) |
| 24 暗褐色土 (L.灰多, IP散)             | 57 暗褐色土 (L.灰多, IP少, SP少)       | 90 暗褐色土 (L.灰多, 短小L.卵, 小L.卵)     |
| 25 褐色土 (L.灰少, 短小L.卵, IP散)       | 58 暗褐色土 (L.灰多, L.卵, SP少)       | 91 暗褐色土 (L.灰多, SP散)             |
| 26 褐色土 (L.灰多, 短小L.卵, IP散)       | 59 黄褐色土 (L.灰多, IP少, SP少)       | 92 暗褐色土 (L.灰多, IP散)             |
| 27 暗褐色土 (L.灰多, IP散)             | 60 暗褐色土 (L.灰多, L.卵, SP散)       | 93 暗褐色土 (L.灰多, IP散)             |
| 28 暗褐色土 (L.灰多, 中中中L.卵)          | 61 暗褐色土 (L.灰多, 小L.卵, IP散, SP散) | 94 暗褐色土 (L.灰多, 中中中L.卵)          |
| 29 暗褐色土 (L.灰多, 中中中L.卵)          | 62 暗褐色土 (L.灰多, IP散, SP散)       |                                 |
| 30 褐色土 (L.灰多, 中中中L.卵)           | 63 暗褐色土 (L.灰多, SP散)            |                                 |
| 31 暗褐色土 (L.灰多, 短小L.卵, IP散, SP散) | 64 暗褐色土 (L.灰多, SP散)            |                                 |
| 32 暗褐色土 (L.灰多, IP散)             | 65 暗褐色土 (L.灰多, IP少, SP散)       |                                 |
| 33 黄褐色土 (L.灰多, 中中中L.卵)          | 66 暗褐色土 (L.灰多, IP少, SP散)       |                                 |
| 34 暗褐色土 (L.灰多, 多, 砂粒)           | 67 暗褐色土 (L.灰多, IP散, SP散)       |                                 |
| 35 褐色土 (L.灰多, SP散)              | 68 黄褐色土 (L.灰多, SP散)            |                                 |
| 36 褐色土 (L.灰多, IP散)              | 69 暗褐色土 (L.灰多, SP少)            |                                 |
| 37 暗褐色土 (L.灰多, 短小L.卵)           | 70 暗褐色土 (L.灰多, SP散)            |                                 |
| 38 黄褐色土 (L.灰多, SP散)             | 71 黄褐色土 (L.灰多)                 |                                 |
| 39 暗褐色土 (L.灰多, SP少, L.卵)        | 72 暗褐色土 (L.灰多, SP少)            |                                 |
| 40 暗褐色土 (L.灰多, 少L.卵)            | 73 黄褐色土 (L.灰多, SP散)            |                                 |
| 41 暗褐色土 (L.灰多, 短小L.卵)           | 74 暗褐色土 (L.灰多, IP少, SP少)       |                                 |
| 42 暗褐色土 (L.灰多, 短小L.卵)           | 75 黄褐色土 (L.灰多, SP少, 褐色L.卵)     |                                 |
| 43 暗褐色土 (L.灰多, 短小L.卵)           | 76 褐色土 (L.灰多)                  |                                 |
| 44 黄褐色土 (L.灰多, L.卵)             | 77 暗褐色土 (L.灰多, 中中中L.卵)         |                                 |
| 45 褐色土 (L.灰多, IP散)              | 78 暗褐色土 (L.灰多)                 |                                 |
| 46 黄褐色土 (L.灰多, IP散, SP散)        | 79 暗褐色土 (L.灰多, 中中中L.卵)         |                                 |
| 47 暗褐色土 (L.灰多, 短小L.卵, SP散)      | 80 黄褐色土 (L.灰多, SP散)            |                                 |
| 48 褐色土 (L.灰多, 短小L.卵, SP散)       | 81 暗褐色土 (L.灰多, 短小L.卵, 中中中L.卵)  |                                 |
| 49 暗褐色土 (L.灰多, 短小L.卵, SP散)      | 82 暗褐色土 (L.灰多)                 |                                 |
| 50 褐色土 (L.灰多, IP散, SP散)         | 83 暗褐色土 (L.灰多, 小L.卵, IP散)      |                                 |
| 51 暗褐色土 (L.灰多, 短小L.卵)           | 84 暗褐色土 (L.灰多, 短小L.卵, SP少)     |                                 |

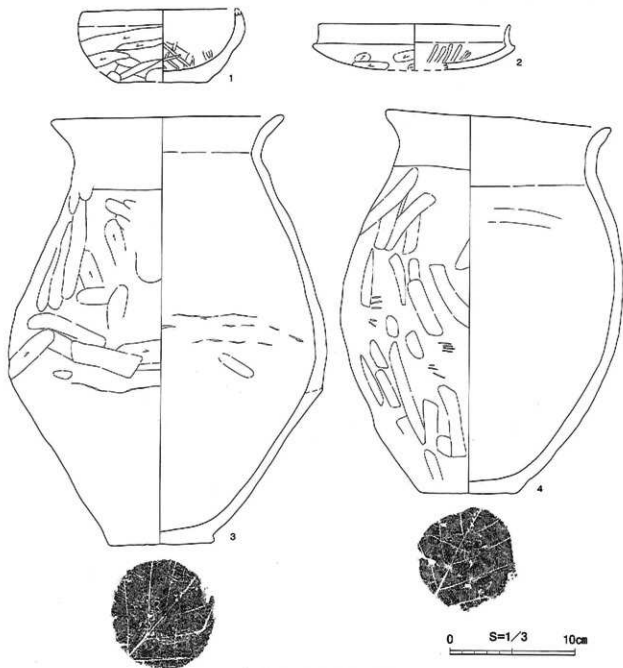
- (SK01-02) L=87.300m  
 (SK03-12) L=89.300m  
 (SK13-19) L=89.800m  
 (SK20-22) L=89.600m  
 (AA) L=85.500m  
 (BF) L=86.500m  
 (SK24-25) L=85.200m  
 (CC) ~ (FF) SK29-07 ~ (HH) L=85.100m  
 (SK30) L=86.900m  
 (SK31-32) L=85.000m  
 (SK35-36) L=85.040m  
 (SK37) L=85.140m  
 (SK38-41) L=84.700m  
 (SK42-43) L=84.740m  
 (SK46) L=84.500m  
 (SK47) L=84.540m  
 (SK48) L=84.480m



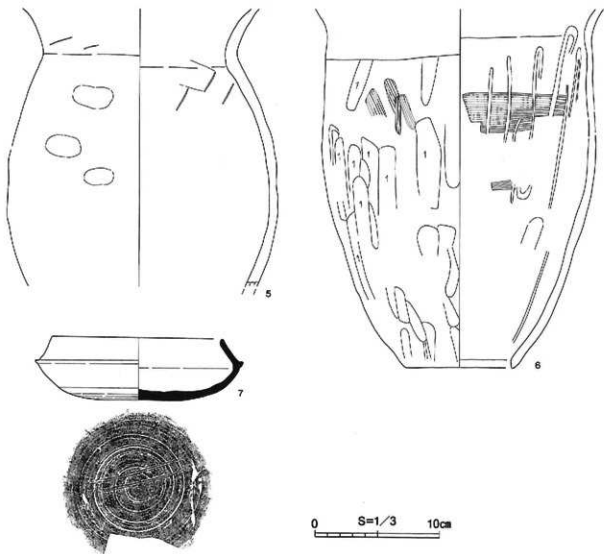
第96图 土坑集成 (3)



第97図 SI01出土遺物



第98図 SI04出土遺物 (1)



第99図 S104出土遺物(2)

第47表 S101出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器蓋	(10.9)	(13.6)	-	口縁部はくの字状に外反。	口縁部横ナド。胴部は平坦しており調整不明。	明赤褐色土	白色粗砂粒雲母	普通	亀岡辺	1/9残

第48表 S104出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器杯	12.6	5.8	7.0	平底。口縁部は内傾して立ち上がる。	口縁部横ナド。体部外面にはへう削りが見られる。内面にはへう削り。	灰白色	雲母 白色粗砂粒	良好	亀1左袖	完形
2	土師器杯	(3.5)	(15.0)	-	丸底。受け部を有する。	口縁部横ナド。体部外面にはへう削り。内面には放射状にへう削りが残されている。	にぶい黄褐色	細砂粒 雲母	良好	阪土下層	1/7残
3	土師器蓋	18.4	34.0	8.3	平底。口縁部はくの字状に外反する。胴部上半と下半は別々に作られたようであり、その接合部が明顯に確認できる。	口縁部横ナド。胴部外面全体にへう削り。内面は横ナド。底部に木炭痕あり。	褐色	長石 黒色砂粒	良好	亀1左袖	完形
4	土師器蓋	17.0	30.3	7.8	平底。口縁部は立つて立ち上がった後、先端が外反する。	口縁部横ナド。胴部外面全体にへう削り。内面は平坦しており確認しにくい。ナドが見られる。底部に木炭痕あり。	褐色	白色粗砂粒 砂粒・長石	良好	亀1天井部	完形
5	土師器蓋	10.5	(22.6)	-	口縁部はくの字状に外反する。	口縁部横ナド。口縁基部にはへう削りを当てた痕が残る。胴部外面は横ナド。内面は一部にへう削り。ススの付着有り。	にぶい褐色	白色砂粒	良好	亀1左袖	2/5残
6	土師器蓋	29.0	23.4	8.5	口縁部はややくの字状に外反する。単孔。	口縁部横ナド。胴部外面にはへう削り。一部へう削り。内面は横ナドのへう削りが残され、一部にナド。	にぶい黄褐色	白色粗砂粒 一部出色化	良好	阪土下層	1/2残
7	須恵器杯	13.5	5.0	-	右形物のワコウ底形。口縁部は内傾して立ち上がる。体部に受け部を有する。	底面は放射状へう削りを施し、中央に2本の直線が見られている。	黄灰色	白色粗砂粒	良好	P22土中	3/4残

### III おわりに

今回の若松原南遺跡の発掘調査は、道路改良工事に伴う限られた面積を対象としたものであったが、遺跡をほぼ東西に横断した形となり、竪穴住居跡7軒・掘立柱建物跡3棟・柱穴列2基・土坑48基・その他溝等、比較的多数の遺構を確認することができた。この結果、本遺跡は兵庫川東岸の台地上にかなり広範囲に展開したものであることが明らかとなった。

今回の調査では遺構が比較的多く確認されたわりに遺物の出土は非常に少なく、伴出遺物（土器）が確実に認められたのはSI04だけであった。SI04からは土師器の壺3点・坏1点及び須恵器の坏1点がほぼ完全な形で出土したが、このうち須恵器の坏は立ち上がり内傾して端部が丸いこと、口径が大きいことなどから須恵器編年のTK10形式に相当するものと思われる。従ってSI04は古墳時代後期前半、6世紀中葉代の所産と考えられる。調査区のほぼ中央付近からは、このSI04に隣接して3軒の竪穴住居跡（SI01～03）が確認されているが、僅かながら出土した土器破片資料等から、ほぼ同時期のものと考えられる。なお、調査区西部で確認された3軒（SI05～07）については、出土遺物が全く見られないことに加え、掘方が非常に浅く、痕跡や柱穴らしきものも確認されていないことから、竪穴住居跡とは認定しがたいものである。

調査区中央部の竪穴住居跡群（SI01～04）のすぐ東側では掘立柱建物跡（SB01～03及びSX01）がまとまって確認されているが、残念ながら出土遺物は皆無である。周辺には奈良・平安期の集落跡も多いことから断定はできないが、配置状況等からはこれら竪穴住居跡群と同一時期のものと考えてよいものと思われる。調査区の関係でそれぞれ建物構造の一部を確認するに止まったが、古墳時代後期の掘立柱建物跡はまだ調査例が少ないことから、今後とも貴重な資料になるものと思われる。

# 写 真 图 版



調査前の風景 (西から)



トレンチ調査 (西から)



トレンチ調査 (東から)



遺構確認調査 (南から)



遺構の確認状況 (西から)



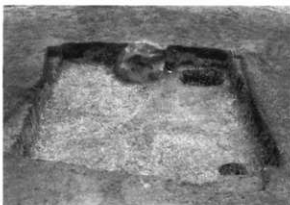
PL2 北若松原遺跡



SI01土層断面 (南から)



SI01完掘状況 (南から)



SI02完掘状況 (西から)



SI02カマド (西から)



SI03完掘状況 (西から)



SI03遺物出土状況 (西から)



SI03カマド (北西から)



SI04遺物出土状況 (南東から)



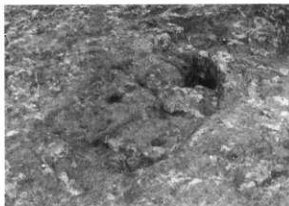
SI05完掘状況 (南東から)



SI06土層断面 (南から)



SI06完掘状況 (南西から)



SI06炉跡 (南から)



SI07遺物出土状況 (南西から)



SI07完掘状況 (西から)



SI08完掘状況 (北西から)



SI08貯蔵穴遺物出土状況 (南西から)

PL4 北若松原遺跡



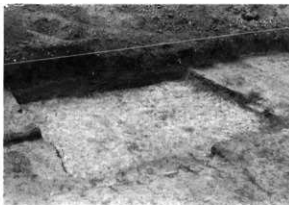
SI09完掘状況（西から）



SI09間仕切り溝と柱穴（南から）



SI10完掘状況（西から）



SI11完掘状況（東から）



SI12遺物出土状況（西から）



SI12遺物出土状況（北から）



SI12土器出土状況（北から）



SI12完掘状況（北東から）



SI13完掘状況 (南から)



SI13貯蔵穴 (北東から)



SI14完掘状況 (西から)



SI14カマド (西から)



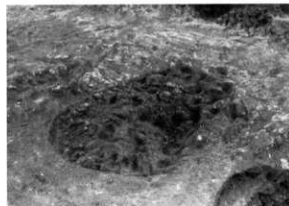
SI15完掘状況 (西から)



SI15カマド土層断面 (南から)



SI16完掘状況 (南から)

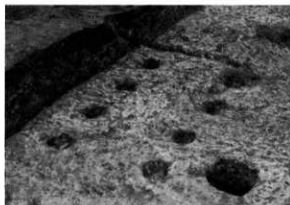


SI16炉跡 (南東から)

PL 6 北若松原遺跡



SI17完掘状況 (西から)



SI17間仕切り溝と小柱穴列 (北西から)



SI17遺物出土状況 (西から)



SI17貯蔵穴 (南西から)



SI18遺物出土状況 (北から)



SI19完掘状況 (西から)



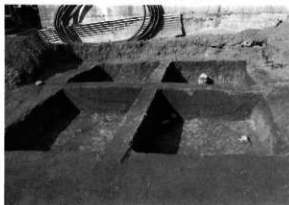
SI19遺物出土状況 (西から)



SI19カマド (西から)



SI20遺物出土状況（南から）



SI21土層断面（南から）



SI21遺物出土状況（南から）



SI21完掘状況（西から）



SI22遺物出土状況（南西から）



SI22完掘状況（北西から）

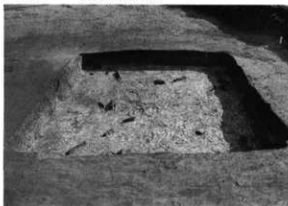


SI23遺物出土状況（南西から）

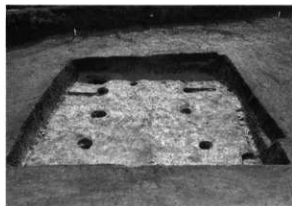


SI23土器出土状況（南西から）

PL8 北若松原遺跡



SI24遺物出土状況（北西から）



SI24完掘状況（北東から）



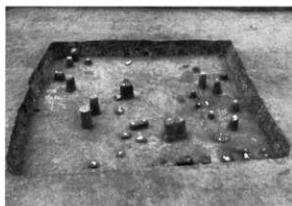
SI25遺物出土状況（南から）



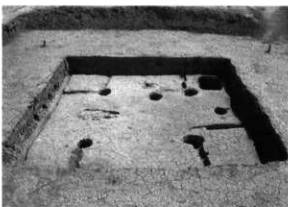
SI25完掘状況（南から）



SI25貯蔵穴（西から）



SI26遺物出土状況（南から）



SI26完掘状況（西から）



SI26北壁の小横穴列（南から）



SI27完掘状況 (南から)



SI27貯蔵穴遺物出土状況



SI28完掘状況 (西から)



SI28貯蔵穴遺物出土状況 (南から)



SK02完掘状況 (南西から)



SK10完掘状況 (東から)



SK16完掘状況 (南から)



SK20完掘状況 (南から)



PL10 北若松原遺跡



調査区全景（西から）



調査区全景（東から）



1



2

SI02出土遺物



1



2



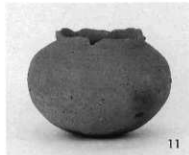
3



4



6



11



7



9



10

SI03出土遺物



3



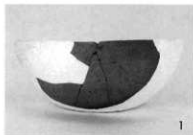
1



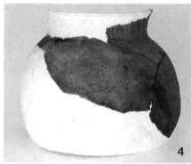
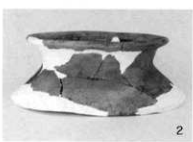
2

SI04出土遺物

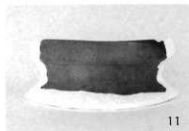
PL 12 北若松原遺跡



SI05出土遺物



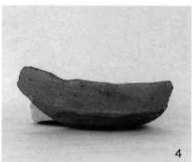
SI06出土遺物



PL14 北若松原遺跡



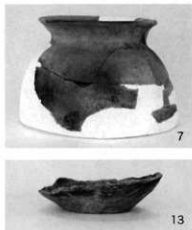
SI08出土遺物



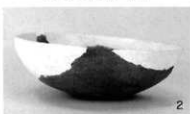
SI09出土遺物



SI10出土遺物 (1)



SI10出土遺物 (2)



SI11出土遺物



SI12出土遺物 (1)

PL 16 北若松原遺跡



10



11



12



13



14



15



16



17



18



22



24



20



21



28



32



36



SI12出土遺物 (3)



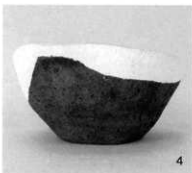
SI13出土遺物



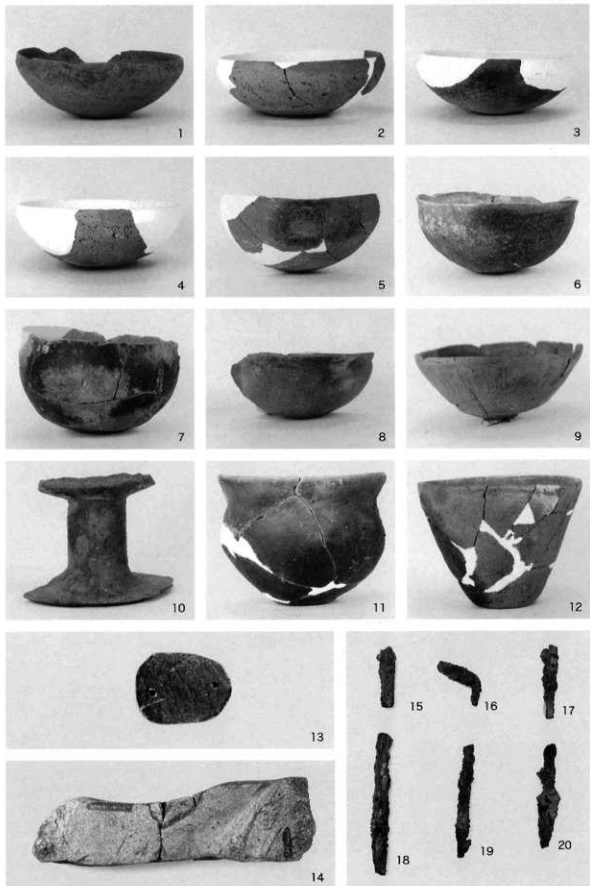
PL 18 北若松原遺跡



SI14出土遺物

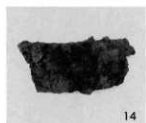


SI15出土遺物



S116出土遺物

PL 20 北若松原遺跡

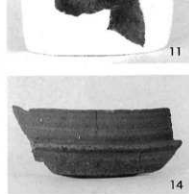
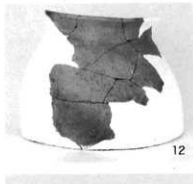
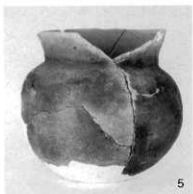


SI17出土遺物



SI18出土遺物

SI20出土遺物

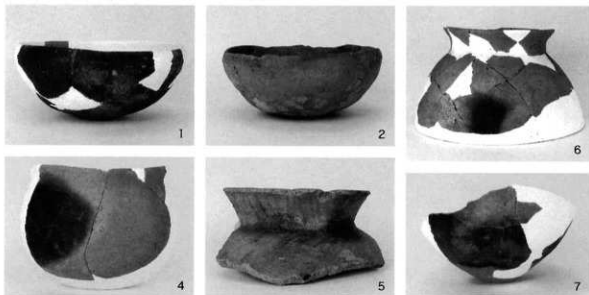


SI19出土遺物

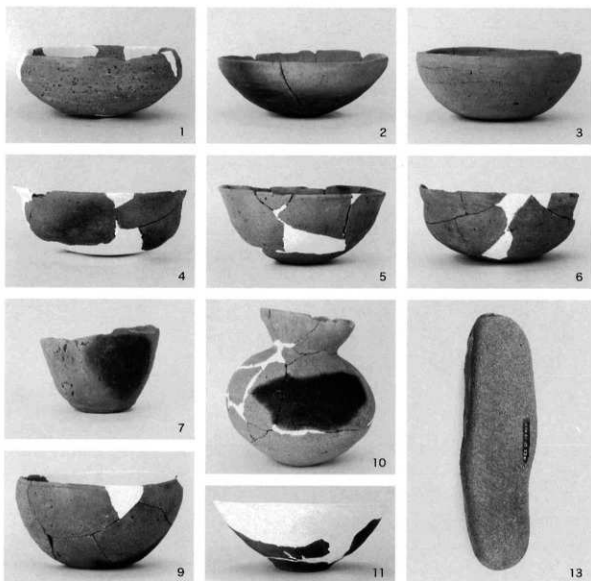


SI21出土遺物

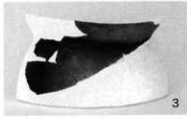
PL 22 北若松原遺跡



SI22出土遺物



SI23出土遺物



SI24出土遺物



SI25出土遺物



SI26出土遺物 (1)

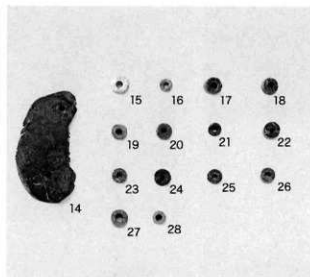
PL 24 北若松原遺跡



6



7



SI26出土遺物 (2)



29



1



2



3



4



5



6



8

SI27出土遺物



2



4



6

SI28出土遺物



SI01土層 (北から)



SI01カマド (南から)



SI01完掘状況 (西から)



SI03完掘状況 (南から)



SI02遺物出土状況 (南から)



SI02完掘状況 (北から)



SI04遺物出土状況 (西から)



SI04柱穴埋土遺物出土状況



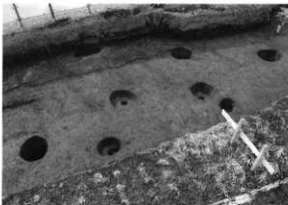
PL 26 若松原南遺跡



SI04カマド遺物出土状況（西から）



SI04完掘状況（西から）



SB01（北東から）



SB03（北東から）



SB02柱穴（北から）



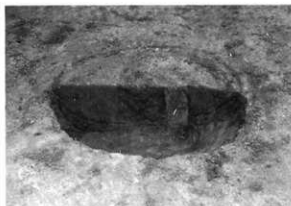
SX01（東から）



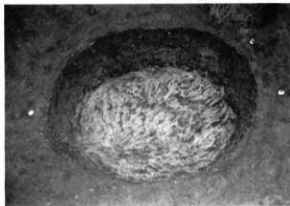
SK02（北から）



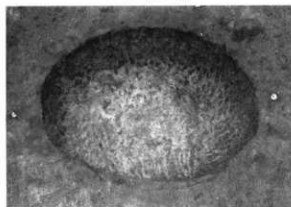
SK03（南から）



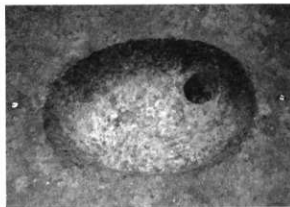
SK05 (南から)



SK08 (南から)



SK12 (南東から)



SK18 (南東から)



調査区全景 (西から)



調査区全景 (東から)

PL 28 若松原南遺跡



1

SI01出土遺物



1



2



7



3



4



5



6

SI04出土遺物

## 報 告 書 抄 録

ふりがな	ぎたわかまつはらいせき わかまつはらみなみいせき
書名	北若松原遺跡 若松原南遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	宇都宮市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第105集
編著者名	梁木 誠 澁谷麻友子 近藤 真
編集機関	宇都宮市教育委員会
所在地	宇都宮市旭1丁目1番5号 Tel.028-632-2764
発行年月日	西暦 2019年(令和元年)12月3日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ぎたわかまつはらいせき 北若松原遺跡	うつのみやし 宇都宮市 わかまつはら 若松原	09201	3226	36度 30分 26秒	139度 51分 58秒	19910402～ 19910510 19930513～ 19931130	3,500	民間の大 型店舗建 設
わかまつはらみなみいせき 若松原南遺跡	うつのみやし 宇都宮市 わかまつはら 若松原	09201	4195	36度 29分 56秒	131度 51分 45秒	20071016 ～ 20080212	1,000	市道拡幅 工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
北若松原遺跡	集落跡	古墳時代 平安時代	竪穴住居跡 28 軒、土坑17基等	土師器、須恵器、 鉄器、石製品等	栃木県中期を代表 する塚山古墳群の 近隣に展開した同 時期の集落跡
若松原南遺跡	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡 7 軒、掘立柱建物 跡3棟等	土師器、須恵器	

---

宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第105集

北若松原遺跡

若松原南遺跡

発行 宇都宮市教育委員会

編集 宇都宮市教育委員会

宇都宮市旭1丁目1番5号

TEL 028-632-2764

発行日 令和元年12月3日発行

印刷 有限会社 印刷親友社

宇都宮市瑞穂3-9-11

TEL 028-656-3655

---